

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

**平成 23 年度～平成 27 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」  
研究成果報告書概要**

- 1 学校法人名 自治医科大学      2 大学名 自治医科大学
- 3 研究組織名 自治医科大学サーカディアン医学研究拠点
- 4 プロジェクト所在地 栃木県下野市薬師寺3311-1
- 5 研究プロジェクト名 サーカディアンメディシンの基礎臨床連携研究拠点
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

## 7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
矢田 俊彦	生理学講座統合生理学部門	教授

- 8 プロジェクト参加研究者数
- 9
- 名

- 9 該当審査区分
- 理工・情報
- 生物・医歯
- 人文・社会

## 10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
矢田俊彦	医学部・教授	摂食・代謝・血圧の概日リズム	摂食・代謝・血圧リズム形成と変調の機構
屋代隆	医学部・教授	下垂体機能(ホルモン分泌)と概日リズム	下垂体ホルモン分泌リズム形成機構の解明
尾仲達史	医学部・教授	ストレス応答と概日リズム	ストレス応答からみた概日リズム障害の解明
藤村昭夫	医学部・教授	末梢時計遺伝子の制御機構	分子機構に立脚した時間治療の確立
石橋俊	医学部・教授	肥満、脂質異常症と概日リズム	脂肪酸の新規機能と診断マーカーとしての検討
遠藤仁司	医学部・教授	ミトコンドリア機能と概日リズム	概日リズムにおけるミトコンドリア機能発現調節
苅尾七臣	医学部・教授	血圧・循環器疾患と概日リズム	サーカディアン循環器学の構築
山形崇倫	医学部・教授	こどもの心身発達障害と概日リズム	自閉症、不登校児の概日リズム障害解明と治療開発
阿部隆明	医学部・教授	気分障害、小児精神疾患と概日リズム	概日リズム障害からみたうつ病の診断法
(共同研究機関等)			

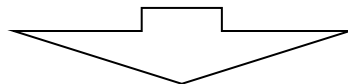
法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 年 月 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

生体機能には、24時間を1周期とする概日(サーカディアン)リズムが備わっている。これまで自治医科大学では、血圧の日内変動の障害と循環器疾患に関する先駆的研究をはじめ、概日リズムの破綻と各種病態生理に関する多くの先進的な研究が行われており、国内外から高い評価を得ている。さらに概日リズムと密接に関連する摂食、ストレスの研究で優れた成果を挙げている。そこで本研究では、これまで得られた知見を発展させ、外的要因を厳密にコントロールできる動物飼育室を設置して生体機能の概日リズム発現と外的要因による修飾機構を解明し、さらに、リズム障害の観点から疾患の成因・診断法を確立し、適正な治療法(時間治療)を開発することを目的とする。以上の研究を推進することにより、サーカディアンメディシンの世界的な基礎臨床連携研究拠点形成を目指す。

本学リニューアル跡地に概日リズム研究に最適の機能をもつ動物飼育室を作成する。ここで動物を飼育し、厳密にコントロールされた条件下で特定の外的要因(偏食・明暗サイクル変動・ストレスなど)を与えて、動物の生理機能と遺伝子発現が如何に変化するかを明らかにする。さらにヒトにおいて、サーカディアンリズム障害と循環器・代謝・精神神経疾患の関連を解析し、リズム障害から観た疾患成因および診断マーカーを探索する。研究は3つのテーマ、(1)中枢機能(摂食・代謝・睡眠・精神神経・下垂体ホルモン分泌)のサーカディアンリズム発現と外的要因による修飾機構の解明、(2)末梢時計の制御・障害機構の解明と時間治療の確立、(3)リズム障害から観た循環器・代謝・精神神経疾患の成因の解明と診断法の確立について、参加研究者の分担と協力により研究を推進する。なお実験医学センターなどの本学既存施設の協力を得て研究を行う。

(2) 研究組織

1. 研究代表者の役割  
サーカディアンリズム解析動物飼育室設置の主導と管理・運営。参加研究チーム間の協力・分担・連携の統括。
2. 各研究者の役割分担  
それぞれの専門性の上にサーカディアンメディシンの視点を据えた研究を実施し、成果を挙げ、さらに基礎-臨床連携の視点から発展させることをめざした。
3. 研究プロジェクトに参加する研究者の人数  
合計 39 名の研究者が参画した。
4. 大学院生・PD及びRAの人数・活用状況  
これまで大学院生 10 名、PD7 名、RA11 名の延べ 28 名が本研究プロジェクトに参加した。
5. 研究チーム間の連携状況

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

幾つかの研究グループでは、サーカディアンメディシンに関する共同研究、基礎～臨床トランスレーショナル研究を実施した。

#### 6. 研究支援体制

学長、副学長の支援を受け、実験医学センター、研究支援課、大学リニューアル推進室、研究代表者・参加者が協力し全学一致した体制で当該研究事業を推進した。

#### 7. 共同研究機関等との連携状況

北海道大学、山口大学、京都大学、金沢大学からサーカディアンリズムの国際的研究者を招き特別講演を行い、その後も技術支援とアドバイスを受け一部の大学とは共同研究を行った。慶應大学から研究者を招きサーカディアンメディシンセミナーを行った。

### (3) 研究施設・設備等

平成23年度には、マウス・ラットの生体機能(行動・摂食・飲水)の24時間連続測定および臓器・細胞機能と遺伝子発現を測定する装置を購入し、正常の概日リズム発現機構の研究、ならびに、ヒトの循環器・代謝・精神神経疾患と概日リズム障害の関連に関する臨床・基礎研究を行った。平成24年度に、本学リニューアル跡地に動物飼育室を設置し、厳密に制御された条件下で特定の外的要因を負荷して概日リズム機能を観察できるようにし、前年度購入の解析装置の一部を連結させ、サーカディアンリズム解析動物飼育・実験室を構築した。平成25～27年度には本サーカディアン実験室を用いて、生活習慣病の要因である偏食・明暗サイクル変動・ストレスなどにより誘発される各種生理機能と遺伝子発現の概日リズム障害を解析した。また、臨床研究により、概日リズム障害の観点からヒト循環器・代謝・精神神経疾患の成因と診断マーカーを探索し、見いだされた候補分子の機能解析を、本サーカディアン実験室を用いた動物実験で進めた。

### (4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び\*を付すこと。

研究プロジェクトの計画や目的・意義と関連づけて、当初の目標をどれだけ達成したか記述するとともに、新たに得られた知見などについても具体的に記述してください。

#### <目標の達成>

1. サーカディアンリズム解析動物飼育室を設置し、測定機器を配備し、外的要因を厳密にコントロールできる精度の高い概日リズム研究施設を整備した。
2. 2013年6月28日に公開シンポジウムを実施し、参加研究グループの成果を発表すると共に、当該領域を代表する研究者(北海道大学時間医学講座 本間さと教授、山口大学時間学研究所 明石真教授)を招き特別講演を行い、研究交流を深めた。
3. 2015年6月8日に公開シンポジウムを実施し、参加研究グループの成果を発表すると共に、当該領域を代表する研究者(京都大学大学院薬学研究科医薬創成情報科学講座 システムバイオロジー分野 岡村均教授、金沢大学医薬保健研究域医学系・分子神経科学・統合生理学分野 櫻井武教授)を招き特別講演を行い、研究交流を深めた。
4. 参加研究チームはそれぞれの専門性の上にサーカディアンメディシンの視点を据えた研究を展開し、着実に研究成果を挙げ、合計261報の英文原著論文発表し、202報の学会発表、13の特許申請をしており、目標を達成した。
5. 肥満、糖尿病、摂食障害、高血圧、発達障害におけるサーカディアンリズム異常を明らかにし、また、基礎～臨床トランスレーショナル研究を進め、それらのうちいくつかはすでに臨床試験の準備段階にあり、臨床応用・社会還元の中で成果を挙げており、今後さらなる成果が期待される。

#### <特筆すべき知見・成果>

1. マウス/ラットの実験で、摂食概日リズムを創出する中枢神経回路(Nesfatin-Oxytocin

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

系)を発見し、その上流制御因子を解明し、それらの異常による肥満・メタボリックシンドロームの発症、さらには Nesfatin-Oxytocin 系への介入による肥満病態改善を明らかにした。また、摂食概日リズム形成に関わる食事/代謝因子、胃腸膵ホルモン、迷走神経求心路の機能と役割を明らかにし、さらに、これらを標的としたリズム障害・肥満・メタボリックシンドロームの改善を示した。これらの成果を論文発表、特許出願した。これを基に、複数の臨床試験を準備中であり、本研究によりヒトの治療応用に向けた基盤を得た。

2. 末梢時計障害と2型糖尿病との関連に関して、分子機序を明らかにしたのみならず、治療法も見出すことができた。現在、ヒトにおいても同様の関連を認めるか否かについて検討中であり、臨床応用に向け研究を進めている。末梢時計に作用する治療薬に関しては複数の薬を見出すことができ、さらに、末梢時計への作用はそれぞれの薬で異なっており、これらの成果は末梢時計治療薬の開発につながるものと期待される。さらに、本研究により「薬の体内時計への影響を考慮した時間治療」という新たな治療法の概念を打ち立てることができた。
3. 概日リズムが報告されているエストロゲンおよび PGC-1 $\alpha$  と PHB2 の関連性を明らかにし、脂肪組織における末梢時計の存在を強く示唆した。さらにミトコンドリアタンパク質 PHB2 を骨格筋特異的に欠失させると、骨格筋においてミトコンドリア機能障害を生じ、FGF21 の遺伝子発現が誘導され、血清 FGF21 が増加することを明らかにした。全身性の FGF21 の増加が、脂肪燃焼の亢進や概日リズムの亢進に影響を与えることが示された。この知見から、ミトコンドリア機能低下を伴うサルコペニアの患者において、血清 FGF21 の増加によって概日リズムが変動する可能性が示唆された。
4. 新規家庭血圧計を用いた多施設レジストリー研究 (J-HOP) 研究により、起床後、就寝前の家庭血圧測定と臓器障害との関連をみたところ、両者とも同様に臓器障害との関連があるが、より起床後の血圧レベルとの関係が強いことが示唆された。また、予後との関連を検討したところ、冠動脈イベントには血圧レベルは無関係であったが、脳卒中イベントに関しては血圧レベルと直線上の関連があり、特に起床後の血圧レベルと関連を認めた。これらの結果よりサーカディアンリズム障害である、起床時の著名な血圧上昇(モーニングサージ)を抑制することが重要であることが示された。
5. 自閉性障害(ASD)患者で、染色体微細構造異常(CNV)と候補遺伝子変異解析を行った。入眠困難、夜間の興奮等を来す兄弟例でモノアミンオキシダーゼ (MAO)A/B の欠失、また、睡眠障害を持つ患者でシナプス足場蛋白 LIN7A 欠失、LIN7B 変異を検出した。日本人 ASD 患者で、睡眠障害を示す患者で、概日リズム関連遺伝子について網羅的に変異の有無を解析し、TIMELESS 変異を検出し、その睡眠相後退の臨床像を明らかにし、マウスで TIMELESS 蛋白の発達期の役割(大脳皮質の神経細胞の移動)を明らかにした。

#### <優れた成果があがった点>

矢田グループは、サーカディアン(概日)リズムは生体固有の振動であり、光と食事摂取に追従してリズムがシフトする(同調)が、その食事摂取自体に日内リズムがあり、摂食概日リズムと呼ばれ、これが広範な生体概日リズム形成に関わっている。本研究の目的は、摂食概日リズムを創出する中枢神経回路、その上流制御系/調節因子、それらの異常と肥満・リズム障害の関連、食事/代謝と概日リズムの連関を仲介する胃腸膵ホルモンおよび迷走神経求心路の機能を明らかにし、さらに、これらを標的としたリズム障害・代謝障害への介入を行うことであるが、これらに関して以下の新知見を得た。

①室傍核神経ペプチド Nesfatin-1-Oxytocin による摂食概日リズム形成:ラットにおいて、室傍核 Nesfatin-1 が概日リズムを示し、これが摂食概日リズムを形成する(\*A37、\*その他 5) 。これらを繋ぐ仲介経路として、室傍核で Nesfatin-1 は Oxytocin の概日リズムを創出し(Nakata M, Endocrinology, in press)、室傍核 Oxytocin ニューロンは弓状核 POMC ニューロンに

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

投射し活性化する(\*A19)。②Nesfatin-1-Oxytocin の上流制御系: 室傍核 Nesfatin-1 ニューロンは、食事/代謝因子のレプチン(\*A15)、グルコース、インスリン(\*A42)により活性化(\*その他 3、\*その他 4)され、また食事応答一次中枢である 弓状核の神経伝達物質 NPY と POMC により相反性制御(\*A17)をうける。また光関連では、視神経-中枢時計 SCN 回路の神経物質 PACAP の制御(\*A31)をうける。室傍核 Oxytocin ニューロンへのシナプス入力も、食事/代謝に依存した制御(\*A4)をうける。③肥満モデルの Zucker-fatty ラットでは Nesfatin-1 リズムが消失し、明期過食を特徴とする摂食リズム障害を呈し、Nesfatin-1 の補充で一部回復(\*A37)する。同様の現象が、高脂肪食負荷肥満マウスの Oxytocin リズムにおいても観察される。④Oxytocin 末梢投与は求心性迷走神経を活性化し、脳にシグナル伝達し、摂食を抑制することを発見した(\*A14)。末梢投与 Oxytocin は、肥満動物の過食・内臓肥満・メタボリックシンドロームを改善する(\*A44、\*その他 1、\*その他 2)。Oxytocin によるリズム障害、肥満、さらには自閉症の治療に有効な投与経路の検討のため、ヒトで用いられる点鼻投与と動物実験成績が集積している腹腔内投与をマウスで比較検討し、両投与ルートが同様に摂食を抑制(\*A13)することを見出した。Nesfatin-1 と BDNF(\*A29、\*その他 9)は共通の神経経路を活性化して肥満を改善する。⑤食後分泌される腸ホルモン GLP-1 のインスリン分泌促進作用の新規機序(、\*A18、\*A21)、摂食抑制作用の新規標的神経を同定(\*A20)した。腸ホルモン PYY・PP(\*A38)および膵ホルモン インスリン(\*A32)・グルカゴン(\*A16)は求心性迷走神経活性化を介して脳に情報伝達する。さらに、インスリンの求心性迷走神経活性化作用は、過食・肥満防止効果(\*A32、\*その他 6、\*その他 7、\*その他 8)を持ち、その作用はインスリン抵抗性動物で減弱し、その作用は 食欲亢進性胃ホルモングレリンにより拮抗(\*A10)される。空腹時の低血糖の感知と食欲創出に、弓状核神経の  $\text{Na}^+\text{K}^+-\text{ATPase}$  が重要な役割を担う(\*A9、\*その他 10、\*その他 11)。⑥希少糖、玄米成分(\*A8)、IL-10(\*A3)投与による摂食リズム障害(明期過食)の是正、肥満改善を明らかにした。

屋代グループは、下垂体濾胞星状細胞(FS細胞)の活動に見られる日内リズムの分子メカニズムを明らかにすることを目指した。下垂体前葉の性腺刺激ホルモン放出ホルモン(GnRH)ニューロンは正中隆起毛細血管にGnRHを放出し、下垂体前葉のLH/FSH放出を促進する。最近、この下垂体門脈系を介した制御系に加え、下垂体隆起部—前葉移行部—前葉内での濾胞星状細胞(FS細胞)間ネットワークによる情報伝達系がLH/FSHの放出促進作用を持っている可能性が見いだされた。我々は共同研究者のHattoriらとともに、GnRH刺激によりラット前葉移行部のFS細胞で一過性の細胞内 $\text{Ca}^{2+}$ 濃度の上昇がみられることを観察し、さらにこのGnRH応答性は午前に採取した試料で観察されたが、午後採取した試料ではみられなかった。しかし、その制御機構及び分子メカニズムは全く分かっていなかった。まず、GnRH神経およびFS細胞の出現時期を免疫組織化学および電子顕微鏡により明らかにした。正中隆起においてFS細胞は生後30日から出現し、同時期にGnRH神経の投射が観察された。これらのことから、「GnRH神経—FS細胞」軸は生後30日あたりに形成されると考えられた(\*B9)。次に、日内リズムにおけるFS細胞のGnRH応答性の分子メカニズムの解析を行った。まず、午前と午後で前葉移行部を採取し、発現している遺伝子をDNAマイクロアレイ解析で比較した。その結果、午後で増加する30遺伝子、減少する28遺伝子を同定した。次に、FS細胞で特異的にGFPを発現するS100b-GFPトランスジェニックラットを用いて単離した下垂体前葉細胞をセルソーターによりGFP陽性細胞(FS細胞)と陰性細胞(FS細胞以外の細胞)に分取し、DNAマイクロアレイ解析でFS細胞特異的に発現する遺伝子を明らかにした。この発現遺伝子プロファイルを用いて、午前と午後で発現が変動する遺伝子群を12遺伝子に絞り込んだ。そして、これらの遺伝子が前葉移行部のFS細胞で発現していることをin situ hybridizationにより明らかにした。

尾仲グループは、神経内分泌系のストレス反応における生体の概日リズムを検討すること

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

が本研究の目的であった。この目的で、神経内分泌系を構成する視床下部の神経ペプチド作動性ニューロンに焦点を合わせ、この神経ペプチド作動性ニューロンに対する入力系を明らかにし、神経ペプチド作動性ニューロンによる行動とストレス反応の概日リズム制御を明らかにすることを旨とした。まず、視床下部のオキシトシン産生ニューロンに発現している受容体を検討した。その結果、オキシトシン産生ニューロンはこれまで明らかになっているカテコラミン受容体のみならず、プロラクチン放出ペプチド(PrRP)受容体、RFRP(RF アミドペプチド関連ペプチド)受容体を発現していた。さらに、PrRP、RFRP 受容体アゴニスト、グルタミン酸受容体アゴニストの投与によりオキシトシン産生ニューロンが活性化され、オキシトシン放出が増加することを見出した(\*C3、\*C15、\*C21)。

オキシトシン産生ニューロンに入力する神経回路に関し、PrRP を共存させている延髄から視床下部への PrRP/ノルアドレナリン線維の上行性投射が、ストレス負荷時のオキシトシン産生ニューロンの活性化と摂食時の活性化を担うことを見出した(\*C8、\*C15)。さらに、この投射の上流に内側扁桃体があること、この内側扁桃体-延髄 PrRP/ノルアドレナリン作動性ニューロン回路が恐怖反応の時に活性化されオキシトシン産生ニューロンを活性化させていることを見出した(\*C8)。この延髄 PrRP・PrRP 受容体系は概日リズムを形成している可能性が考えられた(後述参照)。

オキシトシン産生ニューロンに対する生理的な刺激因子としては、摂食(\*C15)、条件恐怖刺激といったストレス刺激(\*C8)、そして、他個体との接触(\*C1、\*C2)、ペットとの交流(\*C4)があることを見出した。

摂食は、その量が活動期に多く非活動期に少ないという概日リズムが観察される。これとは逆に、摂食時のオキシトシン産生ニューロン活動の反応性は、摂食量の多い暗期にむしろ低下することが明らかになった(\*C15)。オキシトシンの摂食抑制作用を考えると暗期のオキシトシン産生細胞の活動性の低下が暗期の摂食量の増大に寄与している可能性が考えられた。さらに、摂食頻度に概日リズムがあるだけでなく、一回の食事で摂取する量(一回摂食量)にも概日リズムが存在し、暗期(活動期)に多く明期(非活動期)には少ないことが示唆された(\*C15)。

摂食によるオキシトシン産生ニューロンの活性化は、上行性の腹部迷走神経と延髄 PrRP/ノルアドレナリン作動性ニューロンが担っている。従って、この回路を含む経路に概日リズムが存在することが考えられる。この延髄 PrRP/ノルアドレナリン作動性ニューロン経路は、条件恐怖刺激を含むストレス負荷時のオキシトシン産生ニューロンの活性化も担っている。ストレス反応の概日リズムにおいてもこの PrRP 上行性回路が関与している可能性がある。

オキシトシン産生ニューロンの生理的な働きについて、オキシトシン受容体を欠損させた動物を用いたオキシトシン作用の阻害実験を行った。その結果、オキシトシンは暗期(活動期)において摂食を終了させるための信号として働き、暗期における一回当りの摂食量を減少させていることを見出した(\*C15)。さらに、オキシトシンは、投与すると社会的な行動を増加させ(\*C14)、さらに、異種間においても社会的な絆を強める(\*C4)ことを見出した。オキシトシン産生細胞の概日リズムを考えた摂食過多、社会行動異常を伴う精神疾患に対する治療戦略については今後の課題である。さらに、ストレス刺激に対する代謝亢進作用の概日リズムがオキシトシン受容体欠損により変調し、さらにこの変調が加齢と相乗的に働いている可能性を見出した。

また、特定領域のオキシトシン産生ニューロン、バゾプレシン産生ニューロン、PrRP 産生ニューロンをそれぞれ選択的に破壊するための遺伝子改変動物を作製することに成功した。

藤村グループは、末梢時計障害が肥満 2 型糖尿病を惹起する機序として、時計遺伝子 Dbp が脂肪細胞の分化を制御しインスリン感受性に関与すること、遺伝性モデルマウスの脂肪組織では Dbp のヒストンアセチル化レベルが低下していることを見出し、さらに、ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬の投与により末梢時計障害と糖尿病が改善することを明らかにした

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

(\*D24、\*D46)。また、末梢時計を障害する要因の探索を行い、様々な治療薬(糖尿病治療薬\*D11、\*D43、\*D45、降圧薬\*D12、抗癌薬\*D13)にその作用があることを明らかにするとともに、これらの治療薬を適切な時刻に投与すること(時間治療)により末梢時計障害が予防・改善できる可能性を示した(\*その他 22)。

石橋グループは、明暗期および摂食時間の変動が血清および肝臓の脂質、時計遺伝子や脂質代謝関連遺伝子群の発現リズムにどのような影響を与えているのかを検討した。血清および肝臓の脂質の概日リズムにおける光刺激および摂食刺激の影響を調べた結果、正常な明暗期(明期 12 時間-暗期 12 時間)で飼育されたマウスでは血清および肝臓中のトリグリセライド(TG)は概日リズムを刻むが、常に明期の条件下で飼育したマウスではこの概日リズムは消失した。しかし、消失した肝臓中 TG の概日リズムは常に明期の飼育条件下において夜間帯のみに摂食させることで、その概日リズムは改善した。また、肝臓における時計遺伝子 (*Clock*, *Bmal1*, *Cry1*, *Per1*) および脂質代謝関連遺伝子群 (*DGAT1*, *DGAT2*, *HMG-CR*, *FAS*, *NCEH1*, *HSL*, *ATGL*, *SREBP-1c*, *SREBP-2*, *LXR*  $\alpha$  *PPAR*  $\alpha$ ) の発現リズムへの影響も検討した。その結果、常に明期の条件下で飼育したマウス肝臓ではこれら遺伝子の発現リズムは減弱または消失していたが、明期飼育条件下に夜間帯のみ摂食させることで、時計遺伝子では *Clock*, *Bmal1*, *Cry1*、脂質代謝遺伝子では *DGAT2*, *HMG-CR*, *FAS*, *NCEH1*, *ATGL*, *PPAR*  $\alpha$  の発現リズムが顕著に改善していた。以上の結果から、時計遺伝子および脂質代謝関連遺伝子の概日リズムは光刺激および摂食刺激による制御を受けており、肝臓におけるこれら遺伝子の発現リズムは摂食刺激の要因が大きい可能性が示された。

遠藤グループは、脂肪組織や骨格筋等の末梢組織におけるミトコンドリア機能と末梢時計調節機構との関連を明らかにすることを目標とした。ミトコンドリアは生体内の大部分のエネルギーを産生しており、生体の代謝機能はミトコンドリアに大きく依存する。よって、生体の末梢時計の調節には、ミトコンドリア機能が大きく関与すると思われる。そこで、ミトコンドリア機能やエネルギー産生を適正に保つために必要なタンパク質の研究を進め(\*F1、\*F3-\*F8、\*F10、\*副次的効果 7、\*副次的効果 12)、本研究では特にミトコンドリアの種々の機能を調節する PHB2 タンパク質を中心に解析した。概日リズムを有する性ホルモンエストロゲンが、脂肪細胞においてミトコンドリアタンパク質 PHB2 を核へ移行させることを見出し(\*F11、\*副次的効果 8、\*副次的効果 9、\*副次的効果 10)、さらに核内に移行した PHB2 がコアクチベーター PGC-1  $\alpha$  活性を阻害して脂肪分化を抑制することを報告し、権利化した(\*副次的効果 11)。また、PHB2 の臓器特異的な条件付きノックアウト(CKO)マウスを作製し、脂肪組織あるいは骨格筋でミトコンドリア機能を低下させたところ、いずれも痩せの表現型を示した。脂肪特異的 CKO マウスでは、全身性の脂肪萎縮を原因とするリポジストロフィーの症状を示した。一方、骨格筋特異的 CKO マウスにおいては、筋萎縮を伴いながらも耐糖能の改善と脂肪量の減少を示した。酸素消費モニターによる概日リズムの検討では、脂肪特異的 CKO マウスにおいて呼吸商の振幅の抑制が認められたが、骨格筋特異的 CKO マウスでは呼吸商の振幅の顕著な増大が認められ、代謝リズムが亢進していた。以上の結果から、ミトコンドリアの機能障害が生じる臓器の差異によって、痩せの表現型を示す機序が異なり、末梢時計にも異なる影響を与えることが明らかになった。特に、骨格筋特異的 CKO マウスではミトコンドリア機能障害を起因とする骨格筋由来 FGF21 発現の増加が認められ、骨格筋で発現した FGF21 が中枢性の概日リズムを調節する可能性を示した。

苅尾グループは、夜間血圧の測定が可能な新規家庭血圧計(Medinote)を用いた多施設レジストリー研究 Japan Morning Surge-Home Blood Pressure Study (J-HOP) を行い、家庭で測定した夜間血圧を含めた 24 時間血圧管理が、心血管イベントと如何に関連するかを検討

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

した(\*G23、\*G45)。起床後と就寝前の家庭血圧測定と臓器障害との関連を調べ、起床後の血圧レベルが臓器障害との関係が強いこと、予後に関しては脳卒中イベントと直線上の関連があることを示した。これらの結果よりサーカディアンリズム障害である、起床時の著名な血圧上昇(モーニングサージ)を抑制することが重要であることを示した。また、閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)の無呼吸発作時における、著明な血圧上昇(スリープサージ)を捉える夜間トリガー家庭血圧計と3Gを用いた評価システム Sleep Pressure Monitoring-1(SP1)を開発し、本装置を用いた多施設レジストリー研究 Sleep Pressure and disordered breathing in Resistant Hypertension And cardiovascular Disease (SPREAD)を開始し、現在まで1000名以上の症例を登録し、加えてサーカディアンリズムを考慮した降圧療法でスリープサージの抑制が可能かどうかを検討した(\*その他 24)。OSAS患者においてスリープサージの抑制を、就寝前のカルシウム拮抗薬投与または $\beta$ 遮断薬投与とで比較したところ両者とも抑制効果に有用であることがわかった(\*G47)。

山形グループは、自閉性障害(ASD)および不登校児の概日リズムの障害を解明し、治療法開発に繋げることを目的として、以下の研究を実施した。

ASD患者では、睡眠障害を伴う患者が多く、ASD病因遺伝子が睡眠障害も起こしている可能性、概日リズム関連遺伝子の変異がASDと睡眠障害の両者を惹起する可能性、ASD関連遺伝子と概日リズム関連遺伝子両者に変異があり多因子遺伝で両症状を発症する可能性、等が推察される。よって、ASD患者で、特に睡眠障害を持つ患者を中心として病因遺伝子の検索を行うと共に、概日リズム関連遺伝子の変異の有無を解析した。

①まず、ASD患者で、染色体微細構造異常(CNV)と候補遺伝子変異解析を行った。親権者からインフォームドコンセントを得たASD患者から採血し、リンパ球分離し、DNAを抽出。Agilent SurePrint G3 CGH 4x180Kのアレイ (Agilent社)を用い、CNVを検出した。検出したCNV領域に局在する遺伝子の機能を調べ、ASD候補遺伝子を同定した。さらに、これらの候補遺伝子に対し、他の患者で病因となる塩基変異がないかを、全エクソンおよび近傍のイントロンをPCR増幅し、直接シーケンス法で変異解析し、複数のシナプス関連遺伝子に変異を同定した。サーカディアンとの関連では、入眠困難、夜間の興奮等を来す兄弟例でモノアミンオキシダーゼ(MAO)A/Bの欠失を検出した(\*H10)。また、睡眠障害を持つ患者で検出された欠失部位にシナプス足場蛋白であるLIN7Aが局在していたことから、LIN7Aの機能解析を行い、シナプスで重要な機能を有することを示した(\*H9)。同様に、LIN7Bの重複、あるいは変異を持つ患者を同定し、LIN7Bが脳機能に重要な作用を有することを示した(\*H5)。

②日本人ASD患者で、睡眠障害を示す患者と睡眠障害示さない患者各14名と日本人コントロール23名を対象として、次世代シーケンサー(454 GS junior sequencer (Roche))を用い、18個の概日リズム関連遺伝子について、網羅的に変異の有無を解析した。検出された変異は、3730XL シーケンサー (Applied Biosystems, Foster, CA)を用いた直接シーケンス法で確認した。検出された変異について、日本人コントロール100名での有無を解析するとともに、Phenotyping v2 (PolyPhen-2)、SIFT および mutation taster で変異の蛋白機能への影響を検討した。33種類のミスセンス変異を11種類の遺伝子に検出した。ミスセンス変異の中で、ASD群にのみ変異が検出され、コントロールで検出されなかった変異として、グループAの6人に6個の遺伝子の7種類の変異があった。同様に、グループBでは7人に6個の遺伝子の7種類の変異があった。PER3のp.R493Cは両グループで検出された。一方、コントロールでのみ検出され、ASD群では検出されなかった変異は23検体のコントロールに1種類の変異のみであり、睡眠障害の有無に関わらず、ASD群で変異の検出率が高く、概日リズム関連遺伝子のASDの病態への関与が示唆された(\*H1)。ASD患者でのみ検出された遺伝子変異のタンパク質機能への影響を解析した結果、PolyPhen-2ではPER2のp.P1228A、PER3



法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

の p.R366Q、TIMELESS の p.F498S と p.A325T が probaby damaging と判定された。SIFT では、PER3 の p.R366Q と TIMELESS の p.F498S が damaging と、mutation taster では、NR1D1 の p.S20R、CLOCK の p.H542R、ARNTL2 の p.L473S、ARNTL の p.S13T、PER3 の R366Q、TIMELESS の p.F498S、p.A325T が disease causing とされ、蛋白機能へ影響を来し、疾患発症の可能性があるとの結果であった(\*H1)。

③これらの変異について、順次、患者解析および機能解析を開始した。TIMELESS p.F498S 変異が検出された患者は、睡眠相が後退し、5-7 時頃に入眠し、昼過ぎに起床する生活が乳児期から続いており、また、低身長、消化器症状等を合併していた。同様に、睡眠障害、こだわりと低身長を示す母にも同変異が検出され、ASD 症状および睡眠障害と関連する可能性が考えられた。これらの母子では、メラトニン分泌のピークが後退しており、また、光照射で変位しなかった。TIMELESS のマウス脳での発現解析の結果、胎児期脳に強く発現し、生後も神経細胞に発現していることが確認された(\*H3)。また、マウス胎児子宮内エレクトロポレーション法による *Timeless* の F498S 変異の挿入により、発達期の大脳皮質の神経細胞の移動障害を認めた。NR1D1 は、マウス胎児子宮内エレクトロポレーション法で、発現抑制した結果、大脳皮質の神経細胞の移動障害を認め、神経系の発生に重要な作用を有することが示された。また、*Nr1d1* の p.S20R 変位を導入した遺伝子は神経細胞の移動障害を改善せず、蛋白機能が障害されていることが示された。他の ASD 患者において、NR1D1 の変異解析を行った結果、さらに 3 例で 3 種類のミスセンス変位が検出され、コントロールでは検出されなかった。これらの変位に関して、家系解析等、疾患との関連を解析中である。これらの解析結果、*Timeless* の F498S 変異、NR1D1 の p.S20R 変異は、ASD と睡眠障害両者に関連する可能性が示唆された。また、NR1D1 の p.S20R 変異を持つ患者では、NR1D1 変異は無症候の父から由来し、無症候の母から由来した SHANK2 の変異を有していた。NR1D1 と SHANK2 両者の機能低下により、神経細胞機能がさらに低下することが考えられ、ASD が複数の病因遺伝子の機能変化から発症する oligogenic model も推定される。

阿部グループは、摂食障害の病態に関して、後方視的な病歴調査により、睡眠障害合併群は非合併群に比べアルブミン値が有意に低く、また排出行為がより高率であることが判明した。摂食障害における睡眠障害の背景には低栄養状態に加え、不規則な栄養摂取が存在する可能性が示唆された。この点も踏まえて、当科の摂食障害の心理教育プログラムを改正した。

#### <問題点>

1. 代謝、行動、遺伝子発現などの概日リズムの測定は、研究者が頻繁に出入りし明期/暗期が固定されている一般の飼育環境では難しかった。本研究助成により設置したサーカディアンリズム解析動物飼育室はこれを解決し、精度の高い概日リズム研究が可能となった。一方、研究期間中に利用者が増え、長期実験も多いため、利用の調整が新たな問題となっている。
2. 体内時計障害の機序解明や治療法開発を重点的に推進してきたため、スクリーニング系 (in vitro, in vivo) の開発が遅れている。今後はこれを推進していく予定である。
3. J-HOP 研究で評価された夜間血圧が将来的な心血管イベントに直結するかどうかは不明であるが、予後をフォローして明らかにしてゆく。SPREAD 研究で評価された SP-1 を用いた睡眠時血圧評価が、実際に心血管リスクや予後と関連するかどうかは不明であるが、予後をフォローして明らかにする。
4. これまでの研究結果から予測されるミトコンドリア DNA の概日リズムと末梢臓器の概日リズムの調節機構は、未だ仮説の段階である。今後これを検証するために、PHB2 の遺伝子改変動物を作製し、種々の概日リズムを検討する予定である。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

5. 起立性調節障害(OD)や不登校児とサーカディアン異常の解析には、より多くの症例が必要であることが判明し、今後臨床情報と検体のさらなる集積を行う。
6. 当初計画していたマイクロダイアリス法を用いたマウスの皮下脂肪と内臓脂肪における lipolysis 評価については、プローブの固定が容易でないため方法が確立できなかった。

#### <評価体制>

(研究プロジェクトの目標等に照らした自己評価の実施や、その結果を研究費等の資源の配分へ反映させるためのルールの適切な設定、また、本プロジェクトに係る費用対効果(かけた費用に見合う効果が見られるか)について、どのように分析しているか。また、それらについて、外部(第三者)による評価を受ける体制ができているか等について記述してください。)

1. 審査付き英文雑誌への原著論文発表、学会発表および特許申請の成果により、客観的に評価した。
2. 本プロジェクト参加研究者による自己評価を行った。
3. サーカディアンメディシンに関する専門家に外部評価を依頼し、その結果をフィードバックした。
4. 各年度末に研究進捗報告会を実施し、数名の委員による評価採点を行い、その結果を次年度の研究費の配分に反映させた。
5. 本プロジェクト事業において、3年目の中間報告会を兼ねた公開シンポジウム、5年目の最終年度報告会を兼ねた公開シンポジウムでは、他大学からの参加者も多く、極めて活発なディスカッションが行われ、国際的なサーカディアン研究者である招待講演者からも高い評価をうけたことから、客観的に評価されたものと考えられる。

#### <研究期間終了後の展望>

(本プロジェクト終了後における研究の継続の有無、有の場合は今後の研究方針、無の場合は当該研究施設・装置・設備の活用方針を記述してください。)

本プロジェクト終了後もサーカディアンメディシン研究を強力に継続する。特に重点を置く研究対象として、リズム障害を伴う肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、摂食障害、発達障害/自閉症の成因となる末梢/中枢時計遺伝子異常、摂食・代謝・循環・自律神経・内分泌・ミトコンドリア機能のリズム異常の分子機構を特定し、疾患診断マーカーとしての確立、さらにこれらを標的とした新規の治療介入をめざす。さらに、本プロジェクトで発見された概日リズム分子機構の生理的・病態的意義の解明と治療的応用をめざす。そのため、それらの責任分子発現細胞/ニューロンを光遺伝学の方法により特異的に活性化し、その作用を細胞・組織・臓器システム連関レベルで解析する研究を立ち上げる。さらに、本プロジェクトの成果に基づく臨床試験を複数すでに準備しており、今後これらを実施し、臨床応用を図る。このように、本プロジェクトを継承、発展させ、我が国のみならず世界的なサーカディアンメディシン基礎臨床研究拠点の確立を目指す。

#### <研究成果の副次的効果>

(研究成果の活用状況又は今後の活用計画(実用化・企業化の見通しや、特許の申請があればその申請状況・取得状況等)について、記述してください。)

#### 【特許申請】

1. 出願国: 国内; 出願番号: 2011-271652; 発明者: 矢田俊彦、前島裕子、岩崎有作; 発明名称: 肥満・メタボリックシンドローム治療薬、及びその動物の治療方法; 出願日: 2011年12月12日出願
2. 出願国: 国内; 出願番号: 特許第5829074号; 発明者: 矢田俊彦、栗田英治、シューカイ; 発明名称: 食欲亢進用治療剤、治療薬、食欲抑制用治療剤、及び食欲抑制用細胞製剤の製造方法; 出願日: 2015年10月30日登録

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

3. 出願国:国内;出願番号:特願 2014-019965;発明者:矢田俊彦、岩崎有作、木村友紀、大隈一裕;発明名称:満腹感持続剤および満足感を維持する方法;出願日:2015年2月5日出願
4. 出願国:国内;出願番号:特願 2015-149634;発明者:矢田俊彦、岩崎有作、原博、比良徹、岸本由香、南真知子;発明名称:GLP-1分泌促進剤;出願日:2015年7月29日出願
5. 出願国:国内;出願番号:特願 2015-211022;発明者:矢田俊彦、出崎克也;血糖恒常性を維持するための医薬組成物;特許、出願日:2015年10月27日出願
6. 出願国:国内;出願番号:特願 2016-001810;発明者:矢田俊彦、田口昌延、出崎克也;治療用組成物;特許、出願日:2016年1月7日出願
7. 出願国:国内;出願番号:特許第4920239号;発明者:遠藤仁司;発明名称:ミトコンドリア膜タンパク質群およびそれらをコードする遺伝子群;出願日:2012年2月10日登録(\*副次的効果7)
8. 出願国:国内;出願番号:特許第4901753号;発明者:遠藤仁司、笠嶋克巳;発明名称:プロヒビチン2(PHB2)のミトコンドリア機能;出願日:2012年1月13日登録(\*副次的効果8)
9. 出願国:US;出願番号:8,153,362 B2;発明者:Hitoshi Endo and Katsumi Kasashima;発明名称>Title: Mitochondrial function of prohibitin 2 (PHB2);出願日:04/10/2012(\*副次的効果9)
10. 出願国:US;出願番号:8,465,913 B2;発明者:Hitoshi Endo and Katsumi Kasashima;発明名称>Title: Mitochondrial function of prohibitin 2 (PHB2);出願日:18/06/2013(\*副次的効果10)
11. 出願国:国内;出願番号:特許第5808904号;発明者:遠藤仁司;発明名称:プロヒビチン2とPGC1 $\alpha$ との結合を用いた脂肪分化調節剤のスクリーニング方法;出願日:2015年9月18日登録(\*副次的効果11)
12. 出願国:国内;出願番号:特許第5891561号;発明者:遠藤仁司;発明名称:ミトコンドリア膜タンパク質群およびそれらをコードする遺伝子群;出願日:2016年3月4日登録(\*副次的効果12)
13. 出願国:国内;出願番号:特願 2011-115846;発明者:白崎修、渡邊孝史、桑原光巨、苅尾七臣、;発明名称:血圧測定装置;出願日:2011年5月24日出願

#### 【産学連携】

武田薬品工業株式会社、株式会社ツムラ、小野薬品工業株式会社、松谷化学工業株式会社と共同研究を実施した。

#### 【研究成果の活用の見通し】

本研究の成果として、マウス/ラット及びヒトにおいて過食、肥満、糖尿病、高血圧とサーカディアンリズム障害の密接な関連が明らかにされてきた。今後、責任臓器・細胞・分子の解析を進め、またヒトの臨床研究を実施し、これらの疾患の成因としてのサーカディアンリズム障害を確立する。さらに、これらの疾患に対する“サーカディアン”診断法、“サーカディアン”(食事・睡眠)介入法の開発を目指す。その結果、国民病ともなっているこれらの生活習慣に対する、全く新しい視点の予防・治療法の開発に繋がることが予想される。

自閉症などの発達障害、摂食障害、ストレス疾患は、成因の解明および治療法が立ち遅れている。本研究はサーカディアンリズムというユニークな視点から、それらの成因に関して多くの新しい発見をもたらした。今後、これらを標的とした新規診断・治療法の開発に繋がることが期待される。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) サーカディアンメディスン      (2) 概日リズム      (3) 時計遺伝子  
(4) 摂食      (5) 肥満      (6) 血圧  
(7) 糖尿病      (8) 発達障害

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付すこと。

<雑誌論文>

論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年(西暦)について記入してください(左記の各項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

※別添表参照

<図書>

図書名、著者名、出版社名、総ページ数、発行年(西暦)について記入してください(左記の項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

※別添表参照

<学会発表>

学会名、発表者名、発表タイトル、開催地、発表年月(西暦)について記入してください(左記の項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

※別添表参照

<研究成果の公開状況>(上記以外)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

※ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

<既に実施しているもの>

1. 自治医科大学 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム2013(2013年6月28日 開催)
2. 自治医科大学 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム2015(2015年6月8日 開催)

(URL: <http://www.jichi.ac.jp/kenkyushien/strategic/circadian.html>)

<これから実施する予定のもの>

なし

#### 14 その他の研究成果等

「13 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果、企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには下線及び\*を付してください。

※ 論文や学会発表等になじまない研究である場合は、本欄を充実させること

1. 矢田俊彦:日本経済新聞 2011年12月21日[母乳出させるホルモン]肥満を防ぐ作用(\*その他 1)
2. 矢田俊彦:読売新聞 2011年12月25日脳内ホルモンで体重減少(\*その他 2)
3. 矢田俊彦:日本経済新聞 2012年3月25日満腹感仕組み解明へ前進(\*その他 3)
4. 矢田俊彦:読売新聞 2012年5月2日満腹感2物質が働き(\*その他 4)
5. 矢田俊彦:(株)マイナビニュースHP 2013年4月16日体内時計の障害が肥満における摂食リズム障害の一因となる(\*その他 5)
6. 矢田俊彦:時事通信 2013年6月27日膵臓神経から脳へ=インスリン感知に新ルート—増強剤で肥満治療も—(\*その他 6)
7. 矢田俊彦:日本工業新聞 2013年6月28日膵臓分泌のインスリン、神経経由で脳に情報—自治医大が発見—(\*その他 7)
8. 矢田俊彦:朝日新聞 2013年7月15日インスリン新たな経路発見(\*その他 8)
9. 矢田俊彦:下野新聞 2013年10月9日肥満・糖尿病治療に光、ラットでメカニズム解明、脳内物質が内蔵脂肪減—自治医大・矢田教授ら(\*その他 9)
10. 矢田俊彦:日経産業新聞 2015年7月6日脳内酵素、食欲を低減、副作用少ない薬開発に光、自治医大など仕組み解明(\*その他 10)
11. 矢田俊彦:日本経済新聞 2015年7月6日食欲調整酵素のしくみを解明、自治医大など(\*その他 11)
12. 尾仲達史、高柳友紀、吉田匡秀:下垂体後葉ホルモンとストレス・摂食・社会行動. 創薬薬理フォーラム第21回シンポジウム(東京)2013年9月19日~20日
13. 尾仲達史:心身ストレスとその機序. 生体機能の理解にもとづく災害ストレス支援の推進事業第1回シンポジウム(東京)2013年11月12日
14. 尾仲達史:「もう一度ふれあいたい!? 夫婦のスキンシップ」NHK あさイチ 2014年4月2日放映
15. 尾仲達史:脳内ホルモン オキシトシン 心身に安らぎ. 日本経済新聞、2014年7月13日掲載

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

16. 尾仲達史:ストレスと下垂体後葉ホルモン. 第 6 回耳鼻咽喉科心身医学研究会(東京) 2014 年 10 月 4 日
17. 尾仲達史:神経内分泌系の条件恐怖反応の神経回路.平成 26 年度生理学研究所研究会「感覚刺激・薬物による快・不快情動生成機構とその破綻」(岡崎) 2014 年 10 月 7 日～8 日
18. 尾仲達史:“絆”をつくるホルモン「オキシトシン」. すこやかファミリー 690 号:18-19, 2014
19. 尾仲達史:脳内ホルモン オキシトシンの効果. スキンシップとの関係は? Rec-site 8: 2-4, 2015
20. 尾仲達史(協力):犬と人の絆を深めるハッピーホルモン「オキシトシン」, Gazette No.644:8-11, 2015
21. 尾仲達史:温かいふれあいは、オキシトシンの分泌を促す. Rec-site 9:5, 2015
22. 藤村昭夫:時間治療学 就寝時に飲んだほうがよい降圧薬の ABC. 日刊ゲンダイ 2013 年 6 月 14 日(\*その他 22)
23. 藤村昭夫:時間治療(3)骨粗鬆症. 薬学の時間, ラジオ NIKKEI 2014 年 5 月 20 日放送
24. 苅尾七臣:朝日新聞 2015 年 8 月 5 日 睡眠時無呼吸そのとき血圧上昇 自治医科大など研究 160 以上 3 割、200 超す人も(\*その他 24)

#### 15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項とそれへの対応

##### <「選定時」に付された留意事項>

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

これまでの研究背景から、計画の達成度は1、3(テーマ番号)で高い。2はやや期待薄。本研究の目標が達成されたときの具体的な疾患への波及効果の範囲や規模を見極める視点を取り入れて、研究を遂行されたい。

##### <「選定時」に付された留意事項への対応>

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。

留意事項に対し、テーマ番号2では、サーカディアン研究の実績を持つ研究室においては、末梢時計遺伝子 Dbp が脂肪細胞の分化を制御しインスリン感受性に関与することを発見したのに留まらず、その障害が肥満・2型糖尿病の成因かつ治療標的となる事を明らかにし、今後の臨床展開の基盤を気付く成果を挙げた。また、本研究で初めてサーカディアン研究に参入した研究室においては、ミトコンドリアと概日リズムの研究を開始し、ミトコンドリアの種々の機能を調節する PHB2 タンパク質が、概日リズムを有する性ホルモンエストロゲンにより制御され、脂肪細胞においてミトコンドリアから核への移行を見出し、さらに核内移行 PHB2 がコアクチベーターPGC-1 $\alpha$ 活性を阻害して脂肪分化を抑制することを報告し、権利化した。また、PHB2 の臓器特異的な条件付きノックアウト(CKO)マウスを作製し脂肪細胞と骨格筋細胞の著明な代謝変化を見だし、疾患モデルとなる可能性を見だし、成果を上げている。

##### <「中間評価時」に付された留意事項>

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

夫々のチームの活動度はあがって来た。しかし、リズムの調整だけではなくその破綻と、疾患の因果関係を明らかにすることが重要である。

##### <「中間評価時」に付された留意事項への対応>

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

研究全体会議や発表会において、「リズムの調整から、その破綻と疾患の因果関係にまでステップアップする」ことを徹底して後半の研究を行い、生理→病態生理→臨床の展開を大きく進める事が出来、以下のような具体的成果が得られた。(1)摂食リズムを創出する神経ペプチド回路の解明のステージから、その回路のノックダウンによる過食・肥満の誘導、肥満・メタボリックシンドローム動物におけるその回路の障害を明らかにし、病態生理学的ステージに進めた。さらには低下したペプチドの補充による摂食リズム障害・過食の改善を示し、過食・肥満・メタボリックシンドロームの治療介入標的としての展開に道筋をつけた。(2)末梢時計遺伝子 Dbp が脂肪細胞の分化を制御しインスリン感受性に関与すること、その障害が肥満2型糖尿病の成因かつ治療標的となる事を明らかにした。(3) げっ歯類の実験成果をもとにすでに複数の臨床試験を準備中である。

(様式2)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

## 16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 担 負	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他( )	
平成 23 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	144,938	48,455	96,483				
	研究費	36,000	18,002	17,998				
平成 24 年度	施設	25,305	12,653	12,652				
	装置	0						
	設備	58,019	19,691	38,328				
	研究費	36,000	18,038	17,962				
平成 25 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	36,000	19,482	16,518				
平成 26 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	36,000	18,517	17,483				
平成 27 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	36,000	18,323	17,677				
総 額	施設	25,305	12,653	12,652	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	202,957	68,146	134,811	0	0	0	0
	研究費	180,000	92,362	87,638	0	0	0	0
総 計	408,262	173,161	235,101	0	0	0	0	

※ 最終年度は予定額。



法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

## 17 施設・装置・設備の整備状況（私学助成を受けたものはすべて記載してください。）

《施設》（私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。）（千円）

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
サーカディアンリズム解析動物飼育室	平成24年度	117m <sup>2</sup>	7	177	25,305	12,652	私学助成
実験医学センター	昭和62年	4503m <sup>2</sup>	61	24	0	0	

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

117 m<sup>2</sup>

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）

（千円）

装置・設備の名称	備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
(研究設備)							
マウス摂食飲水運動量測定装置	平成23年度		1	7,304 h	40,677	27,118	私学助成
ラット摂食飲水運動量測定装置	平成23年度		1	5,804 h	40,677	27,118	私学助成
ホームケージ行動測定システム	平成23年度		1	6,000 h	7,465	4,976	私学助成
レーザーマイクロダイセクション装置	平成23年度	LMD7000-5	1	500 h	26,913	17,942	私学助成
超高感度蛍光画像取得装置	平成23年度		1	2,864 h	8,500	5,666	私学助成
ライトサイクラーDX 400	平成23年度	DX400TL	1	1,280 h	5,374	3,582	私学助成
血小板凝集測定装置	平成23年度	PA-200C	1	1,056 h	5,722	3,815	私学助成
HSオールインワン蛍光顕微鏡	平成23年度	BZ-9000	1	144 h	9,610	6,266	私学助成
イノラック・イノケージ(IVCケージ)	平成24年度		1	20,400 h	48,825	32,199	私学助成
ルミノ・イメージアナライザー ImageQuant LAS 4010	平成24年度	28-9589-28・28-9564-49・28-9564-62	1	280 h	9,194	6,129	私学助成
(情報処理関係設備)				h			

## 18 研究費の支出状況

（千円）

テーマ番号1: 中枢機能の概日リズム発現と外的要因による修飾機構の解明

年 度	平成 23 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
		主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	8,750	研究用消耗品	8,750
旅 費 交 通 費	8	研究会参加旅費	8
( )			
計	8,758		8,758
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)			
教 育 研 究 経 費 支 出			
計	0		0

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	2,342	サンプル保管、実験用機器	473	バイオフィリーザー(R2301-723)
			592	製氷機 FM-120K(R2301-737)
			465	蒸留水製造装置一式(R2304-731)
			812	薬用保冷库 2台
図 書				
計	2,342		2,342	

研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	2,230	ネスファチンに関する研究	1,115	学内1人
		グレリンに関する研究	1,115	学内1人
ポスト・ドクター	3,241	グレリンに関する研究	3,241	学内1人
研究支援推進経費				
計	5,471		5,471	学内3人、

テーマ番号1: 中枢機能の概日リズム発現と外的要因による修飾機構の解明

年度 平成 24 年度				
小科目	支出額	積算内訳		
		主な用途	金額	主な内容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	10,696	研究用消耗品	10,696	試薬(3,881)、器具(4,152)、実験動物(1,808)、その他(855)
旅費交通費	66	研究会参加旅費	66	シンポジウム参加旅費、学会参加旅費
報酬・委託料	690	検査・解析委託	690	LC-MS/MS分析、塩基配列解析、英文校閲
( )				
計	11,452		11,452	

アルバイト関係支出				
人件費支出 (兼務職員)	742	研究補助	742	時給 820円、年間時間数 853時間 実人数 1人
教育研究経費支出				
計	742		742	

設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	206	実験・研究用機器	206	MINUCELLS 13mm6層パフェーション
図 書				
計	206		206	

研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	2,216	グレリンに関する研究	1,046	学内1人
		摂食リズムに関する研究	1,170	学内1人
ポスト・ドクター	6,396	グレリンに関する研究	3,156	学内1人
		摂食リズムに関する研究	3,240	学内1人
研究支援推進経費				
計	8,612		8,612	学内4人

テーマ番号1: 中枢機能の概日リズム発現と外的要因による修飾機構の解明

年度 平成 25 年度				
小科目	支出額	積算内訳		
		主な用途	金額	主な内容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	7,648	研究用消耗品	7,648	試薬(2,636)、器具(1,695)、実験動物(1,259)、その他(2,058)
通信運搬費	216	運搬費	216	実験動物輸送費
印刷製本費	50	印刷費	50	シンポジウムポスター印刷費用
旅費交通費	107	シンポジウム旅費	107	シンポジウム学外講師旅費
報酬・委託料	779	謝金、研究委託費用	779	シンポジウム学外講師謝金、RNA解析委託費用
賃借料	21	宿泊費	21	シンポジウム学外講師宿泊費用
雑費	25	シンポジウム関連費用	25	シンポジウム学外講師弁当・休憩時飲料
( )				
計	8,846		8,846	

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	2,215	研究補助	2,215	時給 820円, 年間時間数 1,967時間 実人数 1人
教育研究経費支出				
計	2,215		2,215	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	2,339		548	卓上多本架遠心機、 運動量測定装置一式
図書			1,791	
計	2,339		2,339	
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	2,263	インスリン分泌制御機構の解明	598	学内1人
		血圧調節作用	598	学内1人
		食欲不振のメカニズムとその作用機構の解明	598	学内1人
		抗肥満・メタボリックシンドローム効果の解析	470	学内1人
ポスト・ドクター	3,179	Nesfatin-1の生理的役割の解明	3,179	学内1人
研究支援推進経費				
計	5,442			学内5名

テーマ番号1: 中枢機能の概日リズム発現と外的要因による修飾機構の解明

年 度	平成 26 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	5,414	研究用消耗品	5,414	試薬(770)、器具(1,750)、実験動物(1,306)、その他(1,588)
通信運搬費	1	運搬費	1	試料運搬費
報酬・委託料 ( )	201	謝金、研究委託費用	201	研究セミナー・学外講師謝金、実験室感染検査委託費用
計	5,616		5,616	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	2,313	研究補助	2,313	時給 820円, 年間時間数 1,080時間 実人数 1人
教育研究経費支出				時給 950円, 年間時間数 841時間 実人数 1人
計	2,313		2,313	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	4,820		4,820	ORCA-R2デジタルカメラ一式
図書	211		211	タイテック ダブルシューカー
計	5,031		5,031	
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	2,341	インスリン分泌制御機構の解明	547	学内1人
		血圧調節作用	598	学内1人(H27.4.1付病院助教採用者 1名)
		食欲不振のメカニズムとその作用機構の解明	598	学内1人
		抗肥満・メタボリックシンドローム効果の解析	598	学内1人
ポスト・ドクター	3,200	Nesfatin-1の生理的役割の解明	3,200	学内1人
研究支援推進経費				
計	5,541			学内5人

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

テーマ番号1: 中枢機能の概日リズム発現と外的要因による修飾機構の解明

年 度	平成 27 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	5,839	研究用消耗品	5,856	試薬(826)、器具(1,279)、実験動物(1,790)、その他(1,944)
光 熱 水 費				
通 信 運 搬 費	164	運搬費	164	実験動物輸送費
印 刷 製 本 費	431	印刷費	431	論文別刷代
旅 費 交 通 費	79	シンポジウム旅費	79	シンポジウム学外講師旅費
報 酬・委 託 料	1,252	謝金、研究委託費用	1,252	シンポジウム講師謝金、感染症検査料
雑 費	19	シンポジウム関連費用	19	シンポジウム学外講師弁当・休憩時飲料
( )				
計	7,784			
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	4,847	研究補助	4,847	時給 960円, 年間時間数 3,645時間 実人数 2人
教育研究経費支出 計	4,847			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品 図 書	389		389	
計	389			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	2,336	食欲不振のメカニズムとその作用機構の解明	593	学内1人(H28.4.1付助教採用者 1名)
		抗肥満・メタボリックシンドローム効果の解析	598	学内1人
		視床下部オキントシン神経の調節因子の検討	598	学内1人
		膵臓β細胞への制御機能の解明	548	学内1人
ポスト・ドクター 研究支援推進経費	3,214	摂食実験	3,214	学内1人
計	5,550			学内5人

テーマ番号2: 末梢時計の制御・障害機構の解明と時間治療の確立

年 度	平成 23 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	13,005	研究用消耗品	13,005	試薬(6,991)、器具(1,844)、実験動物(2,256)、その他(1,914)
通 信 運 搬 費	54	運搬費	54	実験動物輸送費
報 酬・委 託 料	1,025	検査・解析委託	1,025	血液・染色体検査、感染症検査解析
( )				
計	14,084		14,084	
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出 計	0		0	

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	2,416	実験・研究用機器	1,000	サーマルサイクラー 2式
			1,416	CMA470 冷却フラクションコレクター
図 書				
計	2,416		2,416	

研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	2,037	サーカディアンに関わる実験補助	2,037	学内2人
	558	実験及びデータ管理	558	学内1人
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	2,595		2,595	学内3人

テーマ番号2:末梢時計の制御・障害機構の解明と時間治療の確立

年 度	平成 24 年度
-----	----------

小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	10,968	研究用消耗品	10,968	試薬(7,133)、器具(1,471)、実験動物(838)、その他(1,526)
印刷製本費	6	印刷費	6	論文別刷代
報酬・委託料	144	検査・解析委託	144	U1b 蛋白解析、検体検査・解析、英文校閲
( )				
計	11,118		11,118	

ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	2,810	研究補助	2,810	時給 820円、年間時間数 677時間 実人数 1人 時給 950円、年間時間数 1,619時間 実人数 1人
教育研究経費支出				
計	2,810		2,810	

設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	972	実験・研究用機器	972	CMA107 Microdialysis Pump
図 書				
計	972		972	

研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	3,125	サーカディアンに関わる実験補助	2,010	学内2人
		実験及びデータ管理	1,115	学内1人
ポスト・ドクター	1,328	実験及びデータ管理	1,328	学内1人
研究支援推進経費				
計	4,453		4,453	学内4人

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

## テーマ番号2:末梢時計の制御・障害機構の解明と時間治療の確立

年 度	平成 25 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
<b>教 育 研 究 経 費 支 出</b>				
消 耗 品 費	9,493	研究用消耗品	9,493	試薬(5,431)、器具(1,433)、実験動物(1,316)、その他(1,313)
印刷製本費	297	印刷費	297	論文別刷代
報酬・委託料 ( )	205	校正料、研究委託費用	205	論文校正料、インスリン解析委託費用
計	9,995		9,995	
<b>ア ル バ イ ト 関 係 支 出</b>				
人件費支出 (兼務職員)	4,505	研究補助	4,505	時給 820円, 年間時間数 99時間 実人数 1人
				時給 950円, 年間時間数 2,366時間 実人数 2人
				時給 1,360円, 年間時間数 1,328時間 実人数 1人
				時給 1,400円, 年間時間数 152時間 実人数 1人
教育研究経費支出 計				4,505
<b>設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)</b>				
教育研究用機器備品 図 書				
計	0			
<b>研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出</b>				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

## テーマ番号2:末梢時計の制御・障害機構の解明と時間治療の確立

年 度	平成 26 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
<b>教 育 研 究 経 費 支 出</b>				
消 耗 品 費	10,439	研究用消耗品	10,439	試薬(6,136)、器具(1,680)、実験動物(807)、その他(1,816)
通信運搬費	1	郵送費	1	郵送費用
報酬・委託料 ( )	14	研究委託費用	14	インスリン解析委託費用
計	10,454		10,454	
<b>ア ル バ イ ト 関 係 支 出</b>				
人件費支出 (兼務職員)	1,946	研究補助	1,946	時給 950円, 年間時間数 1,552時間 実人数 2人
教育研究経費支出 計	1,946		1,946	
<b>設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)</b>				
教育研究用機器備品 図 書				
計	0			
<b>研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出</b>				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

## テーマ番号2:末梢時計の制御・障害機構の解明と時間治療の確立

年 度	平成 27 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	10,433		試薬(4,554)、器具(2,088)、実験動物(1,525)、その他(2,266)	
論文投稿料	9	論文投稿料	9,318	論文投稿料
報酬・委託料 ( )	9	研究委託費用	9,180	インスリン解析委託費用
計	10,451			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	1,919	研究補助		時給 830円, 年間時間数 1,262時間 実人数 1人
教育研究経費支出				時給 960円, 年間時間数 285時間
計	1,919			実人数 1人
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品 図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター	3,600	時計遺伝子と悪性腫瘍	3,600	学内1人
研究支援推進経費				
計	3,600			

## テーマ番号3:リズム障害から見た疾患成因の解明と診断法の確立

年 度	平成 23 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	2,165	研究用消耗品	2,165	試薬(2,158)、器具(0)、実験動物(0)、その他(7)
旅費交通費	83	学会参加旅費	83	学会参加旅費
雑費 ( )	10	学会参加費	10	学会参加費
計	2,258		2,258	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0		0	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	6,142	実験・研究用機器	2,520	睡眠評価装置 アリスPD
			1,480	トリカト血圧計 研究用70タイプ
			1,842	Nano Drop 2000一式
			300	モーションカー時計型アクティブグラフ
図 書				
計	6,142		6,142	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0		0	

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

## テーマ番号3:リズム障害から見た疾患成因の解明と診断法の確立

年 度	平成 24 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	3,943	研究用消耗品	3,943	試薬(3,256)、器具(515)、実験動物(0)その他(172)
旅費交通費	62	学会参加旅費	62	学会参加旅費
報酬・委託料	241	解析委託	241	DNAソーケンス解析
雑費	23	学会参加費	23	学会参加費
( )				
計	4,269		4,269	
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0		0	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	4,431	実験・研究用機器	3,675	マイクロニューグラムシステム機器 一式
			756	3G夜間トリガ血圧計
図 書				
計	4,431		4,431	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0		0	

## テーマ番号3:リズム障害から見た疾患成因の解明と診断法の確立

年 度	平成 25 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	5,890	研究用消耗品	5,890	試薬(949)、器具(4,110)、実験動物(0)、その他(831)
報酬・委託料	119	校正料、研究委託費用	119	論文英文校正料、メラトニン解析委託費用
修繕費	190	研究機器修繕費	190	BIOMEK2000修理一式
( )				
計	6,199		6,199	
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	1,901		965	Direct-Q UV5 Remote
			936	Veriti96wellサーマルサイクラー
図 書				
計	1,901		1,901	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			



法人番号	131102
プロジェクト番号	S1101022

## テーマ番号3:リズム障害から観た疾患成因の解明と診断法の確立

年 度	平成 26 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	791	研究用消耗品	791	試薬(91)、器具(56)、実験動物(0)、その他(644)
印刷製本費	99	印刷費	99	行動記録日誌印刷代
報酬・委託料	3,625	校正料、研究委託費用	3,625	論文英文校正料、遺伝子解析委託費用
修繕費	136	研究機器修繕費	136	携帯型自動血圧計修理費用
( )				
計	4,651		4,651	
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	4,675	研究補助	4,675	時給 820円, 年間時間数 2,680時間 実人数 3人 時給 1,400円, 年間時間数 850時間 実人数 1人
教育研究経費支出 計	4,675		4,675	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	1,314		189	研究データ解析用PC
			990	バイオクリーンベンチ一式
			135	アスピレーター
図 書				
計	1,314		1,314	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

## テーマ番号3:リズム障害から観た疾患成因の解明と診断法の確立

年 度	平成 27 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	4,373		4,373	試薬(443)、器具(3,266)、実験動物(0)、その他(664)
印刷製本費	16	印刷費	16	角2封筒
報酬・委託料	1,927	校正料、研究委託費用	939	英文校正料、ノックアウトマウスの作出料
修繕費	896	研究機器修繕費	896	DNAアナライザ修理
( )				
計	7,212			
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	2,945	研究補助	2,944	時給 830円, 年間時間数 1,692時間 実人数 2人 時給 1,420円, 年間時間数 971時間 実人数 1人
教育研究経費支出 計	2,945			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	453	実験・研究用機器	453	Apple MacBook(191)、冷凍保存容器(262)
図 書				
計	453			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0			

## 《 雑 誌 論 文 》

(部門名) 統合生理学部門

査読の有無	通し番号	
有	A1	Fujitsuka N, Asakawa A, Morinaga A, Amitani MS, Amitani H, Katsuura G, Sawada Y, Sudo Y, Uezono Y, Mochiki E, Sakata I, Sakai T, Hanazaki K, <u>Yada T</u> , Yakabi K, Sakuma E, Ueki T, Nijima A, Nakagawa K, Okubo N, Takeda H, Asaka M, Inui A: Increased ghrelin signaling prolongs survival in mouse models of human aging through activation of sirtuin1. Mol Psychiatry Feb 2, 2016 [Epub ahead of print]
有	A2	©Taguchi M, Dezaki K, Koizumi M, Kurashina K, Hosoya Y, Lefor AK, Sata N, <u>Yada T</u> : Total gastrectomy-induced reductions in food intake and weight are counteracted by rikkunshito by attenuating glucagon-like peptide-1 elevation in rats. Surgery 159(5):1342-1350, 2016
有	*A3	©Nakata M, Yamamoto S, Okada T, Darambazar G, Okano H, Ozawa K, <u>Yada T</u> : IL-10 gene transfer upregulates arcuate POMC and ameliorates hyperphagia, obesity and diabetes by substituting for leptin. Int J Obes (Lond) 40(3):425-433, 2016
有	*A4	©Suyama S, Kodaira-Hirano M, Otgon-Uul Z, Ueta Y, Nakata M, <u>Yada T</u> : Fasted/fed states regulate postsynaptic hub protein DYNLL2 and glutamatergic transmission in oxytocin neurons in the hypothalamic paraventricular nucleus. Neuropeptides 56:115-123, 2016
有	A5	Kimura H, Usui F, Karasawa T, Kawashima A, Shirasuna K, Inoue Y, Komada T, Kobayashi M, Mizushina Y, Kasahara T, Suzuki K, Iwasaki Y, <u>Yada T</u> , Caturegli P, Takahashi M: Immunoproteasome subunit LMP7 Deficiency Improves Obesity and Metabolic Disorders. Scientific Reports 5:15883, 2015
有	A6	©Kurashina T, Dezaki K, Yoshida M, Rita RS, Ito K, Taguchi M, Miura R, Tominaga M, Ishibashi S, Kakei M, <u>Yada T</u> : The $\beta$ -cell GHSR and downstream cAMP/TRPM2 signaling account for insulinostatic and glycemic effects of ghrelin. Scientific Reports 5:14041, 2015
有	A7	Sasaki T, Kinoshita Y, Matsui S, Kakuta S, Yokota-Hashimoto H, Kinoshita K, Iwasaki Y, Kinoshita T, <u>Yada T</u> , Amano N, Kitamura T: N-methyl D-aspartate receptor co-agonist D-serine suppresses intake of high-preference food. Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol. 309(5):R561-575, 2015
有	*A8	Kozuka C, Sunagawa S, Ueda R, Higa M, Ohshiro Y, Tanaka H, Shimizu-Okabe C, Takayama C, Matsushita M, Tsutsui M, Ishiuchi S, Nakata M, <u>Yada T</u> , Miyazaki JI, Oyadomari S, Shimabukuro M, Masuzaki H: A novel insulinotropic mechanism of whole grain-derived $\gamma$ -oryzanol via the suppression of local dopamine D2 receptor signaling in mouse islet. Br J Pharmacol 172:4519-4534, 2015
有	*A9	©Kurita H, Xu KY, Maejima Y, Nakata M, Dezaki K, Santoso P, Yang Y, Arai T, Gantulga D, Muroya S, Lefor AK, Kakei M, Watanabe E, <u>Yada T</u> : Arcuate $\text{Na}^+$ , $\text{K}^+$ -ATPase senses systemic energy states and regulates feeding behavior through glucose-inhibited neurons. Am J Physiol Endocrinol Metab. 309(4):E320-E333, 2015
有	*A10	©Iwasaki Y, Dezaki K, Kumari P, Kakei M, <u>Yada T</u> : Ghrelin counteracts insulin-induced activation of vagal afferent neurons via growth hormone secretagogue receptor. Neuropeptides 52:55-60, 2015
有	A11	Kamiide Y, Inomata N, Furuya M, <u>Yada T</u> : Ghrelin ameliorates catabolic conditions and respiratory dysfunction in a chronic obstructive pulmonary disease model of chronic cigarette smoke-exposed rats. Eur J Pharmacol. 755:88-94, 2015

有	A12	Kamiide Y, Furuya M, Inomata N, <u>Yada T</u> : Chronic exposure to cigarette smoke causes extrapulmonary abnormalities in rats. <i>Environ Toxicol Pharmacol.</i> 39(2):864-870, 2015
有	* A13	©Maejima Y, Rita RS, Santoso P, Aoyama M, Hiraoka Y, Nishimori K, Gantulga D, Shimomura K, <u>Yada T</u> : Nasal oxytocin administration reduces food intake without affecting locomotor activity and glycemia with c-Fos induction in limited brain areas. <i>Neuroendocrinology</i> 101(1):35-44, 2015
有	* A14	©Iwasaki Y, Maejima Y, Suyama S, Yoshida M, Arai T, Katsurada K, Kumari P, Nakabayashi H, Kakei M, <u>Yada T</u> : Peripheral oxytocin activates vagal afferent neurons to suppress feeding in normal and leptin-resistant mice: A route for ameliorating hyperphagia and obesity. <i>Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol</i> 308:R360-R369, 2015
有	* A15	©Darambazar G, Nakata M, Okada T, Wang L, Li E, Shinozaki A, Motoshima M, Mori M, <u>Yada T</u> : Paraventricular NUCB2/nesfatin-1 is directly targeted by leptin and mediates its anorexigenic effect. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 456(4):913-918, 2015
有	* A16	©Ayush EA, Iwasaki Y, Iwamoto S, Nakabayashi H, Kakei M, <u>Yada T</u> : Glucagon directly interacts with vagal afferent nodose ganglion neurons to induce Ca <sup>2+</sup> signaling via glucagon receptors. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 456(3):727-732, 2015
有	* A17	©Sedbazar U, Ayush EA, Maejima Y, <u>Yada T</u> : Neuropeptide Y and <input type="checkbox"/> -melanostimulating hormone reciprocally regulate nesfatin-1 neurons in the paraventricular nucleus of hypothalamus. <i>NeuroReport</i> 25(18):1453-1458, 2014
有	* A18	©Rita R, Dezaki K, Kurashina T, Kakei M, <u>Yada T</u> : Partial blockade of Kv2.1 channel potentiates GLP-1's insulinotropic effects in islets and reduces its dose required for improving glucose tolerance in type 2 diabetic male mice. <i>Endocrinology</i> 156(1):114-123, 2015
有	* A19	©Maejima Y, Sakuma K, Santoso P, Gantulga D, Katsurada K, Ueta Y, Hiraoka Y, Nishimori K, Tanaka S, Shimomura K, <u>Yada T</u> : Oxytocinergic circuit from paraventricular and supraoptic nuclei to arcuate POMC neurons in hypothalamus. <i>FEBS Letters</i> 588(23):4404-4412, 2014
有	* A20	©Katsurada K, Maejima Y, Nakata M, Kodaira M, Suyama S, Iwasaki Y, Kario K, <u>Yada T</u> : Endogenous GLP-1 acts on paraventricular nucleus to suppress feeding: Projection from nucleus tractus solitarius and activation of corticotropin-releasing hormone, nesfatin-1 and oxytocin neurons. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 451(2):276-281, 2014
有	* A21	©Yoshida M, Dezaki K, Uchida K, Kodera S, Lam N, Ito K, Rita R, Yamada H, Shimomura K, Ishikawa S, Sugawara H, Kawakami M, Tominaga M, <u>Yada T</u> , Kakei M: Involvement of cAMP-EPAC-TRPM2 activation in glucose- and incretin-induced insulin secretion. <i>Diabetes</i> 63(10):3394-403, 2014
有	A22	©Yanagida K, Maejima Y, Santoso P, Otgon-Uul Z, Yang Y, Sakuma K, Shimomura K, <u>Yada T</u> : Hexosamine pathway but not interstitial changes mediates glucotoxicity in pancreatic $\beta$ -cells as assessed by cytosolic Ca <sup>2+</sup> response to glucose. <i>Aging (Albany NY)</i> 6(3):207-214, 2014
有	A23	Inoue Y, Shirasuna K, Kimura H, Usui F, Kawashima A, Karasawa T, Tago K, Dezaki K, Nishimura S, Sagara J, Noda T, Iwakura Y, Tsutsui H, Taniguchi S, Yanagisawa K, <u>Yada T</u> , Yasuda Y, Takahashi M: NLRP3 regulates neutrophil functions and contributes to hepatic ischemia-reperfusion injury independently of Inflammasomes. <i>J Immunol</i> 192(9):4342-4351, 2014
有	A24	Koizumi M, Hosoya Y, Dezaki K, <u>Yada T</u> , Hosoda H, Kangawa K, Nagai H, Lefor AT, Sata N, Yasuda Y: Serum ghrelin levels partially recover with the recovery of appetite and food intake after total gastrectomy. <i>Surg Today</i> 44(11):2131-2137, 2014
有	A25	Kawamata R, Suzuki Y, Yada Y, Koike Y, Kono Y, <u>Yada T</u> , Takahashi N: Gut hormone profiles in preterm and term infants during the first 2 months of life. <i>J Pediatr Endocrinol Metab</i> 27(7-8):717-723, 2014

有	A26	©Uramura K, Maejima Y, Shimomura K, Santoso P, Katsuda S, Kobayashi D, Jodo E, Kodaira M, Otgon-Uul Z, Yang Y, Sakuma K, Takigawa M, Hazama A, <u>Yada T</u> : Chronic phencyclidine treatment induces long-lasting glutamatergic activation of VTA dopamine neurons. <i>Neuroscience Letters</i> 564C:72-77, 2014
有	A27	Ishizuka Y, Nakayama K, Ogawa A, Makishima S, Boonvisut S, Hirao A, Iwasaki Y, <u>Yada T</u> , Yanagisawa Y, Miyashita H, Takahashi M, Iwamoto S: TRIB1 down-regulates hepatic lipogenesis and glycogenesis via multiple molecular interactions. <i>J Mol Endocrinol</i> 52(2):145-158, 2014
有	A28	© <u>Yada T</u> , Damdindorj B, Rita RS, Kurashina T, Ando A, Taguchi M, Koizumi M, Sone H, Nakata M, Kakei M, Dezaki K: Ghrelin signalling in $\beta$ -cells regulates insulin secretion and blood glucose. <i>Diabetes Obes Metab. Suppl</i> 1:111-117, 2014
有	* A29	©Maekawa F, Fujiwara K, Toriya M, Maejima Y, Nishio T, Toyoda Y, Nohara K, Yashiro T, <u>Yada T</u> : Brain-derived neurotrophic factor in VMH as the causal factor for and therapeutic tool to treat visceral adiposity and hyperleptinemia in type 2 diabetic Goto-Kakizaki rats. <i>Front Synaptic Neurosci</i> 5(7):1-13, 2013
有	A30	Manaka K, Nakata M, Shimomura K, Rita RS, Maejima Y, Yoshida M, Dezaki K, Kakei M, <u>Yada T</u> : Chronic exposure to valproic acid promotes insulin release, reduces KATP channel current and does not affect $Ca^{2+}$ signaling in mouse islets. <i>J Physiol Sci</i> 64(1):77-83, 2013
有	* A31	©Maejima Y, Shimomura K, Sakuma K, Yang Y, Arai T, Mori M, <u>Yada T</u> : Paraventricular nucleus nesfatin-1 neurons are regulated by pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP). <i>Neuroscience Letters</i> 551:39-42, 2013
有	* A32	©Iwasaki Y, Shimomura K, Kohno D, Dezaki K, Ayush EA, Nakabayashi H, Kubota N, Kadowaki T, Kakei M, Nakata M, <u>Yada T</u> : Insulin activates vagal afferent neurons including those innervating pancreas via insulin cascade and $Ca^{2+}$ influx: its dysfunction in IRS2-KO mice with hyperphagic obesity. <i>PLoS ONE</i> 8(6):e67198, 2013
有	A33	©Arai T, Maejima Y, Muroya S, <u>Yada T</u> : Rikkunshito and isoliquiritigenin counteract 5-HT-induced 2C receptor-mediated activation of pro-opiomelanocortin neurons in the hypothalamic arcuate nucleus. <i>Neuropeptides</i> 47(4):225-30, 2013.
有	A34	©Aoki H, Nakata M, Dezaki K, Lu M, Gantulga D, Yamamoto K, Shimada K, Kario K, <u>Yada T</u> : Ghrelin counteracts salt-induced hypertension via promoting diuresis and renal nitric oxide production in Dahl rats. <i>Endocr J</i> 60(5):571-581, 2013
有	A35	©Nakata M, <u>Yada T</u> : Role of NUBC2/Nesfatin-1 In glucose control: diverse functions in islets, adipocytes and brain. <i>Curr Pharm Des</i> 19(39):6960-6965, 2013
有	A36	Mori M, Yamada M, Okada S, Hashimoto K, Satoh T, Shimizu H, <u>Yada T</u> : Discovery of nesfatin-1 and overview of biological actions and new developments. <i>Curr Pharm Des</i> 19(39):6921-6928, 2013
有	* A37	©Sedbazar U, Maejima Y, Nakata M, Mori M, <u>Yada T</u> : Paraventricular NUCB2/nesfatin-1 rises in synchrony with feeding suppression during early light phase in rats. <i>Biochem Biophys Res Commun.</i> 434(3):434-438, 2013
有	* A38	©Iwasaki Y, Kakei M, Nakabayashi H, Ayush EA, Hirano-Kodaira M, Maejima Y, <u>Yada T</u> : Pancreatic polypeptide and peptide YY3-36 induce $Ca^{2+}$ signaling in nodose ganglion neurons. <i>Neuropeptides</i> 47(1):19-23,2013
有	A39	©Iwasaki Y, <u>Yada T</u> : Vagal afferents sense meal-associated gastrointestinal and pancreatic hormones: mechanism and physiological role. <i>Neuropeptides</i> 46(6):291-297,2012
有	A40	©Kohno D, <u>Yada T</u> : Arcuate NPY neurons sense and integrate peripheral metabolic signals to induce feeding. <i>Neuropeptides</i> 46(6):315-319, 2012

有	A 41	©Damdindorj B, Dezaki K, Kurashina T, Sone H, Rita R, Kakei M, <u>Yada T</u> : Exogenous and endogenous ghrelin counteracts GLP-1 action to stimulate cAMP signaling and insulin secretion in $\beta$ -cells. FEBS Lett 586(16):2555-2562, 2012
有	* A 42	©Gantulga D, Maejima Y, Nakata M, <u>Yada T</u> : Glucose and insulin induce $Ca^{2+}$ signaling in nesfatin-1 neurons in the hypothalamic paraventricular nucleus. Biochem Biophys Res Commun 420(4):811-815,2012
有	A 43	© <u>Yada T</u> , Kohno D, Maejima Y, Sedbazar U, Arai T, Toriya M, Maekawa F, Kurita H, Niijima A, Yakabi K: Neurohormones, rikkunshito and hypothalamic neurons interactively control appetite and anorexia. Curr Pharm Des 18:4854-4864, 2012
有	* A 44	©Maejima Y, Iwasaki Y, Yamahara Y, Kodaira M, Sedbazar U, <u>Yada T</u> : Peripheral oxytocin treatment ameliorates obesity by reducing food intake and visceral fat mass. Aging (Albany NY) 3(12): 1169-1177, 2011
有	A 45	©Maejima Y, Kohno D, Iwasaki Y, <u>Yada T</u> : Insulin suppresses ghrelin-induced calcium signaling in neuropeptide Y neurons of the hypothalamic arcuate nucleus. Aging (Albany NY) 3(11):1092-1097, 2011
有	A 46	Dezaki K, Boldbataar D, Sone H, Dyachok O, Tengholm A, Gylfe E, Kurashina T, Yoshida M, Kakei M, <u>Yada T</u> : Ghrelin attenuates cAMP-PKA signaling to evoke insulinostatic cascade in islet $\beta$ -cells. Diabetes 60(9):2315-2324, 2011
有	A 47	©Nakata M, Manaka K, Yamamoto S, Mori M, <u>Yada T</u> : Nesfatin-1 enhances glucose-induced insulin secretion by promoting $Ca^{2+}$ influx through L-type channels in mouse islet $\beta$ -cells. Endocr J 58(4):305-313, 2011

(部門名) 組織学部門

査読の有無	通し番号	
有	B 1	Horiguchi K, Fujiwara K, Tsukada T, Yako H, Tateno K, Hasegawa R, Takigami S, Ohsako S, <u>Yashiro T</u> , Kato T, Kato Y: Expression of Slug in S100 $\beta$ protein-positive cells of the postnatal developing rat anterior pituitary gland. Cell Tissue Res 2015 Aug 7, 2015 [Epub ahead of print]
有	B 2	Fujiwara K, Horiguchi K, Maliza R, Tofrizal A, Batchuluun K, Ramadhani D, Syaidah R, Tsukada T, Azuma M, Kikuchi M, <u>Yashiro T</u> : Expression of the heparin-binding growth factor midkine and its receptor, Ptpz1, in adult rat pituitary. Cell and Tissue Research 359:909-914, 2015
有	B 3	Ramadhani D, Tofrizal A, Tsukada T, <u>Yashiro T</u> : Histochemical Analysis of Laminin $\alpha$ Chains in Diethylstilbestrol-Induced Prolactinoma in Rats. Acta Histochem Cytochem 48:69-73, 2015
有	B 4	Tsukada T, Fujiwara K, Horiguchi K, Azuma M, Ramadhani D, Tofrizal A, Batchuluun K, Maliza R, Syaidah R, Kikuchi M, <u>Yashiro T</u> : Folliculostellate cells are required for laminin release from gonadotrophs in rat anterior pituitary. Acta Histochem Cytochem 47:239-245, 2014
有	B 5	Ramadhani D, Tsukada T, Fujiwara K, Horiguchi K, Azuma M, Kikuchi M, <u>Yashiro T</u> : Changes in laminin chain expression in pre- and postnatal rat pituitary gland. Acta Histochem Cytochem 47:231-237, 2014
有	B 6	Fujiwara K, Maliza R, Tofrizal A, Batchuluun K, Ramadhani D, Tsukada T, Azuma M, Horiguchi K, Kikuchi M, <u>Yashiro T</u> : In situ hybridization analysis of the temporospatial expression of the midkine/pleiotrophin family in rat embryonic pituitary gland. Cell Tissue Res 357: 337-344, 2014

有	B 7	Horiguchi K, Fujiwara K, Higuchi M, Yoshida S, Tsukada T, Ueharu H, Hasegawa R, Takigami S, Ohsako S, <u>Yashiro T</u> , Kato T, Kato Y: Expression of chemokine CXCL10 in dendritic cell-like S100 $\beta$ -positive cells in rat anterior pituitary gland. <i>Cell Tissue Res</i> 357: 757-765, 2014
有	B 8	Horiguchi K, Fujiwara K, Yoshida S, Higuchi M, Tsukada T, Kanno N, <u>Yashiro T</u> , Tateno K, Osako S, Kato T, Kato Y: Isolation of dendritic cell-like S100 $\beta$ -positive cells in rat anterior pituitary gland. <i>Cell Tissue Res</i> 357: 301-308, 2014
有	*B9	Wada I, Sakuma E, Shirasawa N, Wakabayashi K, Otsuka T, Hattori K, <u>Yashiro T</u> , Herbert DC, Soji T: Intercellular communications within the rat anterior pituitary. XVI: postnatal changes of distribution of S-100 protein positive cells, connexin 43 and LH-RH positive sites in the pars tuberalis of the rat pituitary gland. An immunohistochemical and electron microscopic study. <i>Tissue Cell</i> . 46:33-9, 2014
有	B 10	Tsukada T, Kouki T, Fujiwara K, Ramadhani D, Horiguchi K, Kikuchi M, <u>Yashiro T</u> : Reassembly of anterior pituitary organization by hanging drop three-dimensional cell culture. <i>Acta Histochem Cytochem</i> 46: 121-127, 2013
有	B 11	Syaidah R, Horiguchi K, Fujiwara K, Tsukada T, Kikuchi M, <u>Yashiro T</u> : Laminin and collagen modulate expression of the small leucine-rich proteoglycan fibromodulin in rat anterior pituitary gland. <i>Cell and Tissue Research</i> 354: 633-638, 2013
有	B 12	Jindatip D, Fujiwara K, Horiguchi K, Tsukada T, Kouki T, <u>Yashiro T</u> : Changes in fine structure of pericytes and novel desmin-immunopositive perivascular cells during postnatal development in rat anterior pituitary gland. <i>Anatomical Science International</i> 88: 196-203, 2013
有	B 13	Horiguchi K, Syaidah R, Fujiwara K, Tsukada T, Ramadhani D, Jindatip D, Kikuchi M, <u>Yashiro T</u> : Expression of the cell-surface heparan sulfate proteoglycan syndecan-2 in developing rat anterior pituitary gland. <i>Cell and Tissue Research</i> 353: 473-481, 2013
有	B 14	Hattori K, Shirasawa N, Suzuki H, Otsuka T, Wada I, <u>Yashiro T</u> , Herbert DC, Soji T, Hashitani H: Intercellular communication within the rat anterior pituitary gland. XV. Properties of spontaneous and LHRH-induced Ca <sup>2+</sup> transients in the transitional zone of the rat anterior pituitary in situ. <i>Endocrinology</i> 154: 400-409, 2013
有	B 15	Tando Y, Fujiwara K, <u>Yashiro T</u> , Kikuchi M: Localization of Notch signaling molecules and their effect on cellular proliferation in adult rat pituitary. <i>Cell and Tissue Research</i> 351: 511-519, 2013
有	B 16	Horiguchi K, Syaidah R, Fujiwara K, Tsukada T, Ramadhani D, Jindatip D, Kikuchi M, <u>Yashiro T</u> : Expression of small leucine-rich proteoglycans in rat anterior pituitary gland. <i>Cell and Tissue Research</i> 315: 207-212, 2012
有	B 17	Takahashi K, Yatabe M, Fujiwara K, Hirose T, Totsune K, <u>Yashiro T</u> : In Situ Hybridization Method Reveals (Pro)renin Receptor Expressing Cells in the Pituitary Gland of Rats: Correlation with Anterior Pituitary Hormones. <i>Acta Histochemica et Cytochemica</i> 46: 47-50, 2012
有	B 18	Ramadhani D, Tsukada T, Fujiwara K, Horiguchi K, Kikuchi M, <u>Yashiro T</u> : Laminin Isoforms and Laminin-Producing Cells in Rat Anterior Pituitary. <i>Acta Histochemica et Cytochemica</i> 45: 309-315, 2012
有	B 19	Horiguchi K, Kouki T, Fujiwara K, Tsukada T, Ly F, Kikuchi M, <u>Yashiro T</u> : Expression of the proteoglycan syndecan-4 and the mechanism by which it mediates stress fiber formation in folliculostellate cells in the rat anterior pituitary gland. <i>Journal of Endocrinology</i> 214: 199-206, 2012
有	B 20	Depicha J, Fujiwara K, Kouki T, <u>Yashiro T</u> : Transmission and scanning electron microscopy study of the characteristics and morphology of pericytes and novel desmin-immunopositive perivascular cells before and after castration in rat anterior pituitary gland before and after castration in rat anterior pituitary gland. <i>Anatomical Science International</i> 87: 165-173, 2012
有	B 21	Ilmoawati C, Horiguchi K, Fujiwara K, <u>Yashiro T</u> : Matrix Metalloproteinase-9 expression in folliculostellate cell of rat anterior pituitary gland. <i>Journal of Endocrinology</i> 212: 363-370, 2012

有	B 22	Horiguchi K, Ilmiawati C, Fujiwara K, Tsukada T, Kikuchi M, <u>Yashiro T</u> : Expression of Chemokine CXCL12 and its Receptor CXCR4 in Folliculostellate (FS) Cells of the Rat Anterior Pituitary Gland: The CXCL12/CXCR4 Axis Induces Interconnection of FS Cells. Endocrinology 153: 1717-1724, 2012
有	B 23	Kikuchi M, Kusumoto K, Fujiwara K, Takahashi K, Tando Y, <u>Yashiro T</u> : Live Staining and Isolation of Specific Hormone-Producing Cells from Rat Anterior Pituitary by Cytochemistry with Lectins and Cholera Toxin B Subunit. Acta Histochemica et Cytochemica 44: 159-164, 2011
有	B 24	Kikuchi M, Yatabe M, Tando Y, <u>Yashiro T</u> : Immunohistochemical localization of anterior pituitary hormones in S-100 protein-positive cells in the rat pituitary gland. Cell and Tissue Research 345: 425-429 2011
有	B 25	Horiguchi K, Fujiwara K, Ilmiawati C, Kikuchi M, Tsukada T, Kouki T, <u>Yashiro T</u> : Caveolin3-mediated integrin $\beta$ 1 signaling is required for the proliferation of folliculostellate cells in rat anterior pituitary gland under the influence of extracellular matrix. Journal of Endocrinology 210: 29-36, 2011
有	B 26	Horiguchi K, Kouki T, Fujiwara K, Kikuchi M, <u>Yashiro T</u> : The extracellular matrix component laminin promotes gap junction formation in the rat anterior pituitary gland. Journal of Endocrinology 208: 225-232, 2011

(部門名) 神経脳生理学部門

査読の有無	通し番号	
有	*C1	<u>Onaka T</u> , Okabe S, Takayanagi Y, Yoshida M: Noxious or Non-Noxious Inputs to Oxytocin Neurons: Possible Roles in the Control of Behaviors. Interdiscipl Inform Sci 21: 189-195, 2015
有	*C2	Okabe S, Yoshida M, Takayanagi Y, <u>Onaka T</u> : Activation of hypothalamic oxytocin neurons following tactile stimuli in rats. Neurosci Lett 600: 22-27, 2015
有	*C3	Yoshimura M, Ohkubo JI, Hashimoto H, Matsuura T, Maruyama T, <u>Onaka T</u> , Suzuki H, Ueta Y.: Effects of a subconvulsive dose of kainic acid on the gene expressions of the arginine vasopressin, oxytocin and neuronal nitric oxide synthase in the rat hypothalamus. Neurosci Res 99: 62-68, 2015
有	*C4	Nagasawa M, Mitsui S, En S, Ohtani N, Ohta M, Sakuma Y, <u>Onaka T</u> , Mogi K, Kikusui T : Social evolution. Oxytocin-gaze positive loop and the coevolution of human-dog bonds. Science 348: 333-336, 2015
無	C5	<u>尾仲達史</u> : エイジングとホルモン(4)—オキシトシン. Horm Front gynecol 22 : 131-139, 2015
無	C6	<u>尾仲達史</u> : オキシトシンと社会的行動. Clinical Neurosci 33: 177-181, 2015
無	C7	<u>尾仲達史</u> 、吉田匡秀、高柳友紀 : 不安・恐怖とオキシトシン. アンチ・エイジング医学 11 : 24-33, 2015
有	*C8	Yoshida M, Takayanagi Y, <u>Onaka T</u> : The medial amygdala - medullary PrRP-synthesizing neuron pathway mediates neuroendocrine responses to contextual conditioned fear in male rodents. Endocrinology 155: 2996-3004, 2014
無	C9	<u>尾仲達史</u> : オキシトシンの働きと老化. 最新医学 69: 1021-1031, 2014
無	C10	<u>尾仲達史</u> : ストレス・摂食・社会行動の相互作用 : オキシトシンの働き. 心身医学 54: 643-656, 2014
無	C11	<u>尾仲達史</u> : ストレスと摂食. ストレスアンドヘルスケア 210: 1-4, 2013

無	C 12	尾仲達史、高柳友紀：母性行動と下垂体ホルモン. 精神科治療学 28：777-784, 2013
有	C 13	Ikeda K, Satake S, <u>Onaka T</u> , Sugimoto H, Takeda N, Imoto K, Kawakami K: Enhanced inhibitory neurotransmission in the cerebellar cortex of the Atp1a3-deficient heterozygous mice. J Physiol 591: 3433-3449, 2013
有	* C 14	Tachibana M, Kagitani-Shimono K, Mohri I, Yamamoto T, Sanefuji W, Nakamura A, Oishi M, Kimura T, <u>Onaka T</u> , Ozono K, Taniike M: Long-term administration of intranasal oxytocin is a safe and promising therapy for early adolescent boys with autism spectrum disorders. J Child Adolesc Psychopharmacol 23: 123-127, 2013
有	* C 15	Yamashita M, Takayanagi Y, Yoshida M, Nishimori K, Kusama M, <u>Onaka T</u> : Involvement of prolactin releasing peptide in activation of oxytocin neurones in response to food intake. J Neuroendocrinol 25: 455-465, 2013
有	C 16	Tobin V, Schwab Y, Lelos N, <u>Onaka T</u> , Pittman QJ, Ludwig M: Expression of exocytosis proteins in rat supraoptic nucleus neurones. J Neuroendocrinol 24: 629-641, 2012
有	C 17	<u>Onaka T</u> , Takayanagi Y, Yoshida M.: Roles of oxytocin neurones in the control of stress, energy metabolism, and social behaviour. J Neuroendocrinol 24: 587-598, 2012
無	C 18	尾仲達史、高柳友紀、吉田匡秀：オキシトシンとストレス緩和作用. Clinical Neuroscience 30: 212-215, 2012
無	C 19	高柳友紀、尾仲達史：プロラクチン放出ペプチド (PrRP) . Clinical Neuroscience 30: 176-177, 2012
有	C 20	Katoh A, Fujihara H, Ohbuchi T, <u>Onaka T</u> , Hashimoto T, Kawata M, Suzuki H, Ueta Y : Highly visible expression of an oxytocin-monomeric red fluorescent protein 1 fusion gene in the hypothalamus and posterior pituitary of transgenic rats. Endocrinology 152: 2768-2774, 2011
有	* C 21	Kaewwongse M, Takayanagi Y, <u>Onaka T</u> : Effects of RFamide-related peptide (RFRP)-1 and RFRP-3 on oxytocin release and anxiety-related behaviour in rats. J Neuroendocrinol 23: 20-27, 2011
無	C 22	尾仲達史:オキシトシンに関する最近の話題. ホルモンと臨床 59:431-437, 2011

(部門名) 臨床薬理学部門

査読の有無	通し番号	
有	D 1	©Ando H, Ushijima K, Shimba S, <u>Fujimura A</u> : Daily fasting blood glucose rhythm in male mice: a role of the circadian clock in the liver. Endocrinology 157: 463-469, 2016
有	D 2	©Ushijima K, Nakashima H, Shiga T, Harada K, Ishikawa S, Ioka T, Ando H, <u>Fujimura A</u> : Different chronotherapeutic effects of valsartan and olmesartan in non-dipper hypertensive patients during valsartan treatment at morning. J Pharmacol Sci 127: 62-68, 2015
有	D 3	Takuma M, Ushijima K, Kumazaki M, Ando H, <u>Fujimura A</u> : Influence of dioxin on the daily variation of insulin sensitivity in mice. Environ Toxicol Pharmacol 40: 349-351, 2015
無	D 4	藤村昭夫：高血圧の時間治療. 日本臨床 73: 1846-1850, 2015
有	D 5	安藤 仁、藤村昭夫：時間治療の現状. 時間生物学 21: 48-52, 2015
無	D 6	藤村昭夫：時間治療の実際. THE LUNG perspectives 23: 292-295, 2015
無	D 7	藤村昭夫：時間治療の基礎. THE LUNG perspectives 23: 186-189, 2015



無	D8	安藤 仁、 <u>藤村昭夫</u> ：サーカディアンリズムと肥満. 医学のあゆみ 253: 239-243, 2015
無	D9	<u>藤村昭夫</u> ：時間治療の勧め. 日本医事新報 4716: 52, 2014
無	D10	<u>藤村昭夫</u> ：最適なタイミングで投薬する「時間治療」. へるすあっぷ21 356: 20-21, 2014
有	*D11	©Ando H, Ushijima K, <u>Fujimura A</u> : Indirect effects of glucagon-like peptide-1 receptor agonist exendin-4 on the peripheral circadian clocks in mice. Plos ONE 8: e81119, 2013
有	*D12	©Ushijima K, Maekawa T, Ishikawa-Kobayashi E, Ando H, Shiga T, <u>Fujimura A</u> : Influence of beta-blockers on the myocardial mRNA expressions of circadian clock- and metabolism-related genes. J Am Soc Hypertens 7: 107-117, 2013
有	*D13	©Obi-Ioka Y, Ushijima K, Kusama M, Ishikawa-Kobayashi E, <u>Fujimura A</u> : Involvement of Wee1 in the circadian rhythm dependent intestinal damage induced by docetaxel. J Pharmacol Exp Ther 347: 242-248, 2013
有	D14	Ando H, Otoda T, Ookami H, Nagai Y, Inano A, Takamura T, Ushijima K, Hosohata K, Matsushita E, Saito T, Kaneko S, <u>Fujimura A</u> : Dosing time-dependent influence of raloxifene on plasma plasminogen activator inhibitor-1 concentration in postmenopausal women with osteoporosis. Clin Exp Pharmacol Physiol 40: 227-232, 2013
無	D15	<u>藤村昭夫</u> ：時間治療の現状と展望. 日本臨牀 71: 2097-2101, 2013
無	D16	<u>藤村昭夫</u> ：内科疾患における時間治療の実際-投薬タイミングと効果. 日本内科学会雑誌 102: 664-668, 2013
無	D17	<u>藤村昭夫</u> ：気管支喘息の時間治療. 日本医事新報 4660: 38-42, 2013
無	D18	牛島健太郎、 <u>藤村昭夫</u> ：不眠，うつ病の時間治療. 日本医事新報 4656: 39-43, 2013
無	D19	<u>藤村昭夫</u> ：骨粗鬆症の時間治療. 日本医事新報 4651: 38-42, 2013
無	D20	安藤 仁、 <u>藤村昭夫</u> ：脂質異常症の時間治療. 日本医事新報4647: 38-42, 2013
無	D21	<u>藤村昭夫</u> ：高血圧の時間治療. 日本医事新報 4643: 40-45, 2013
無	D22	井岡友梨、牛島健太郎、野口忠秀、神部芳則、草間幹夫、 <u>藤村昭夫</u> ：口腔扁平上皮癌に対する時間治療-DCF療法に伴う有害反応軽減の試み-. 臨床薬理の進歩2013 58-63, 2013
無	D23	安藤 仁、 <u>藤村昭夫</u> ：体内時計障害と糖尿病. 日本臨牀 71: 2114-2118, 2013
有	*D24	©Ishikawa-Kobayashi E, Ushijima K, Ando H, Maekawa T, Takuma M, Furukawa Y, <u>Fujimura A</u> : Reduced histone H3K9 acetylation at clock genes and abnormal glucose metabolism in ob/ob mice. Chronobiol Int 29: 982-993, 2012
有	D25	Ushijima K, Koyanagi S, Sato Y, Ogata T, Matsunaga N, <u>Fujimura A</u> , Ohdo S: Role of activating transcription factor-4 in 24-hour rhythm of serotonin transporter expression in the mouse midbrain. Mol Pharmacol 82: 264-270, 2012
無	D26	安藤 仁、 <u>藤村昭夫</u> ：生体リズムを考慮した薬物療法（時間治療）. 日本臨牀 70: 1222-1226, 2012
無	D27	安藤 仁、 <u>藤村昭夫</u> ：肥満・代謝性疾患における体内時計障害. 肥満研究 18: 15-20, 2012

有	D28	Motosugi Y Ando H, Ushijima K, Maekawa T, Ishikawa E, Kumazaki M, <u>Fujimura A</u> : Tissue-dependent alterations of the clock gene expression rhythms in leptin-resistant Zucker diabetic fatty rats. <i>Chronobiol Int</i> 28: 968-972, 2011
有	D29	Kumazaki M, Ando H, Ushijima K, Maekawa T, Motosugi Y, Takada M, Tateishi M, <u>Fujimura A</u> : Influence of dosing-time on the efficacy and safety of finasteride in rats. <i>J Pharmacol Exp Ther</i> 338: 718-723, 2011

(部門名) 内分泌代謝学部門

査読の有無	通し番号	
有	E 1	Sekiya M, Osuga J, Igarashi M, Okazaki H, Ishibashi S. The role of neutral cholesterol ester hydrolysis in macrophage foam cells. <i>J Atheroscler Thromb.</i> 18(5):359-64. Epub 2011 Apr 6. Review.
有	E 2	Nagashima S, Yagyu H, Ohashi K, Tazoe F, Takahashi M, Ohshiro T, Bayasgalan T, Okada K, Sekiya M, Osuga J, Ishibashi S. Liver-specific deletion of 3-hydroxy-3-methylglutaryl coenzyme A reductase causes hepatic steatosis and death. <i>Arterioscler Thromb Vasc Biol.</i> 32(8):1824-31, 2012
有	E 3	Takahashi M, Yagyu H, Tazoe F, Nagashima S, Ohshiro T, Okada K, Osuga J, Goldberg IJ, Ishibashi S. Macrophage lipoprotein lipase modulates the development of atherosclerosis but not adiposity. <i>J Lipid Res.</i> 54(4):1124-34, 2013
有	E 4	Sakai K, Igarashi M, Yamamuro D, Ohshiro T, Nagashima S, Takahashi M, Enkhtuvshin B, Sekiya M, Okazaki H, Osuga J, Ishibashi S. Critical role of neutral cholesteryl ester hydrolase 1 in cholesteryl ester hydrolysis in murine macrophages. <i>J Lipid Res.</i> 55(10):2033-2040 2014
有	E 5	Sekiya M, Yamamuro D, Ohshiro T, Honda A, Takahashi M, Kumagai M, Sakai K, Nagashima S, Tomoda H, Igarashi M, Okazaki H, Yagyu H, Osuga J, Ishibashi S. Absence of Nceh1 augments 25-hydroxycholesterol-induced ER stress and apoptosis in macrophages. <i>J Lipid Res.</i> 55(10):2082-2092 2014
有	E 6	Nagashima S, Yagyu H, Tozawa R, Tazoe F, Takahashi M, Kitamine T, Yamamuro D, Sakai K, Sekiya M, Okazaki H, Osuga J, Honda A, Ishibashi S. Plasma cholesterol-lowering and transient liver dysfunction in mice lacking squalene synthase in the liver. <i>J Lipid Res.</i> May;56(5):998-1005 2015

(部門名) 機能生化学部門

査読の有無	通し番号	
有	* F 1	Kasashima, K. and <u>Endo, H.</u> Interaction of human TFAM in mitochondria: its involvement in the dynamics of mitochondrial DNA nucleoids. <i>Genes to Cells</i> , 2015, in press.
有	F 2	Yamamoto, S., Nagao, Y., Kuroiwa, K., Hakamata, Y., Ichida, M., Saito-Ohara, F., Tominaga, K., and <u>Endo, H.</u> Rapid selection of XO embryonic stem cells using Y chromosome-linked GFP transgenic mice. <i>Transgenic Res.</i> 23:757-765, 2014.
有	* F 3	Kasashima, K., Nagao, Y., and <u>Endo, H.</u> Dynamic regulation of mitochondrial genome maintenance in germ cells. <i>Reprod Med Biol</i> , 13 (1), 11-20, 2014.

有	* F 4	Tucker, E. J., Wanschers, B. F. J., Szklarczyk, R., Mountford, H. S., Wijeyeratne, X. W., van den Brand, M. A. M., Leenders, A. M., Rodenburg, R. J., Reljic, B., Compton, A. G., Frazier, A. E., Bruno, D. L., Christodoulou, J., <u>Endo, H.</u> , Ryan, M. T., Nijtmans, L. G., Huynen, M. A., and Thorburn, D. R. Mutations in the UQCC1-Interacting Protein, UQCC2, Cause Human Complex III Deficiency Associated with Perturbed Cytochrome b Protein Expression. PLoS genetics, 9(12), e1004034, 2013.
有	* F 5	Tetsuka, S., Tominaga, K., Ohta, E., Kuroiwa, K., Sakashita, E., Kasashima, K., Hamamoto, T., Namekawa, M., Morita, M., Natsui, S., Morita, T., Tanaka, K., Takiyama, Y., Nakano, I., and <u>Endo, H.</u> Paraneoplastic cerebellar degeneration associated with an onconeural antibody against creatine kinase, brain-type. J Neurol Sci. 335, 48-57, 2013
有	* F 6	Kawanishi K, Morita M, Nakahara K, Tetsuka S, Kouki T, Tominaga K, <u>Endo H</u> , Yashiro T, Tanaka K, Nakano I. "Paraneoplastic cerebellar degeneration with bladder cancer confirmed the existence of an anti-neural antibody: a case report." Brain Nerve, 65:1401-5, 2013
有	* F 7	Akimoto, C. Sakashita, E., Kasashima, K., Kuroiwa, K., Tominaga, K., Hamamoto, T., and <u>Endo, H.</u> Translational repression of the McKusick-Kaufman syndrome transcript by unique upstream open reading frames encoding mitochondrial proteins with alternative polyadenylation sites. Biochem Biophys Acta. 1830, 2728-2738, 2013
有	* F 8	Kasashima, K., Sumitani, M., and <u>Endo, H.</u> Maintenance of mitochondrial genome distribution by mitochondrial AAA+ protein ClpX. Exp. Cell Res. 318, 2335-2343, 2012
有	F 9	Kuroiwa K, Torkai Y, Osawa M, Nakashima T, Nakashima M, <u>Endo H</u> , Arai T: Epitope determination of anti Thy-1 monoclonal antibodies that regulate neurite outgrowth. Hybridoma 31: 225-232, 2012
有	* F 10	Sumitani M, Kasashima K, Matsugi J, <u>Endo H</u> : Biochemical properties of Caenorhabditis elegans HMG-5, a regulator of mitochondrial DNA. J Biochem 149(5):581-589, 2011

(部門名) 循環器内科学部門

査読の有無	通し番号	
有	G1	Salles GF, Reboldi G, Fagard RH, Cardoso CR, Pierdomenico SD, Verdecchia P, Eguchi K, <u>Kario K</u> , Hoshide S, Polonia J, de la Sierra A, Hermida RC, Dolan E, O'Brien E, Roush GC; ABC-H Investigators. Prognostic effect of the nocturnal blood pressure fall in hypertensive patients: The ambulatory blood pressure collaboration in patients with hypertension (ABC-H) meta-analysis. Hypertension. 67:693-700, 2016
有	G2	Yoshida T, Kuwabara M, Hoshide S, <u>Kario K</u> . Recurrence of stroke caused by nocturnal hypoxia-induced blood pressure surge in a young adult male with severe obstructive sleep apnea syndrome. J Am Soc Hypertens. 10:201-4, 2016
有	G3	<u>Kario K</u> . Hypertension: Benefits of strict blood-pressure lowering in hypertension. Nat Rev Cardiol. 13:125-6, 2016
有	G4	Kuwabara M, <u>Kario K</u> . Development of a triggered nocturnal blood pressure monitoring which detects nighttime blood pressure surges in sleep apnea syndrome. Curr Hypertens Rev. 12:27-31, 2016
有	G5	<u>Kario K</u> , Saito I, Kushiro T, Teramukai S, Yaginuma M, Mori Y, Okuda Y, Kobayashi F, Shimada K. Persistent olmesartan-based blood pressure-lowering effects on morning hypertension in Asians: the HONEST study. Hypertens Res. 2016 Jan 7. [Epub ahead of print]

有	G6	Palatini P, Reboldi G, Beilin LJ, Casiglia E, Eguchi K, Imai Y, <u>Kario K</u> , Ohkubo T, Pierdomenico SD, Schwartz JE, Wing L, Verdecchia P. Prognostic value of ambulatory blood pressure in the obese: The ambulatory blood pressure-international study. <i>J Clin Hypertens (Greenwich)</i> . 18:111-8, 2016
有	G7	Hoshide S, <u>Kario K</u> , de la Sierra A, Bilo G, Schillaci G, Banegas JR, Gorostidi M, Segura J, Lombardi C, Omboni S, Ruilope L, Mancia G, Parati G. Ethnic differences in the degree of morning blood pressure surge and in its determinants between Japanese and European hypertensive subjects: Data from the ARTEMIS study. <i>Hypertension</i> . 2015 Aug 24. [Epub ahead of print]
有	G8	Kabutoya T, <u>Kario K</u> . Depression in hypertension and blood pressure variability over shorter time periods. <i>Hypertens Res</i> . 2015 Aug 20. [Epub ahead of print]
有	G9	Hoshide S, Wang J, Park SH, Chen CH, Cheng HM, Huang Q, Park CG, <u>Kario K</u> . Treatment considerations of clinical physician on hypertension management in Asia. <i>Curr Hypertens Rev</i> . 2015. [Epub ahead of print]
有	G10	Shimada K, <u>Kario K</u> , Kushiro T, Teramukai S, Ishikawa Y, Kobayashi F, Saito I. Differences between clinic blood pressure and morning home blood pressure, as shown by Bland-Altman plots, in a large observational study (HONEST study). <i>Hypertens Res</i> . 2015. [Epub ahead of print]
有	G11	<u>Kario K</u> . New insight of morning blood pressure surge into the triggers of cardiovascular disease-synergistic resonance of blood pressure variability. <i>Am J Hypertens</i> . 2015. [Epub ahead of print]
有	G12	Fadl Elmula FE, Jin Y, Yang WY, Thijs L, Lu YC, Larstorp AC, Persu A, Sapoval M, Rosa J, Widimský P, Jacobs L, Renkin J, Petrák O, Chatellier G, Shimada K, Widimský J, <u>Kario K</u> , Azizi M, Kjeldsen SE, Staessen JA; European Network Coordinating Research On Renal Denervation (ENCOREd) Consortium. Meta-analysis of randomized controlled trials of renal denervation in treatment-resistant hypertension. <i>Blood Press</i> . 24: 263-74, 2015
有	G13	Mizuno H, Hoshide S, Fukutomi M, <u>Kario K</u> . Differing effects of aliskiren/amlodipine combination and high-dose amlodipine monotherapy on ambulatory blood pressure and target organ protection. <i>J Clin Hypertens (Greenwich)</i> . 2015. [Epub ahead of print]
有	G14	<u>Kario K</u> . Preface: EDITORIAL COMMENT "Perfect 24-hr blood pressure control" from morning to nocturnal hypertension: Up-to-date 2015. <i>Curr Hypertens Rev</i> . 11: 2-6, 2015.
有	G15	Komori T, Eguchi K, Saito T, Nishimura Y, Hoshide S, <u>Kario K</u> . Riser blood pressure pattern is associated with mild cognitive impairment in heart failure patients. <i>Am J Hypertens</i> . 2015 Jun 11. [Epub ahead of print]
有	G16	<u>Kario K</u> , Hamasaki H. Nocturnal blood pressure surge behind morning surge in obstructive sleep apnea syndrome: Another phenotype of systemic hemodynamic atherothrombotic syndrome. <i>J Clin Hypertens (Greenwich)</i> . 2015 Jun 1. [Epub ahead of print]
有	G17	<u>Kario K</u> . Prognosis in relation to blood pressure variability: pro side of the argument. <i>Hypertension</i> . 65: 1163-9, 2015
有	G18	<u>Kario K</u> , Ogawa H, Okumura K, Okura T, Saito S, Ueno T, Haskin R, Negoita M, Shimada K; SYMPLICITY HTN-Japan Investigators. SYMPLICITY HTN-Japan - First randomized controlled trial of catheter-based renal denervation in Asian patients. <i>Circ J</i> . 79: 1222-9, 2015
有	G19	Bavishi C, Messerli FH, Kadosh B, Ruilope LM, <u>Kario K</u> . Role of neprilysin inhibitor combinations in hypertension: insights from hypertension and heart failure trials. <i>Eur Heart J</i> . 2015 Apr 21. [Epub ahead of print]
有	G20	McMullan CJ, Yano Y, Bakris GL, <u>Kario K</u> , Phillips RA, Forman JP. Racial impact of diurnal variations in blood pressure on cardiovascular events in chronic kidney disease. <i>J Am Soc Hypertens</i> . 9: 299-306, 2015.

有	G21	Eguchi K, Ohmaru T, Ohkuchi A, Hirashima C, Takahashi K, Suzuki H, <u>Kario K</u> , Matsubara S, Suzuki M. Ambulatory BP monitoring and clinic BP in predicting small-for-gestational-age infants during pregnancy. <i>J Hum Hypertens</i> . 2015 Mar 19. [Epub ahead of print]
有	G22	<u>Kario K</u> . Systemic hemodynamic atherothrombotic syndrome: A blind spot in the current management of hypertension. <i>J Clin Hypertens (Greenwich)</i> . 17: 328-331, 2015
有	*G23	© <u>Kario K</u> , Hoshide S, Haimoto H, Yamagiwa K, Uchiba K, Nagasaka S, Yano Y, Eguchi K, Matsui Y, Shimizu M, Ishikawa J, Ishikawa S; the J-HOP study group. Sleep blood pressure self-measured at home as a novel determinant of organ damage: Japan morning surge home blood pressure (J-HOP) study. <i>J Clin Hypertens (Greenwich)</i> . 17: 340-348, 2015
有	G24	<u>Kario K</u> , Hoshide S. Age-related difference in the sleep pressure-lowering effect between an angiotensin II receptor blocker and a calcium channel blocker in Asian hypertensives: The ACS1 study. <i>Hypertension</i> . 65: 729-35, 2015
有	G25	Shibasaki S, Hoshide S, Eguchi K, Ishikawa J, <u>Kario K</u> ; on behalf of the Japan Morning Surge-Home Blood Pressure (J-HOP) Study Group. Increase trend in home blood pressure on a single occasion is associated with B-type natriuretic peptide and the estimated glomerular filtration rate. <i>Am J Hypertens</i> . 2015 Jan 27. [Epub ahead of print]
有	G26	Nagai M, Hoshide S, Takahashi M, Shimpo M, <u>Kario K</u> . Sleep duration, kidney function, and their effects on cerebral small vessel disease in elderly hypertensive patients. <i>Am J Hypertens</i> . 28: 884-893, 2015
有	G27	Ishikawa J, Ishikawa S, <u>Kario K</u> . Prolonged corrected QT interval is predictive of future stroke events even in subjects without ECG-diagnosed left ventricular hypertrophy. <i>Hypertension</i> . 65: 554-560, 2015
有	G28	Roush GC, Fagard RH, Salles GF, Pierdomenico SD, Reboldi G, Verdecchia P, Eguchi K, <u>Kario K</u> , Hoshide S, Polonia J, de la Sierra A, Hermida RC, Dolan E, Fapohunda J; ABC-H Investigators. Prognostic impact of sex-ambulatory blood pressure interactions in 10 cohorts of 17 312 patients diagnosed with hypertension: systematic review and meta-analysis. <i>J Hypertens</i> . 33: 212-20, 2015
有	G29	<u>Kario K</u> . Morning surge in blood pressure: a phenotype of systemic hemodynamic atherothrombotic syndrome. <i>Am J Hypertens</i> . 28: 7-9, 2015
有	G30	Nagai M, <u>Kario K</u> . Visit-to-visit blood pressure variability: a possible marker of cognitive decline in Alzheimer's disease? <i>Neurobiol Aging</i> . 36: e1, 2015
有	G31	<u>Kario K</u> . HONEST to clarify association between home blood pressure and cardiovascular events under antihypertensive medication. <i>J Hum Hypertens</i> . 29: 69, 2015
有	G32	Shimizu M, Hoshide S, Ishikawa J, Yano Y, Eguchi K, <u>Kario K</u> . Correlation of central blood pressure to hypertensive target organ damages during antihypertensive treatment: the J-TOP Study. <i>Am J Hypertens</i> . 28: 980-6, 2015
有	G33	Ishikawa J, Ishikawa S, <u>Kario K</u> ; the JMS Cohort Study Investigator Group. Relationships between the QTc interval and cardiovascular, stroke, or sudden cardiac mortality in the general Japanese population. <i>J Cardiol</i> . 65: 237-242, 2015
有	G34	Kagitani H, Hoshide S, <u>Kario K</u> . Optimal indicators of home BP variability in perimenopausal women and associations with albuminuria and reproducibility: The J-HOT home BP study. <i>Am J Hypertens</i> . 28: 586-594, 2015
有	G35	Kushiro T, <u>Kario K</u> , Saito I, Teramukai S, Mori Y, Okuda Y, Shimada K. Effectiveness of olmesartan-based treatment on home and clinic blood pressure in elderly patients with masked and white coat hypertension. <i>Hypertens Res</i> . 38: 178-185, 2015

有	G36	ABC-H Investigators, Roush GC, Fagard RH, Salles GF, Pierdomenico SD, Reboldi G, Verdecchia P, Eguchi K, <u>Kario K</u> , Hoshide S, Polonia J, de la Sierra A, Hermida RC, Dolan E, Zamalloa H. Prognostic impact from clinic, daytime, and night-time systolic blood pressure in nine cohorts of 13,844 patients with hypertension. <i>J Hypertens</i> . 32: 2332-40, 2014; discussion 2340.
有	G37	Toriumi S, Hoshide S, Nagai M, <u>Kario K</u> . Day-to-day blood pressure variability as a phenotype in a high-risk patient. <i>Geriatr Gerontol Int</i> . 14: 1005-6, 2014
有	G38	Yano Y, <u>Kario K</u> . Nocturnal heart rate and inflammation. <i>J Clin Hypertens (Greenwich)</i> . 16: 862-3, 2014
有	G39	Palatini P, Reboldi G, Beilin LJ, Eguchi K, Imai Y, <u>Kario K</u> , Ohkubo T, Pierdomenico SD, Schwartz JE, Wing L, Verdecchia P. Contribution of the ABP-International study to the definition of night-time tachycardia. <i>J Hypertens</i> . 32: 2099-100, 2014
有	G40	Kario K, Saito I, Kushiro T, Teramukai S, Ishikawa Y, Mori Y, Kobayashi F, Shimada K. Home Blood Pressure and Cardiovascular Outcomes in Patients During Antihypertensive Therapy: Primary Results of HONEST, a Large-Scale Prospective, Real-World Observational Study. <i>Hypertension</i> . 64: 989-996, 2014
有	G41	Tomiyama H, Yoshida M, Higashi Y, Takase B, Furumoto T, <u>Kario K</u> , Ohya Y, Yamashina A. Autonomic nervous activation triggered during induction of reactive hyperemia exerts a greater influence on the measured reactive hyperemia index by peripheral arterial tonometry than on flow-mediated vasodilatation of the brachial artery in patients with hypertension. <i>Hypertens Res</i> . 37: 914-918, 2014
有	G42	Palatini P, Reboldi G, Beilin LJ, Casiglia E, Eguchi K, Imai Y, <u>Kario K</u> , Ohkubo T, Pierdomenico SD, Schwartz JE, Wing L, Verdecchia P. Added predictive value of night-time blood pressure variability for cardiovascular events and mortality: The Ambulatory Blood Pressure-International Study. <i>Hypertension</i> . 64: 487-493, 2014
有	G43	Parati G, Stergiou G, O'Brien E, Asmar R, Beilin L, Bilo G, Clement D, de la Sierra A, de Leeuw P, Dolan E, Fagard R, Graves J, Head GA, Imai Y, <u>Kario K</u> , Lurbe E, Mallion JM, Mancia G, Mengden T, Myers M, Ogedegbe G, Ohkubo T, Omboni S, Palatini P, Redon J, Ruilope LM, Shennan A, Staessen JA, vanMontfrans G, Verdecchia P, Waeber B, Wang J, Zanchetti A, Zhang Y. European Society of Hypertension practice guidelines for ambulatory blood pressure monitoring. <i>J Hypertens</i> . 32: 1359-1366, 2014
有	G44	Imaizumi Y, Eguchi K, Taketomi A, Tsuchihashi T, <u>Kario K</u> . Exaggerated blood pressure variability in patients with pneumoconiosis: a pilot study. <i>Am J Hypertens</i> . 27: 1456-1463, 2014
有	*G45	©Hoshide S, Nagai M, Yano Y, Ishikawa J, Eguchi K, <u>Kario K</u> ; Japan Morning Surge-Home Blood Pressure Study Investigators Group. Association of high-sensitivity cardiac troponin T and N-terminal pro-brain-type natriuretic peptide with left ventricular structure: J-HOP Study. <i>J Clin Hypertens (Greenwich)</i> . 16: 354-361, 2014
有	G46	Parati G, Ochoa JE, Bilo G, Mattaliano P, Salvi P, <u>Kario K</u> , Lombardi C. Obstructive sleep apnea syndrome as a cause of resistant hypertension. <i>Hypertens Res</i> . 37: 601-613, 2014
有	*G47	© <u>Kario K</u> , Kuwabara M, Hoshide S, Nagai M, Shimpo M. Effects of nighttime single-dose administration of vasodilating vs sympatholytic antihypertensive agents on sleep blood pressure in hypertensive patients with sleep apnea syndrome. <i>J Clin Hypertens (Greenwich)</i> . 16: 459-466, 2014
有	G48	Yokota K, Fukuda M, Matsui Y, <u>Kario K</u> , Kimura K. Visit-to-visit variability of blood pressure and renal function decline in patients with diabetic chronic kidney disease. <i>J Clin Hypertens (Greenwich)</i> . 16: 362-366, 2014
有	G49	Rakugi H, <u>Kario K</u> , Enya K, Sugiura K, Ikeda Y. Effect of azilsartan versus candesartan on morning blood pressure surges in Japanese patients with essential hypertension. <i>Blood Press Monit</i> . 19: 164-169, 2014

有	G50	<u>Kario K</u> , Hoshide S. Rationale, study design, and implementation of the ACS1 study: effect of azilsartan on circadian and sleep blood pressure as compared with amlodipine. <i>Blood Press Monit</i> . 19: 123-8, 2014
有	G51	Eguchi K, Hoshide S, Shimada K, <u>Kario K</u> . How many clinic BP readings are needed to predict cardiovascular events as accurately as ambulatory BP monitoring? <i>J Hum Hypertens</i> . 28: 731-735, 2014
有	G52	Nagai M, Hoshide S, Nishikawa M, Masahisa S, <u>Kario K</u> . Visit-to-visit blood pressure variability in the elderly: Associations with cognitive impairment and carotid artery remodeling. <i>Atherosclerosis</i> . 233: 19-26, 2014
有	G53	Williams B, Cockcroft JR, <u>Kario K</u> , Zappe DH, Cardenas P, Hester A, Brunel P, Zhang J. Rationale and study design of the Prospective comparison of Angiotensin Receptor neprilysin inhibitor with Angiotensin receptor blocker MEasuring arterial sTiffness in the eldERly (PARAMETER) study. <i>BMJ Open</i> . 4: e004254, 2014
有	G54	Komori T, Eguchi K, Kabutoya T, Ishikawa J, Hoshide S, <u>Kario K</u> . Left ventricular diastolic function evaluated by the E/e' ratio is impaired in patients with masked uncontrolled hypertension. <i>Clin Exp Hypertens</i> . 36: 538-544, 2014
有	G55	Hoshide S, <u>Kario K</u> , Yano Y, Haimoto H, Yamagiwa K, Uchiba K, Nagasaka S, Matsui Y, Nakamura A, Fukutomi M, Eguchi K, Ishikawa J; on behalf of the J-HOP study group. Association of morning and evening blood pressure at home with asymptomatic organ damage in the J-HOP Study. <i>Am J Hypertens</i> . 27: 939-947, 2014
有	G56	<u>Kario K</u> , Sun N, Chiang FT, Supasynhd O, Baek SH, Inubushi-Molessa A, Zhang Y, Gotou H, Lefkowitz M, Zhang J. Efficacy and safety of LCZ696, a first-in-class angiotensin receptor neprilysin inhibitor, in Asian patients with hypertension: A randomized, double-blind, placebo-controlled study. <i>Hypertension</i> . 63: 698-705, 2014
有	G57	Ishikawa J, Ishikawa S, <u>Kario K</u> ; Jichi Medical School (JMS) Cohort Study Investigators Group. Levels of cornell voltage and cornell product for predicting cardiovascular and stroke mortality and morbidity in the general Japanese population. <i>Circ J</i> . 78: 465-75, 2014
有	G58	Shimamoto K, Hasebe N, Ito S, <u>Kario K</u> , Kimura K, Dohi Y, Kawano Y, Rakugi H, Horiuchi M, Imaizumi T, Ohya Y. Nifedipine controlled-release 40 mg b.i.d. in Japanese patients with essential hypertension who responded insufficiently to nifedipine controlled-release 40 mg q.d.: a phase III, randomized, double-blind and parallel-group study. <i>Hypertens Res</i> . 37: 69-75, 2014
有	G59	Ishikawa J, Shimizu M, Sugiyama EE, Yano Y, Hoshide S, Eguchi K, <u>Kario K</u> . Assessment of the reductions in nighttime blood pressure and dipping induced by antihypertensive medication using a home blood pressure monitor. <i>J Hypertens</i> 32: 82-89, 2014
有	G60	Yano Y, Briasoulis A, Bakris GL, Hoshide S, Wang JG, Shimada K, <u>Kario K</u> . Effects of antihypertensive treatment in Asian populations: A meta-analysis of prospective randomized controlled studies (CARDiovascular protection group in Asia: CARNA). <i>J Am Soc Hypertens</i> . 8:103-116, 2014.
有	G61	<u>Kario K</u> . Diagnosis of true uncontrolled hypertension using both home and ambulatory blood pressure monitoring. <i>J Hum Hypertens</i> . 28:176-179, 2014.
有	G62	Atkinson G, Batterham AM, <u>Kario K</u> , Taylor CE, Jones H. Blood pressure regulation VII. The "morning surge" in blood pressure: measurement issues and clinical significance. <i>Eur J Appl Physiol</i> . 114: 521-9, 2014
有	G63	Shibasaki S, Eguchi K, Matsui Y, Shimada K, <u>Kario K</u> . Clinical implications of the change in glomerular filtration rate with adrenergic blockers in patients with morning hypertension: the Japan morning surge-1 study. <i>Int J Hypertens</i> . 2013:413469, 2013
有	G64	<u>Kario K</u> , Robbins J, Jeffers BW. Titration of amlodipine to higher doses: a comparison of Asian and Western experience. <i>Vasc Health Risk Manag</i> . 9:695-701, 2013

有	G65	<u>Kario K.</u> Orthostatic hypertension-a new haemodynamic cardiovascular risk factor. <i>Nat Rev Nephrol</i> 9: 726-738, 2013
有	G66	Hoshide S, <u>Kario K.</u> Early morning hypertension: a narrative review. <i>Blood Press Monit.</i> 18: 291-296, 2013
有	G67	Nagai M, <u>Kario K.</u> Visit-to-visit blood pressure variability, silent cerebral injury, and risk of stroke. <i>Am J Hypertens.</i> 26: 1369-1376, 2013
有	G68	Kabutoya T, Hoshide S, Ogata Y, Eguchi K, <u>Kario K.</u> Masked hypertension defined by home blood pressure monitoring is associated with impaired flow-mediated vasodilatation in patients with cardiovascular risk factors. <i>J Clin Hypertens (Greenwich).</i> 15:630-6, 2013
有	G69	O'Brien E, Parati G, Stergiou G, Asmar R, Beilin L, Bilo G, Clement D, de la Sierra A, de Leeuw P, Dolan E, Fagard R, Graves J, Head G, Imai Y, <u>Kario K.</u> Lurbe E, Mallion JM, Mancia G, Mengden T, Myers M, Ogedegbe G, Ohkubo T, Omboni S, Palatini P, Redon J, Ruilope LL, Shennan A, Staessen JA, Vanmontfrans G, Verdecchia P, Waeber B, Wang J, Zanchetti A, Zhang Y; on behalf of the European Society of Hypertension Working Group on Blood Pressure Monitoring. European Society of Hypertension position paper on ambulatory blood pressure monitoring. <i>J Hypertens.</i> 31:1731-68, 2013
有	G70	Yano Y, Bakris GL, Matsushita K, Hoshide S, Shimada K, <u>Kario K.</u> Both chronic kidney disease and nocturnal blood pressure associate with strokes in the elderly. <i>Am J Nephrol.</i> 38:195-203, 2013
有	G71	<u>Kario K.</u> , Saito I, Kushiro T, Teramukai S, Mori Y, Hiramatsu K, Kobayashi F, Shimada K. Enhanced Blood Pressure-Lowering Effect of Olmesartan in Hypertensive Patients With Chronic Kidney Disease-Associated Sympathetic Hyperactivity: HONEST Study. <i>J Clin Hypertens (Greenwich).</i> 15:555-61, 2013
有	G72	Rakugi H, <u>Kario K.</u> , Enya K, Igeta M, Ikeda Y. Effect of azilsartan versus candesartan on nocturnal blood pressure variation in Japanese patients with essential hypertension. <i>Blood Press.</i> 2013 Jul 25. [in press]
有	G73	<u>Kario K.</u> , Saito I, Kushiro T, Teramukai S, Ishikawa Y, Hiramatsu K, Kobayashi F, Shimada K. Effect of the angiotensin II receptor antagonist olmesartan on morning home blood pressure in hypertension: HONEST Study at 16 weeks. <i>J Hum Hypertens.</i> 27: 721-8, 2013
有	G74	<u>Kario K.</u> , Nariyama J, Kido H, Ando S, Takiuchi S, Eguchi K, Niijima Y, Ando T, Noda M. Effect of a novel calcium channel blocker on abnormal nocturnal blood pressure in hypertensive patients. <i>J Clin Hypertens (Greenwich).</i> 15: 465-472, 2013
有	G75	Nagai M, Hoshide S, Nishikawa M, Shimada K, <u>Kario K.</u> Sleep Duration and Insomnia in the Elderly: Associations With Blood Pressure Variability and Carotid Artery Remodeling. <i>Am J Hypertens.</i> 26:981-989, 2013
有	G76	Nagai M, Hoshide S, <u>Kario K.</u> Role of 24-hour blood pressure management in preventing kidney disease and stroke. <i>Contrib Nephrol.</i> 179:67-80, 2013
有	G77	Nagai M, <u>Kario K.</u> What is the Truth? Differences in Ambulatory Blood Pressure Data Between Monitors. <i>J Clin Hypertens (Greenwich).</i> 15: 326-327, 2013
有	G78	<u>Kario K.</u> , Uehara Y, Shirayama M, Takahashi M, Shiosakai K, Hiramatsu K, Komiya M, Shimada K. Study of Sustained Blood Pressure-Lowering Effect of Azelnidipine Guided by Self-Measured Morning and Evening Home Blood Pressure: Subgroup Analysis of the At-HOME Study. <i>Drugs R D.</i> 13:75-85, 2013
有	G79	<u>Kario K.</u> Proposal of a new strategy for ambulatory blood pressure profile-based management of resistant hypertension in the era of renal denervation. <i>Hypertens Res.</i> 36: 478-84, 2013
有	G80	<u>Kario K.</u> , Sato Y, Shirayama M, Takahashi M, Shiosakai K, Hiramatsu K, Komiya M, Shimada K. Inhibitory Effects of Azelnidipine Tablets on Morning Hypertension. <i>Drugs R D.</i> 13:63-73, 2013



有	G81	Fukutomi M, Hoshide S, Eguchi K, Watanabe T, <u>Kario K</u> . Low-Grade Inflammation and Ambulatory Blood Pressure Response to Antihypertensive Treatment: The ALPHABET Study. <i>Am J Hypertens</i> . 26:784-792, 2013
有	G82	Palatini P, Reboldi G, Beilin LJ, Eguchi K, Imai Y, <u>Kario K</u> , Ohkubo T, Pierdomenico SD, Saladini F, Schwartz JE, Wing L, Verdecchia P. Predictive value of night-time heart rate for cardiovascular events in hypertension. The ABP-International study. <i>Int J Cardiol</i> . 168: 1490-5, 2013
有	G83	Yano Y, Hayakawa M, Kuroki K, Ueno H, Yamagishi S, Takeuchi M, Eto T, Nagata N, Nakazato M, Shimada K, <u>Kario K</u> . Nighttime blood pressure, nighttime glucose values, and target-organ damages in treated type 2 diabetes patients. <i>Atherosclerosis</i> . 227:135-139, 2013
有	G84	<u>Kario K</u> , Ando SI, Kido H, Nariyama J, Takiuchi S, Yagi T, Shimizu T, Eguchi K, Ohno M, Kinoshita O, Yamada T. The Effects of the L / N-Type Calcium Channel Blocker (Cilnidipine) on Sympathetic Hyperactive Morning Hypertension: Results From ACHIEVE-ONE* <i>J Clin Hypertens (Greenwich)</i> . 15:133-142, 2013
有	G85	Komori T, Eguchi K, Hoshide S, Williams B, <u>Kario K</u> . Comparison of wrist-type and arm-type 24-h blood pressure monitoring devices for ambulatory use. <i>Blood Press Monit</i> . 18:57-62, 2013
有	G86	Saito I, <u>Kario K</u> , Kushiro T, Teramukai S, Zenimura N, Hiramatsu K, Kobayashi F, Shimada K. Rationale, study design, baseline characteristics and blood pressure at 16 weeks in the HONEST Study. <i>Hypertens Res</i> . 36:177-182, 2013
有	G87	Yokota K, Fukuda M, Matsui Y, Hoshide S, Shimada K, <u>Kario K</u> . Impact of visit-to-visit variability of blood pressure on deterioration of renal function in patients with non-diabetic chronic kidney disease. <i>Hypertens Res</i> . 36:151-157, 2013
有	G88	Imai Y, <u>Kario K</u> , Shimada K, Kawano Y, Hasebe N, Matsuura H, Tsuchihashi T, Ohkubo T, Kuwajima I, Miyakawa M; Japanese Society of Hypertension Committee for Guidelines for Self-monitoring of Blood Pressure at Home. The Japanese Society of Hypertension Guidelines for Self-monitoring of Blood Pressure at Home (Second Edition). <i>Hypertens Res</i> . 35:777-795, 2012
有	G89	<u>Kario K</u> . Disaster hypertension - its characteristics, mechanism, and management - . <i>Circ J</i> . 76:553-562, 2012
有	G90	Yano Y, Ishikawa S, <u>Kario K</u> . Weight and mortality in adults with diabetes. <i>JAMA</i> . 308:2079-2080, 2012
有	G91	Eguchi K, Hoshide S, Ishikawa S, Shimada K, <u>Kario K</u> . Short sleep duration and type 2 diabetes enhance the risk of cardiovascular events in hypertensive patients. <i>Diabetes Res Clin Pract</i> . 98:518-523, 2012
有	G92	Ishikawa J, Hoshide S, Eguchi K, Ishikawa S, Shimada K, <u>Kario K</u> ; Japan Morning Surge-Home Blood Pressure Study Investigators Group. Nighttime home blood pressure and the risk of hypertensive target organ damage. <i>Hypertension</i> .60:921-928, 2012
有	G93	Tomiyama H, Kohro T, Higashi Y, Takase B, Suzuki T, Ishizu T, Ueda S, Yamazaki T, Furumoto T, <u>Kario K</u> , Inoue T, Koba S, Watanabe K, Takemoto Y, Hano T, Sata M, Ishibashi Y, Node K, Maemura K, Ohya Y, Furukawa T, Ito H, Yamashina A. A multicenter study design to assess the clinical usefulness of semi-automatic measurement of flow-mediated vasodilatation of the brachial artery. <i>Int Heart J</i> . 53:170-175, 2012
有	G94	Eguchi K, Hoshide S, Schwartz JE, Shimada K, <u>Kario K</u> . Visit-to-Visit and Ambulatory Blood Pressure Variability as Predictors of Incident Cardiovascular Events in Patients With Hypertension. <i>Am J Hypertens</i> . 25:962-968, 2012
有	G95	Eguchi K, Hoshide S, Ishikawa S, Shimada K, <u>Kario K</u> . Aggressive blood pressure-lowering therapy guided by home blood pressure monitoring improves target organ damage in hypertensive patients with type 2 diabetes/prediabetes. <i>J Clin Hypertens (Greenwich)</i> . 14:422-428, 2012
有	G96	<u>Kario K</u> . Is Vascular Morning Blood Pressure Surge in the Elderly Resistant to Antihypertensives and More Risky? <i>Hypertension</i> . 60:e16, 2012; author reply e17-18.

有	G97	Yano Y, Ohmori T, Shimada K, Sakata Y, <u>Kario K</u> . Association of sleep onset of acute coronary syndrome with sleep apnea syndrome and abnormal diurnal variation of hemostasis and adipokine levels. Blood Coagul Fibrinolysis. 23:590-596, 2012
有	G98	<u>Kario K</u> . Is the Atherosclerotic Risk of Extreme Dipping in Youth Partly Explained by Exaggerated Morning Surge? Hypertension. 60:e19, 2012; author reply e20-21.
有	G99	Nagai M, Hoshide S, Ishikawa J, Shimada K, <u>Kario K</u> . Visit-to-visit blood pressure variations: new independent determinants for cognitive function in the elderly at high risk of cardiovascular disease. J Hypertens. 30:1556-1563, 2012
有	G100	Matsui Y, O'Rourke MF, Ishikawa J, Shimada K, <u>Kario K</u> . Association of Changes in Ambulatory Arterial Stiffness Index and Pulse Wave Velocity During Antihypertensive Treatment: The J-CORE Study. Am J Hypertens. 25:862-868, 2012
有	G101	Yano Y, <u>Kario K</u> . Nocturnal Blood Pressure, Morning Blood Pressure Surge, and Cerebrovascular Events. Curr Hypertens Rep.14:219-227, 2012
有	G102	Eguchi K, Shimizu M, Hoshide S, Shimada K, <u>Kario K</u> . A Bedtime Dose of ARB Was Better than a Morning Dose in Improving Baroreflex Sensitivity and Urinary Albumin Excretion-The J-TOP Study. Clin Exp Hypertens. 34:488-492, 2012
有	G103	Matsui Y, O'Rourke MF, Hoshide S, Ishikawa J, Shimada K, <u>Kario K</u> . Combined Effect of Angiotensin II Receptor Blocker and Either a Calcium Channel Blocker or Diuretic on Day-by-Day Variability of Home Blood Pressure: The Japan Combined Treatment With Olmesartan and a Calcium-Channel Blocker Versus Olmesartan and Diuretics Randomized Efficacy Study. Hypertension. 59:1132-1138, 2012
有	G104	Hoshide S, Parati G, Matsui Y, Shibazaki S, Eguchi K, <u>Kario K</u> . Orthostatic hypertension: home blood pressure monitoring for detection and assessment of treatment with doxazosin. Hypertens Res. 35:100-106, 2012
有	G105	Yano Y, Hoshide S, Shimizu M, Eguchi K, Ishikawa J, Ishikawa S, Shimada K, <u>Kario K</u> . Association of home and ambulatory blood pressure changes with changes in cardiovascular biomarkers during antihypertensive treatment. Am J Hypertens. 25:306-312, 2012
有	G106	Eguchi K, <u>Kario K</u> . Ambulatory versus home versus clinic blood pressure. Hypertension. 59:e25, 2012
有	G107	Matsui Y, <u>Kario K</u> . Prognostic value of the home blood pressure variability: which is best? Hypertension. 59:e33, 2012
有	G108	Yano Y, <u>Kario K</u> . Nocturnal blood pressure and cardiovascular disease: a review of recent advances.Hypertens Res. 35:695-701, 2012
有	G109	Shimizu M, Ishikawa J, Yano Y, Hoshide S, Eguchi K, Ishikawa S, Shimada K, <u>Kario K</u> . Association between asleep blood pressure and brain natriuretic peptide during antihypertensive treatment: the Japan Morning Surge-Target Organ Protection (J-TOP) study.J Hypertens. 30:1015-1021, 2012
有	G110	Hoshide S, Yano Y, Shimizu M, Eguchi K, Ishikawa J, <u>Kario K</u> . Is home blood pressure variability itself an interventional target beyond lowering mean home blood pressure during anti-hypertensive treatment? Hypertens Res. 35:862-866, 2012
有	G111	<u>Kario K</u> , Odawara M, Kimura K, Node K. Nearly Half of Uncontrolled Hypertensive Patients could be Controlled by High-dose Titration of Amlodipine in the Clinical Setting: The ACHIEVE Study. Curr Hypertens Rev.7: 102-110, 2011
有	G112	Yano Y, <u>Kario K</u> . The risk of cold temperature: an important aspect of the determination of morning blood pressure surge. Hypertens Res. 34:36-38, 2011

有	G113	<u>Kario K</u> , Yano Y, Matsuo T, Hoshide S, Eguchi K, Shimada K. Additional impact of morning haemostatic risk factors and morning blood pressure surge on stroke risk in older Japanese hypertensive patients. <i>Eur Heart J</i> . 32:574-580, 2011
有	G114	Matsui Y, Eguchi K, O'Rourke MF, Ishikawa J, Shimada K, <u>Kario K</u> . Association between aldosterone induced by antihypertensive medication and arterial stiffness reduction: the J-CORE study. <i>Atherosclerosis</i> . 215:184-188, 2011
有	G115	Yano Y, Inokuchi T, Hoshide S, Kanemaru Y, Shimada K, <u>Kario K</u> . Association of poor physical function and cognitive dysfunction with high nocturnal blood pressure level in treated elderly hypertensive patients. <i>Am J Hypertens</i> . 24:285-291, 2011
有	G116	Nagai M, Hoshide S, Ishikawa J, Shimada K, <u>Kario K</u> . Visit-to-visit blood pressure variations: new independent determinants for carotid artery measures in the elderly at high risk of cardiovascular disease. <i>J Am Soc Hypertens</i> . 5:184-192, 2011.
有	G117	Matsui Y, Ishikawa J, Eguchi K, Shibasaki S, Shimada K, <u>Kario K</u> . Maximum value of home blood pressure: a novel indicator of target organ damage in hypertension. <i>Hypertension</i> . 57:1087-1093, 2011
有	G118	Shirasaki O, Kuwabara M, Saito M, Tagami K, Washiya S, <u>Kario K</u> . Development and clinical application of a new technique for detecting 'sleep blood pressure surges' in sleep apnea patients based on a variable desaturation threshold. <i>Hypertens Res</i> . 34:922-928, 2011
有	G119	Ishikawa J, Eguchi K, Hoshide S, Shimada K, <u>Kario K</u> . Relationship between the change in left ventricular hypertrophy and asleep blood pressure after sodium restriction and/or diuretic treatment. <i>Blood Press Monit</i> . 16:172-179, 2011
有	G120	<u>Kario K</u> . Are melatonin and its receptor agonist specific antihypertensive modulators of resistant hypertension caused by disrupted circadian rhythm? <i>J Am Soc Hypertens</i> . 5:354-358, 2011
有	G121	Wang JG, <u>Kario K</u> , Lau T, Wei YQ, Park CG, Kim CH, Huang J, Zhang W, Li Y, Yan P, Hu D; Asian Pacific Heart Association. Use of dihydropyridine calcium channel blockers in the management of hypertension in Eastern Asians: a scientific statement from the Asian Pacific Heart Association. <i>Hypertens Res</i> . 34:423-430, 2011
有	G122	Yano Y, Haimoto H, Hoshide S, Kabutoya T, Eguchi K, <u>Kario K</u> . Evening heart rate measured at home is associated with visceral obesity and abnormal fat distribution in patients with hypertension. <i>Am J Hypertens</i> . 24:783-788, 2011
有	G123	<u>Kario K</u> , Nishizawa M, Hoshide S, Shimpo M, Ishibashi Y, Kunii O, Shibuya K. Development of a disaster cardiovascular prevention network. <i>Lancet</i> . 378:1125-1127, 2011
有	G124	Nagai M, Hoshide S, <u>Kario K</u> . Visit-to-visit blood pressure variability and carotid artery atherosclerosis: heart rate was not a confounder. <i>Hypertension</i> . 58:e16, 2011
有	G125	Shimizu M, Ishikawa J, Yano Y, Hoshide S, Shimada K, <u>Kario K</u> . The relationship between the morning blood pressure surge and low-grade inflammation on silent cerebral infarct and clinical stroke events. <i>Atherosclerosis</i> . 219:316-321, 2011
有	G126	<u>Kario K</u> , Yano Y, Matsuo T, Hoshide S, Asada Y, Shimada K. Morning blood pressure surge, morning platelet aggregation, and silent cerebral infarction in older Japanese hypertensive patients. <i>J Hypertens</i> . 29:2433-2439, 2011
有	G127	Nagai M, <u>Kario K</u> . Chronic kidney disease, 24-h blood pressure burden and their effects on silent cerebral injury and cognitive impairment: might age serve as a modulator? <i>Hypertens Res</i> . 34:1253-1254, 2011

## (部門名) 発達医学部門

査読の有無	通し番号	
有	*H1	Yang Z, Matsumoto A, Nakayama K, Jimbo EF, Kojima K, Nagata KI, Iwamoto S, <u>Yamagata T</u> .: Circadian-relevant genes are highly polymorphic in autism spectrum disorder patients. Brain Dev 2015 [Epub ahead of print]
有	H2	Fujita-Jimbo E, Tanabe Y, Yu Z, Kojima K, Mori M, Li H, Iwamoto S, <u>Yamagata T</u> , Momoi MY, Momoi T.: The association of GPR85 with PSD-95-neurologin complex and autism spectrum disorder: a molecular analysis. Mol Autism 6:17, 2015
有	*H3	Inaguma Y, Ito H, Hara A, Iwamoto I, Matsumoto A, <u>Yamagata T</u> , Tabata H, Nagata K.: Morphological characterization of mammalian timeless in the mouse brain development. Neurosci Res 92:21-8, 2015
有	H4	Inaguma Y, Ito H, Iwamoto I, Matsumoto A, <u>Yamagata T</u> , Tabata H, Nagata KI.: Morphological characterization of Class III phosphoinositide 3-kinase during mouse brain development. Med Mol Morphol 2015 [Epub ahead of print]
有	*H5	Mizuno M, Matsumoto A, Hamada N, Ito H, Miyauchi A, Jimbo EF, Momoi MY, Tabata H, <u>Yamagata T</u> , Nagata K.: Role of an adaptor protein Lin-7B in brain development: possible involvement in autism spectrum disorders. J Neurochem. 132:61-9, 2015
有	H6	Nakamura S, Osaka H, Muramatsu S, Aoki S, Jimbo EF, <u>Yamagata T</u> .: Mutational and functional analysis of Glucose transporter I deficiency syndrome. Mol Genet Metab 2015 [Epub ahead of print]
有	H7	Monden Y, Dan I, Nagashima M, Dan H, Uga M, Ikeda T, Tsuzuki D, Kyutoku Y, Gunji Y, Hirano D, Taniguchi T, Shimoizumi H, Watanabe E, <u>Yamagata T</u> .: Individual classification of ADHD children by right prefrontal hemodynamic responses during a go/no-go task as assessed by fNIRS. Neuroimage Clin 9:1-12, 2015
有	H8	Saitu H, Fukai R, Ben-Zeev B, Sakai Y, Mimaki M, Okamoto N, Suzuki Y, Monden Y, Saito H, Tziperman B, Torio M, Akamine S, Takahashi N, Osaka H, <u>Yamagata T</u> , Nakamura K, Tsurusaki Y, Nakashima M, Miyake N, Shiina M, Ogata K, Matsumoto N.: Phenotypic spectrum of GNAO1 variants: epileptic encephalopathy to involuntary movements with severe developmental delay. Eur J Hum Genet 2015 [Epub ahead of print]
有	*H9	Matsumoto A, Mizuno M, Hamada N, Nozaki Y, Jimbo EF, Momoi MY, Nagata K, <u>Yamagata T</u> : LIN7A depletion disrupts cerebral cortex development contributing to intellectual disability in 12q21-deletion syndrome. PLoS One 9:e92695, 2014
有	*H10	Saito M, <u>Yamagata T</u> , Shiba Y, Nagashima M, Taniguchi S, Jimbo E, Momoi MY: MAOA/B deletion syndrome in male siblings with severe developmental delay and sudden loss of muscle tonus. Brain Dev 36:64-9, 2014
有	H11	Nagashima M, Monden Y, Dan I, Dan H, Tsuzuki D, Mizutani T, Kyutoku Y, Gunji Y, Hirano D, Taniguchi T, Shimoizumi H, Momoi MY, Watanabe E, <u>Yamagata T</u> : Acute neuropharmacological effects of atomoxetine on inhibitory control in ADHD children: a fNIRS study. Neuroimage Clin. 6:192-201, 2014
有	H12	Okamoto N, <u>Yamagata T</u> , Yada Y, Ichihashi K, Matsumoto N, Momoi MY, Mizuguchi T: Williams-Beuren syndrome with brain malformation and hypertrophic cardiomyopathy. Brain Dev 36:523-7, 2014
有	H13	Nagashima M, Monden Y, Dan I, Dan H, Mizutani T, Tsuzuki D, Kyutoku Y, Gunji Y, Hirano D, Taniguchi T, Shimoizumi H, Momoi MY, <u>Yamagata T</u> , Watanabe E.: Neuropharmacological effect of atomoxetine on attention network in children with attention deficit hyperactivity disorder during oddball paradigms as assessed using functional near-infrared spectroscopy. Neurophotonics 1:025007,2014.

有	H14	Nagashima M, Monden Y, Dan I, Dan H, Tsuzuki D, Mizutani T, Kyutoku Y, Gunji Y, Momoi MY, Watanabe E, <u>Yamagata T.</u> : Neuropharmacological effect of methylphenidate on attention network in children with attention deficit hyperactivity disorder during oddball paradigms as assessed using functional near-infrared spectroscopy. Neurophotonics. 1:015001,2014.
有	H15	Nagashima M, Monden Y, Dan I, Dan H, Tsuzuki D, Mizutani T, Kyutoku Y, Gunji Y, Hirano D, Taniguchi T, Shimoizumi H, Momoi MY, Watanabe E, <u>Yamagata T.</u> Acute neuropharmacological effects of atomoxetine on inhibitory control in ADHD children: a fNIRS study. Neuroimage Clin. 6:192-201,2014.
有	H16	Uehara N, Mori M, Tokuzawa Y, Mizuno Y, Tamaru S, Kohda M, Moriyama Y, Nakachi Y, Matoba N, Sakai T, Yamazaki T, Harashima H, Murayama K, Hattori K, Hayashi J, <u>Yamagata T</u> , Fujita Y, Ito M, Tanaka M, Nibu K, Ohtake A, Okazaki Y. New MT-ND6 and NDUFA1 mutations in mitochondrial respiratory chain disorders. Ann Clin Transl Neurol 1:361-9, 2014
有	H17	Matsumoto A, Kuwajima M, Miyake K, Kojima K, Nakashima N, Jimbo EF, Kubota T, Momoi MY, <u>Yamagata T.</u> : An Xp22.12 microduplication including RPS6KA3 identified in a family with variably affected intellectual and behavioral disabilities. J Hum Genet 58:755-7, 2013
有	H18	Kato M, <u>Yamagata T</u> , Kubota M, Arai H, Yamashita S, Nakagawa T, Fujii T, Sugai K, Imai K, Uster T, Chitayat D, Weiss S, Kashii H, Kusano R, Matsumoto A, Nakamura K, Oyazato Y, Maeno M, Nishiyama K, Koderia H, Nakashima M, Tsurusaki Y, Miyake N, Saito K, Hayasaka K, Matsumoto N, Saitsu H.: Clinical spectrum of early onset epileptic encephalopathies caused by KCNQ2 mutation. Epilepsia 54:1282-7, 2013
有	H19	Fujita-Jimbo E, Yu ZL, Li H, <u>Yamagata T</u> , Mori M, Momoi T, Momoi MY.: Mutation in Parkinson disease-associated, G-protein-coupled receptor 37 (GPR37/PaelR) is related to Autism spectrum disorder. 7:e51155, 2012
有	H20	Tsurusaki Y, Okamoto N, Ohashi H, Kosho T, Imai Y, Hibi-Ko Y, Kaname T, Naritomi K, Kawame H, Wakui K, Fukushima Y, Homma T, Kato M, Hiraki Y, <u>Yamagata T</u> , Yano S, Mizuno S, Sakazume S, Ishii T, Nagai T, Shiina M, Ogata K, Ohta T, Niikawa N, Miyatake S, Okada I, Mizuguchi T, Doi H, Saitsu H, Miyake N, Matsumoto N: Mutations affecting components of the SWI/SNF complex cause Coffin-Siris syndrome. Nat Genet 44:376-378, 2012
有	H21	Monden Y, Dan H, Nagashima M, Dan I, Tsuzuki D, Kyutoku Y, Gunji Y, <u>Yamagata T</u> , Watanabe E, Momoi MY.: Right prefrontal activation as a neuro-functional biomarker for monitoring acute effects of methylphenidate in ADHD children: An fNIRS study. Neuroimage Clin 1:131-40, 2012
有	H22	Monden Y, Dan H, Nagashima M, Dan I, Kyutoku Y, Okamoto M, <u>Yamagata T</u> , Momoi MY, Watanabe E.: Clinically-oriented monitoring of acute effects of methylphenidate on cerebral hemodynamics in ADHD children using fNIRS. Clin Neurophysiol 23:1147-57, 2012

(部門名) 子どもの心の診療科

査読の有無	通し番号	
有	I 1	星野美幸、佐藤美紀子、 <u>阿部隆明</u> ：児童思春期の摂食障害に対する心理教育クリニックパス。精神科治療学27:1465-1472, 2012

《 図 書 》

(部門名) 統合生理学部門

通し番号	
A 48	Dezak K, Boldbaatar D, Kurashina T, <u>Yada T</u> : Ghrelin's novel signaling in islet $\beta$ -cells to inhibit insulin secretion and its blockade as a promising strategy to treat type 2 diabetes. In: Ghrelin in Health and Disease, Springer Science+Business Media, New York, p51-71, 2013
A 49	Dezaki K, <u>Yada T</u> : Islet $\beta$ -cell ghrelin signaling for inhibition of insulin secretion. In: Methods in Enzymology, Elsevier Inc, 514: 317-331, 2012
A 50	岩崎有作、 <u>矢田俊彦</u> : 自律神経系による末梢環境感知と摂食・代謝調節—メタボリックシンドロームにおける変調. Clinical Neuroscience、32(12)、4頁(1383-1386)、2014
A 51	中田正範、 <u>矢田俊彦</u> : 摂食調節機構と神経ペプチド. 医学のあゆみ、250(9)、5頁(785-789)、2014
A 52	前島裕子、 <u>矢田俊彦</u> : オキシトシンの中枢神経作用. 内分泌・糖尿病・代謝内科、39(1)、6頁(20-25)、2014
A 53	中田正範、 <u>矢田俊彦</u> : 摂食概日リズムと視床下部. アンチ・エイジング医学、10(2)、6頁(46-51)、2014
A 54	栗田英治、 <u>矢田俊彦</u> : 中枢グルコース感知と摂食調節機構. Diabetes Frontier、25(1)、6頁(40-45)、2014
A 55	<u>矢田俊彦</u> : 膵臓の内分泌機能と炭水化物代謝の調節(翻訳). In ギャノン生理学. 原書24版 岡田泰伸(監訳)、丸善、東京、26頁(495-520)、2014
A 56	前島裕子、 <u>矢田俊彦</u> : オキシトシンによる摂食代謝調節: 神経回路、末梢 - 中枢連関と肥満治療基盤. 血管医学、メディカルレビュー社、5頁(53-57)、2013
A 57	前島裕子、Udval Sedbazar、 <u>矢田俊彦</u> : 中枢・末梢ネスファチンによる摂食制御と神経経路. Clinical Neuroscience、中外医学社、3頁(181-183)、2012

(部門名) 神経脳生理学部門

通し番号	
C 23	Wang Y, Takayanagi Y, <u>Onaka T</u> : Effects of medial amygdala lesions upon social behaviour in mice. In "Advances in Cognitive Neurodynamics(III) -Proceedings of the third International Conference on Cognitive Neurodynamics-2011" Edited by Yamaguchi Y, pp753-757, Springer, 2013
C 24	<u>尾仲達史</u> : アロスタティックロード、延髄、オキシトシン、オキシトシン受容体、ガラニン様ペプチド、弓状核、視索上核、視床下部背内側核、視床室傍核、ストレスホルモン、大細胞性神経分泌細胞、代謝、ニューロメジンU、バゾプレシン、プロラクチン放出ペプチド. In ストレス科学事典(日本ストレス学会 パブリックヘルスリサーチセンター監修)、実践教育出版、20頁、2011

(部門名) 臨床薬理学部門

通し番号	
D 30	<u>藤村昭夫</u> (編著): 時間治療学(第2版). 日本医事新報社、177頁、2014

D31	安藤 仁、 <u>藤村昭夫</u> ：糖尿病の日内リズムを考慮した糖尿病治療. In 時間治療学による最新の治療戦略. 医薬ジャーナル社、10頁、2012
D32	<u>藤村昭夫</u> ：循環器疾患の時間治療. In 時間治療学による最新の治療戦略. 医薬ジャーナル社、11頁、2012

(部門名) 内分泌代謝学部門

通し番号	
E 11	<u>山室大介</u> 、 <u>石橋 俊</u> ：サーカディアンリズムと脂質代謝：医学のあゆみ：サーカディアンリズムと循環器疾患：医歯薬出版株式会社：4頁：2015

(部門名) 機能生化学部門

通し番号	
* F 11	<u>遠藤仁司</u> 、 <u>笠嶋克巳</u> ：ミトコンドリア膜の機能的な新タンパク質類-プロヒビチン、生体の科学、第63巻5号、432-433、医学書院、2012

(部門名) 循環器内科学部門

通し番号	
G128	<u>荻尾七臣</u> ：特集 心血管イベント抑制を目指した治療選択～β遮断薬の位置づけを中心に～ いかなる高血圧患者にβ遮断薬を選択するか ～パーフェクト24時間血圧コントロールの観点から～. 診療と新薬、医事出版社、6頁、2015
G129	<u>藤原健史</u> 、 <u>星出聡</u> 、 <u>荻尾七臣</u> ：1. 家庭血圧（就寝前か夕食前）・白衣高血圧（朝夕のみでよいか）. ガイドラインから読み解く 高血圧診療のClinical Conference 17講. 医薬ジャーナル社、19頁、2015
G130	<u>星出聡</u> 、 <u>荻尾七臣</u> ：トピックス8 高血圧症. 循環器診療の最新エビデンスを使いこなす. 学研マーケティング、15頁、2015
G131	<u>星出聡</u> 、 <u>荻尾七臣</u> ：特集：循環器疾患のtrends & topics 2015 高血圧治療のup date. Mebio、メジカルビュー社、7頁、2015
G132	<u>星出聡</u> 、 <u>荻尾七臣</u> ：サーカディアンリズムと循環器疾患；サーカディアンリズムと高血圧. 医学のあゆみ、医歯薬出版、6頁、2015
G133	<u>西澤匡史</u> 、 <u>星出聡</u> 、 <u>荻尾七臣</u> ：EBM 循環器疾患の治療（2015-2016）IV. 高血圧・肺高血圧・脂質異常症；A. 高血圧；2. 家庭血圧測定とABPMが明らかにしたこと・すべきことは何か？ 中外医学社、4頁、2015
G134	<u>Kario K</u> ：Essential manual of 24-hour blood pressure management from morning to nocturnal hypertension. Wiley-Blackwell, London, pp. 1-138, 2015
G135	<u>荻尾七臣</u> ：パーフェクト24時間血圧コントロール Up to date、ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社、139頁、2015
G136	<u>水野裕之</u> 、 <u>星出聡</u> 、 <u>荻尾七臣</u> ：特集 循環器科医必携—日常診療の疑問解決します—；a. ABPM（血圧日内変動）が必要なのはどういった患者ですか. ABPMを降圧治療にどう応用しますか. Heart View 増刊号、メジカルビュー社、4頁、2014

G137	荻尾七臣：Viewpoint；高血圧治療は画一緩和ガイドラインから主治医が考える個別療法へ。Arterial Stiffness、メジカルビュー社、1頁、2014
G138	荻尾七臣（インタビュー記事）：Precise management of poly-vascular disease under ABI detection. Clinic 門診、3頁、2014
G139	福富基城、星出聡、荻尾七臣：特集 高血圧治療ガイドライン JSH 2014；3. 血圧測定と臨床評価。動脈硬化予防、メジカルビュー社、8頁、2014
G140	荻尾七臣：特集・血圧変動へのRASの関与を探る；血圧変動と心血管リスクー全身血行動態アテローム血栓症候群（Systemic Hemodynamic Atherothrombotic Syndrome）ー。Angiotensin Research、先端医学社、6頁、2014
G141	荻尾七臣：①「夜間高血圧の観点から」。血圧、先端医学社、4頁、2014
G142	荻尾七臣：III 高血圧診断・血圧測定とその臨床的意義；24時間血圧。日本臨床増刊号 最新臨床高血圧学、日本臨床社、11頁、2014
G143	柴崎誠一、荻尾七臣：第14章 血圧の異常；4 低血圧症、失神。専門医のための循環器病学、医学書院、14頁、2014
G144	荻尾七臣：V 危険因子 高血圧症；脳卒中と高血圧：概論。日本臨床 増刊号 最新臨床脳卒中学（上）、日本臨床社、10頁、2014
G145	石川譲治、荻尾七臣：特集：血圧サーカディアンリズム V. 24時間パーフェクト血圧管理をめざした治療 薬物療法； $\alpha$ 遮断薬・ $\beta$ 遮断薬。日本臨床、日本臨床社、5頁、2014
G146	星出聡、荻尾七臣：特集：血圧サーカディアンリズム III. 血圧サーカディアンリズムに基づく高血圧サブタイプ病態、診断および管理法ー。早朝高血圧・血圧モーニングサージ。日本臨床、日本臨床社、5頁、2014
G147	荻尾七臣（委員）；高血圧専門医ガイドブック作成委員会；編集 日本高血圧学会 高血圧専門医ならびに専門医をめざす医師のための 高血圧専門医ガイドブック 改訂第3版、診断と治療社、1頁、2014
G148	星出聡、荻尾七臣：俺流処方[高血圧] 2 高血圧の時間医学。メタボリックドミノに挑む！ 俺流処方 糖尿病・腎・内分泌疾患編、南山堂、5頁、2014
G149	荻尾七臣（編者：塩見利明）：8.2 高血圧。睡眠時無呼吸症ー広がるSASの診療ー 朝倉書店、6頁、2013
G150	星出聡、荻尾七臣：特集：概日リズムと疾患；II 概日リズムと疾患；高血圧。日本臨床、日本臨床社、5頁、2013
G151	福富基城、荻尾七臣：血圧変動と炎症。血圧、先端医学社、4頁、2013
G152	永井道明、荻尾七臣：XII 各科領域・疾患における睡眠障害；高血圧 sleep duration, insomnia and hypertension. 日本臨床 増刊号 最新臨床睡眠学 睡眠障害の基礎と臨床、日本臨床社、6頁、2013
G153	荻尾七臣：血圧異常；高血圧；7 治療。改訂第8版 内科学書 vol.3 循環器疾患、腎・尿路疾患、中山書店、5頁、2013
G154	荻尾七臣（企画・構成）：特集 高血圧症ー新しい治療戦略を練るー。Heart View、メジカルビュー社、132頁、2013
G155	星出聡、荻尾七臣：血圧変動性と循環器疾患。Cardiovascular Frontier、メディカルレビュー社、6頁、2013
G156	荻尾七臣（企画編集）：特集 パーフェクト24時間血圧コントロールを目指す 睡眠・サーカディアン高血圧治療。月刊循環器 CIRCULATION、1頁、医学出版、2013



G157	<u>荻尾七臣</u> ：家庭血圧、自由行動下血圧。今日の循環器疾患治療指針第3版、医学書院、3頁、2013
G158	星出聡、 <u>荻尾七臣</u> ：血圧異常。今日の循環器疾患治療指針第3版、医学書院、4頁、2013
G159	<u>荻尾七臣</u> ：高血圧セミナー；最近の高血圧の実地診療上不可欠の課題とその対処；白衣・仮面・早朝・夜間高血圧の診断と治療とその意義。Medical Practice、文光堂、9頁、2013
G160	<u>荻尾七臣</u> ：創刊200号記念特集 今後の高血圧研究の抱負；－循環器リスクとしての血圧変動性のエビデンスの確立－。血圧、先端医学社、1頁、2013
G161	星出聡、 <u>荻尾七臣</u> ：話題 ABPM関連研究。In 内分泌・糖尿病・代謝内科。科学評論社、8頁、2012
G162	矢野裕一郎、 <u>荻尾七臣</u> ：ABPMでわかるハイリスク高血圧(2) 血圧モーニングサージ In 臨床高血圧ワークブック第1巻～エビデンスを超えた次の一手～血圧の評価と高血圧の診断。医薬ジャーナル社、10頁、2012
G163	永井道明、 <u>荻尾七臣</u> ：特集：高血圧における生活習慣修正とエビデンス 「睡眠と血圧」。In 循環器内科。科学評論社、6頁、2012
G164	永井道明、 <u>荻尾七臣</u> ：特集：睡眠と生活習慣病 IV. 睡眠習慣と生活習慣病 睡眠習慣の生活習慣病発症への関与「睡眠習慣と高血圧」。In 日本臨牀。日本臨牀社、7頁、2012
G165	永井道明、 <u>荻尾七臣</u> ：Information Up-to-Date1202：閉塞性睡眠時無呼吸と高血圧 In 血圧。先端医学社、2頁、2012
G166	永井道明、 <u>荻尾七臣</u> ：Information Up-to-Date1201：睡眠障害と高血圧。In 血圧。先端医学社、2頁、2012
G167	<u>荻尾七臣</u> ：高血圧診断のあらたなエビデンス 「ABPM：パーフェクト24時間血圧コントロールへの臨床応用」。In 医学のあゆみ。医歯薬出版、9頁、2012
G168	<u>荻尾七臣</u> ：巻頭言：降圧の質を見つめる－血圧日内変動を中心に－ In 実験 治療。1頁、2012
G169	<u>Kario K.</u> Morning Surge in blood pressure in hypertension: clinical relevance, prognostic significance and therapeutic approach. In Berbari AE, Mancia G(eds). pp 71-89. Springer Inc., 2012.
G170	<u>荻尾七臣</u> ：脳卒中と高血圧－サーカディアンリズムの視点より。In Stroke-Expert Network。先端医学社、2頁、2012
G171	星出聡、 <u>荻尾七臣</u> ：特集：これからの高血圧治療－残された課題への挑戦 「血圧変動性」。In カレントセラピー。ライフメディコム、6頁、2012
G172	<u>荻尾七臣</u> ：III. 診断と治療－最新の進歩 E. 高血圧・肺高血圧症 2. 「24時間自由行動下血圧測定(ABPM)の血圧管理への効果」 In Annual Review 2012 循環器。中外医学社、12頁、2012
G173	<u>荻尾七臣</u> ：RAA系のサーカディアンリズムと降圧療法。In Renin Academy Japan Journal。4頁、2011
G174	<u>荻尾七臣</u> ：第31回日本臨床薬理学会 記事：生体の時計システム利用した時間治療を解説。In Medical Tribune。(株)メディカルトリビューン、1頁、2011
G175	桂田健一、 <u>荻尾七臣</u> ：日内リズムと高血圧。In Anti-aging Science。メディカルレビュー社、8頁、2011

G176	石山祐介、 <u>苺尾七臣</u> ：特集：今，変わりつつある不眠症の治療 「不眠症と高血圧との関連をみる」． In Life Style Medicine. 先端医学社、6頁、2011
G177	志水元洋、 <u>苺尾七臣</u> ：ハイリスク高血圧罹患患者におけるパーフェクト24時間高血圧管理． In 微研ジャーナル友． (株) 高等微生物研究所、9頁、2011
G178	<u>苺尾七臣</u> ：診断 24時間血圧測定の必要性． In 日本内科学会雑誌． 社団法人日本内科学会、10頁、2011
G179	永井道明、 <u>苺尾七臣</u> ：診察室血圧変動性—新たな脳心血管リスクとしてのvisit-visit 血圧変動性 特集 血圧変動 Update. In 動脈硬化予防. メジカルビュー社、5頁、2011
G180	<u>苺尾七臣</u> ：血圧モーニングサージと心血管リスク—エビデンスと展望— 特集 血圧変動 Update. In 動脈硬化予防. メジカルビュー社、12頁、2011
G181	矢野裕一郎、 <u>苺尾七臣</u> ：ABPMで評価する血圧変動—短期変動 特集 血圧変動 Update. In 動脈硬化予防. メジカルビュー社、6頁、2011
G182	<u>苺尾七臣</u> ：「特集 血圧変動 Update」． In 動脈硬化予防. メジカルビュー社、企画立案、112頁、2011
G183	永井道明、 <u>苺尾七臣</u> ：睡眠障害が身体に及ぼす影響． In 治療. 南山堂、7頁、2011
G184	永井道明、 <u>苺尾七臣</u> ：特集 睡眠呼吸障害と全身疾患 「高齢者医療における睡眠呼吸障害診療の実際」． In 総合臨牀. 永井書店、6頁、2011
G185	永井道明、 <u>苺尾七臣</u> ：特集：早朝高血圧・夜間高血圧 「早朝・夜間高血圧と睡眠時無呼吸症候群」． In 血圧. 先端医学社、6頁、2011
G186	永井道明、 <u>苺尾七臣</u> ：循環器疾患と睡眠． In 医学のあゆみ. 医歯薬出版社(株) 7頁、2011
G187	<u>苺尾七臣</u> ：特集：高血圧最前線 II. 高血圧治療と管理の課題 「血圧モーニングサージとスリープサージ—臨床高血圧の新規視点—」． In 日本臨牀. 日本臨牀社、7頁、2011
G188	早川学、矢野裕一郎、黒木和男、 <u>苺尾七臣</u> ：Dipper/non-dipper . In 高血圧ナビゲーター. メディカルレビュー社、2頁、2011
G189	<u>苺尾七臣</u> ：早朝高血圧. In 高血圧ナビゲーター. メディカルレビュー社、2頁、2011

(部門名) 子どもの心の診療科

通し番号	
I 2	阿部隆明、佐藤和繁：他の精神障害の修飾因子としての発達障害—自閉スペクトラム症を中心に—。発達障害ベストプラクティス—子どもから大人まで—。精神科治療学Vol. 29 増刊号:25-29, 2014

《 学 会 発 表 》

(部門名) 統合生理学部門

通し番号	
------	--

A58	矢田俊彦：中枢神経/末梢投与オキシトシンによる摂食調節機構と肥満症治療基盤。第158回日本獣医学会学術集会生理学・生化学分科会シンポジウム(十和田) 2015年9月7日～9日
A59	伊藤聖学、吉田昌史、山田穂高、出崎克也、大河原晋、川上正舒、田部井薫、 <u>矢田俊彦</u> 、加計正文：腓路。第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21日～24日 <input type="checkbox"/>
A60	岩崎有作、Enkh-Amar Ayush、岩本禎彦、中林肇、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> ：グルカゴンはグルカゴン受容体を介して求心性迷走神経を活性化する。第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21日～24日
A61	出崎克也、Sukma Rita Rauza、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> ：腓路1のインスリン分泌促進作用を仲介する。第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21日～24日 <input type="checkbox"/>
A62	吉田昌史、出崎克也、中田正範、内田邦敏、伊藤聖学、山田穂高、富永真琴、川上正舒、 <u>矢田俊彦</u> 、加計正文：新規ブドウ糖刺激インスリン分泌惹起経路としてのTrpm2チャンネル。第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21日～24日
A63	山田穂高、吉田昌史、伊藤聖学、出崎克也、川上正舒、石川三衛、 <u>矢田俊彦</u> 、加計正文：GPR40シグナルは背景電流を増加させ腓路。第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21日～24日 <input type="checkbox"/>
A64	出崎克也、Sukma Rita Rauza、倉科智行、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> ：腓路を標的としたインスリン分泌機能改善。第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21日～24日 <input type="checkbox"/>
A65	王磊、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> ：室傍核NUCB2/Nesfatin-1ノックダウンマウスの解析：摂食概日リズム障害と内臓肥満。第88回日本内分泌学会学術総会(東京) 2015年4月23日～25日
A66	吉田昌史、出崎克也、内田邦敏、石川三衛、川上正舒、富永真琴、 <u>矢田俊彦</u> 、加計正文：新規インスリン分泌惹起経路としてのTrpm2チャンネル。第88回日本内分泌学会学術総会(東京) 2015年4月23日～25日
A67	岩崎有作、前島裕子、吉田昌史、須山成朝、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> ：末梢オキシトシン→求心性迷走神経→脳」軸の活性化による過食・肥満抑制。第88回日本内分泌学会学術総会, 2015. 4. 23-25, 東京
A68	岩崎有作、前島裕子、吉田昌史、荒井健、須山成朝、桂田健一、中林肇、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> ：末梢Oxytocin は求心性迷走神経を活性化して摂食を抑制する。第120回日本解剖学会総会・全国学術集会第92回日本生理学会大会合同大会(神戸) 2015年3月21日～23日
A69	Enkh-Amar Ayush、岩崎有作、岩本禎彦、 <u>矢田俊彦</u> ：グルカゴンは求心性迷走神経に直接作用し活性化させる：摂食調節への役割。第120回日本解剖学会総会・全国学術集会第92回日本生理学会大会合同大会(神戸) 2015年3月21日～23日
A70	出崎克也、Rita Rauza Sukma、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> ：Kv2.1チャンネル阻害はGLP-1誘発インスリン分泌を増強し2型糖尿病の耐糖能を改善する。第120回日本解剖学会総会・全国学術集会第92回日本生理学会大会合同大会(神戸) 2015年3月21日～23日
A71	中田正範、Darambazar Gantulga、王磊、 <u>矢田俊彦</u> ：室傍核NUCB2/nesfatin-1ニューロンによる摂食調節。第120回日本解剖学会総会・全国学術集会第92回日本生理学会大会合同大会(神戸) 2015年3月21日～23日
A72	小沢一世、岩崎有作、 <u>矢田俊彦</u> ：GLP-1末梢投与によるアドレナリン分泌促進。第35回日本肥満学会(宮崎) 2014年10月24日～25日

A73	桂田健一、前島裕子、中田正範、苅尾七臣、 <u>矢田俊彦</u> ：脳の内因性GLP-1 は視床下部室傍核に作用し摂食を抑制する。第35回日本肥満学会(宮崎) 2014年10月24日～25日
A74	岩崎有作、前島裕子、吉田昌史、荒井健、須山成朝、桂田健一、中林肇、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> ：オキシトシン末梢投与による求心性迷走神経を介した摂食抑制作用。第35回日本肥満学会(宮崎) 2014年10月24日～25日
A75	河野大輔、佐々木努、小島至、北村忠弘、 <u>矢田俊彦</u> ：視床下部弓状核の甘味受容体による摂食調節機構。第35回日本肥満学会(宮崎) 2014年10月24日～25日
A76	中田正範、小平美里、王磊、李恩旭、 <u>矢田俊彦</u> ：低血糖に対する糖代謝応答におけるPituitary adenylate cyclase activating polypeptide の意義。第35回日本肥満学会(宮崎) 2014年10月24日～25日
A77	岩崎有作、下村健寿、河野大輔、出崎克也、Ayush Enkh-Amar、中林肇、窪田直人、門脇孝、加計正文、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> ：インスリンによる求心性迷走神経の活性化：過食・肥満IRS2 KO マウスにおける障害および膵臓内パラクリン作用。第68回日本栄養・食糧学会大会(札幌) 2014年5月30日～6月1日
A78	出崎克也、Rita Rauza Sukma、Boldbaatar Damdindorj、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> ：グレリンはGLP-1の膵年次学術集会(大阪) 2014年5月22日～24日
A79	岩崎有作、下村健寿、河野大輔、出崎克也、Ayush Enkh-Amar、中林肇、窪田直人、門脇孝、加計正文、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> ：インスリンによる求心性迷走神経の活性化と過食・肥満・糖尿病を呈するIRS2欠損マウスにおけるその障害。第57回日本糖尿病学会年次学術集会(大阪) 2014年5月22日～24日
A80	李恩旭、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> ：新規膵その病態的意義。第57回日本糖尿病学会年次学術集会(大阪) 2014年5月22日～24日
A81	中田正範、Gantulga Darambazar、小平美里、李恩旭、 <u>矢田俊彦</u> ：視床下部室傍核を介した代謝・食欲・血圧連関。第57回日本糖尿病学会年次学術集会(大阪) 2014年5月22日～24日
A82	小平美里、中田正範、苅尾七臣、 <u>矢田俊彦</u> ：Angiotensin II の新規中枢標的：室傍核Nesfatin-1ニューロン。第51回日本臨床分子医学会学術集会(東京) 2014年4月11日～12日
A83	出崎克也、リタ スクマ ラウザ、ボルドバーター ダムディンドルジェ、 <u>矢田俊彦</u> ：グレリンはGLP-1 のインクレチン効果を抑制する。第91回日本生理学会大会(鹿児島) 2014年3月16日～18日
A84	前島裕子、佐久間和哉、下村健寿、 <u>矢田俊彦</u> ：室傍核オキシトシンの弓状核POMCニューロンを介した新規摂食抑制神経経路。第91回日本生理学会大会(鹿児島) 2014年3月16日～18日
A85	前川文彦、藤原研、鳥谷真佐子、野原恵子、 <u>矢田俊彦</u> ：全身エネルギー代謝におけるBDNF の役割と糖尿病性内臓肥満症における治療可能性。第91回日本生理学会大会(鹿児島) 2014年3月16日～18日
A86	岩崎有作、 <u>矢田俊彦</u> ：膵ホルモンは求心性迷走神経を介して脳に作用し、食欲を調節する。第91回日本生理学会大会(鹿児島) 2014年3月16日～18日
A87	出崎克也、 <u>矢田俊彦</u> ：Zucker Fattyラットの肥満初期における血中グレリン動態。第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
A88	楊怡飛、前島裕子、佐久間和哉、オトゴンウール ゼセムドルジェ、プトラ サン トソ、岩崎有作、下村健寿、 <u>矢田俊彦</u> ：抗肥満作用のある抗鬱剤ブプロピオンがインスリン分泌に与える影響。第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日

A 89	Rauza Sukma Rita、出崎克也、 <u>矢田俊彦</u> ：Glucose-induced insulin release is enhanced by blockade of Kv2.1 channels in $\beta$ -cell. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
A 90	小平美里、 <u>矢田俊彦</u> ：摂食・代謝中枢室傍核Nesfatin-1ニューロンのAngiotensin II 応答. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
A 91	荒井健、前島裕子、藤塚直樹、 <u>矢田俊彦</u> ：5-HTによるARCPOMCニューロン活性化に対する六君子湯とisoliquiritigeninの抑制作用. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
A 92	田口昌延、出崎克也、服部智久、春田英律、小泉大、細谷好則、佐田尚宏、安田是和、 <u>矢田俊彦</u> ：胃全摘ラットの摂食・体重低下に対する六君子湯の改善効果. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
A 93	桂田健一、前島裕子、中田正範、苅尾七臣、 <u>矢田俊彦</u> ：GLP-1は視床下部室傍核の摂食関連ペプチドニューロンを活性化する. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
A 94	オトゴンウール ゼセムドルジェ、前島裕子、佐久間和哉、楊怡飛、下村健寿、 <u>矢田俊彦</u> ：末梢投与オキシトシンの抗肥満・抗メタボリックシンドローム効果. 第34回日本肥満学会, 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
A 95	プトラ サントソ、前島裕子、楊怡飛、オトゴンウール ゼセムドルジェ、佐久間和哉、下村健寿、 <u>矢田俊彦</u> ：室傍核 (PVN) のnesfatin-1/NUCB2ニューロンはPACAPによって制御されている. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
A 96	岩崎有作、下村健寿、河野大輔、出崎克也、Enkh-Amar Ayush、中林肇、窪田直人、門脇孝、加計正文、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> ：膵臓を支配する求心性迷走神経は膵臓から分泌されるインスリンを効率良く受容する. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
A 97	河野大輔、小島至、北村忠弘、 <u>矢田俊彦</u> ：甘味受容体による視床下部弓状核ニューロンの活性調節. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
A 98	李恩旭、小平美里、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> ：高脂肪食負荷による肝臓LAR Tyrosine Phosphatase発現増強とインクレチンPACAPの役割. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
A 99	前島裕子、佐久間和哉、楊怡飛、Otgon-Uul Zesendorj、Putra Santoso、下村健寿、 <u>矢田俊彦</u> ：室傍核オキシトシン—弓状核POMCの双方向性摂食抑制神経経路. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
A 100	中田正範、Gantulga Darambazar、小平美里、 <u>矢田俊彦</u> ：室傍核Nesfatin-1/NUCB2ニューロンによる代謝・循環調節. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11日～12日
A 101	<u>矢田俊彦</u> 、ボルトバーターダムディンドルジェ、倉科智行、曾根英行、リタラウザ、加計正文、出崎克也：GLP-1による膵島泌促進はグレリンにより抑制される. 第90回日本生理学会大会(東京) 2013年3月27日～29日
A 102	出崎克也、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> ：グレリン受容体シグナルとしての膵ネル. 第90回日本生理学会大会(東京) 2013年3月27日～29日
A 103	出崎克也、Damdindorj Boldbaatar、Rita Rauza、 <u>矢田俊彦</u> ：グレリンのよる膵胞cAMPシグナルを介したインスリン分泌抑制. 第86回日本薬理学会年会(福岡) 2013年3月21日～23日
A 104	出崎克也、Boldbaatar Damdindorj、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> ：グレリンの膵スリン分泌抑制作用におけるcAMPシグナルの関与. 第33回日本肥満学会(京都) 2012年10月11日～12日

A105	前島裕子、岩崎有作、Sedbazar Udval、 <u>矢田俊彦</u> ：オキシトシンの生理的摂食調節作用と末梢投与による抗肥満効果。第33回日本肥満学会(京都) 2012年10月11日～12日
A106	岩崎有作、加計正文、中林肇、 <u>矢田俊彦</u> ：インスリンの求心性迷走神経への直接作用、そのGLP-1による増強とグレリンによる抑制。第66回日本栄養・食糧学会大会(仙台) 2012年5月18日～20日
A107	岩崎有作、加計正文、中林肇、 <u>矢田俊彦</u> ：インスリンの求心性迷走神経活性化作用はGLP-1により増強され、ghrelinにより抑制される。第89回日本生理学会大会(松本) 2012年3月29日～31日
A108	Gantulga Darambazar、前島裕子、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> ：視床下部室傍核nesfatin-1ニューロンのレプチン、CCKによる活性化。第32回日本肥満学会(淡路) 2011年9月23日～24日
A109	Sedbazar Udval、前島裕子、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> ：OLETFラットの過食・肥満は孤束核POMCと室傍核オキシトシンの低下による。第32回日本肥満学会(淡路) 2011年9月23日～24日
A110	前島裕子、Udval Sedbazar、中田正範、森昌朋、 <u>矢田俊彦</u> ：視床下部室傍核Nesfatin-1-Oxytocinによる摂食調節と病態的意義。第32回日本肥満学会(淡路) 2011年9月23日～24日

(部門名) 組織学部門

通し番号	
B27	Tofrizal A, Fujiwara K, <u>Yashiro T</u> , Yamada S: Collagen producing cells and their role in the extracellular matrix of pituitary adenoma. 第19回日本内分泌病理学会学術総会(佐賀) 2015年10月24日～25日
B28	矢田部 恵、藤原 研、Tofrizal Alimmudin、 <u>屋代 隆</u> 、西村 智、永井良三：エストロゲン誘発プロラクチノーマモデルラットの下垂体前葉におけるM2マクロファージの同定。第19回日本内分泌病理学会学術総会(佐賀) 2015年10月24日～25日
B29	Maliza R, Fujiwara K, <u>Yashiro T</u> : Retinoic acid regulates Ghrhr and Ghsh expression in rat anterior pituitary cells. 第42回日本神経内分泌学会学術集会(仙台) 2015年9月18日～19日
B30	藤原 研、Rita Maliza、 <u>屋代 隆</u> ：ラットを用いたプロラクチノーマ形成過程におけるミッドカイン、プレイオトロフィンの発現動態。第42回日本神経内分泌学会学術集会(仙台) 2015年9月18日～19日
B31	堀口幸太郎、藤原 研、塚田岳大、八子英司、館野こずえ、長谷川瑠美、瀧上 周、大迫俊二、 <u>屋代 隆</u> 、加藤たか子、加藤幸雄：下垂体前葉組織発達におけるS100β陽性細胞の挙動。第42回日本神経内分泌学会学術集会(仙台) 2015年9月18日～19日
B32	Maliza R, Fujiwara K, Batchuluun K, Kikuchi M, <u>Yashiro T</u> , Soji T: Gene expression analysis of folliculostellate cells in 'transitional zone' of anterior pituitary gland of rat - special relevance to circadian rhythm -. 第30回日本下垂体研究会学術集会(宇奈月温泉) 2015年8月5日～7日
B33	Tofrizal A, Azuma M, Tsukada T, Fujiwara K, Horiguchi K, <u>Yashiro T</u> , Yamada S: Identification of tissue inhibitor of matrix-metalloproteinases expressing cells in human anterior pituitary gland. 第30回日本下垂体研究会学術集会(宇奈月温泉) 2015年8月5日～7日

B 34	堀口幸太郎、館野こずえ、藤原 研、塚田岳大、八子英司、長谷川瑠美、瀧上 周、大迫俊二、 <u>屋代 隆</u> 、加藤たか子、加藤幸雄：下垂体前葉の生後発達におけるS100β陽性細胞の挙動とその制御機構の解明。第30回日本下垂体研究会学術集会（宇奈月温泉） 2015年8月5日～7日
B 35	矢田部 恵、藤原 研、Tofrizal Alimmudin、 <u>屋代 隆</u> 、西村 智、永井良三：ラット下垂体前葉におけるM2マクロファージの同定。第30回日本下垂体研究会学術集会（宇奈月温泉） 2015年8月5日～7日
B 36	堀口幸太郎、吉田彩舟、藤原 研、樋口雅司、塚田岳大、加藤たか子、館野こずえ、長谷川瑠美、瀧上 周、大迫俊二、 <u>屋代 隆</u> 、加藤幸雄：下垂体前葉内S100タンパク質陽性細胞から分泌されるケモカインCXCL10はCRF刺激性ACTH分泌を抑制する。第88回日本内分泌学会学術総会（東京） 2015年4月23日～25日
B 37	Maliza R, Fujiwara K, <u>Yashiro T</u> : Analysis of the effect of retinoic acid on anterior pituitary cell functions in adult rat. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会、第92回日本生理学会大会合同大会（神戸） 2015年3月21日～23日
B 38	Tofrizal A, Fujiwara K, <u>Yashiro T</u> , Jindatip D, Yamada S: Analysis of collagen producing cells in human anterior pituitary gland; normal pituitary and pituitary adenoma. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会、第92回日本生理学会大会合同大会（神戸） 2015年3月21日～23日
B 39	Fujiwara K, Maliza R, Yatabe M, Kouki T, <u>Yashiro T</u> : Expression of heparin-binding growth factor midkine/pleiotrophin family in the estrogen induced prolactinoma of rat. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会、第92回日本生理学会大会合同大会（神戸） 2015年3月21日～23日
B 40	Tsukada T, Ramadhani D, Syaidah R, <u>Yashiro T</u> : Transforming growth factor beta 2 from folliculostellate cells induces collagen synthesis in pericytes of rat anterior pituitary gland. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会、第92回日本生理学会大会合同大会（神戸） 2015年3月21日～23日
B 41	Azuma M, Batchuluun K, Horiguchi K, <u>Yashiro T</u> : Extracellular matrix actions in rat anterior pituitary gland: I. Its effect on hormone release from gonadotrophs. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会、第92回日本生理学会大会合同大会（神戸） 2015年3月21日～23日
B 42	Batchuluun K, Azuma M, <u>Yashiro T</u> , Kikuchi M: E-cadherin mediates Notch signaling in the rat anterior pituitary. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会、第92回日本生理学会大会合同大会（神戸） 2015年3月21日～23日
B 43	Azuma M, Batchuluun K, Fujiwara K, Tsukada T, Kikuchi M, <u>Yashiro T</u> : Identification of tissue inhibitors of metalloproteinases-expressing cells in rat anterior pituitary gland. 第39回日本比較内分泌学会大会（岡崎） 2014年11月7日～9日
B 44	Ramadhani D, Tsukada T, Syaidah R, <u>Yashiro T</u> : Immunohistochemical analysis of laminin isoform expression in diethylstilbestrol (DES)-treated rat as prolactinoma model. 第18回日本内分泌病理学会学術総会（東京） 2014年11月1日～2日
B 45	Tofrizal A, Fujiwara K, <u>Yashiro T</u> , Jindatip D, Yamada S: Collagen producing cells in human pituitary adenoma and their relations with consistency of tumors tissue. 第18回日本内分泌病理学会学術総会（東京） 2014年11月1日～2日
B 46	Maliza R, Fujiwara K, Kouki T, <u>Yashiro T</u> : Retinoic acid induces expression of growth hormone releasing hormone receptor and growth hormone secretagogue receptor in rat anterior pituitary cell. 第18回日本内分泌病理学会学術総会（東京） 2014年11月1日～2日
B 47	堀口幸太郎、吉田彩舟、藤原 研、樋口雅司、塚田岳大、加藤たか子、館野こずえ、長谷川瑠美、瀧上 周、大迫俊二、 <u>屋代 隆</u> 、加藤幸雄：下垂体前葉内S100タンパク質陽性細胞から分泌されるケモカインCXCL10のIFN-γによる制御。第41回日本神経内分泌学会学術集会（東京） 2014年10月31日～11月2日

B 48	藤原 研、Rita Maliza、矢田部 恵、 <u>屋代 隆</u> ：ラット下垂体におけるヘパリン結合性成長因子：プレイオトロフィンの発現動態. 第41回日本神経内分泌学会学術集会（東京） 2014年10月31日～11月2日
B 49	Batchuluun K, Azuma M, <u>Yashiro T</u> , Kikuchi M: Histological and functional characterization of Notch signaling in the adult rat pituitary gland. 第41回日本神経内分泌学会学術集会（東京） 2014年10月31日～11月2日
B 50	塚田岳大、藤原 研、 <u>屋代 隆</u> ：ラット下垂体前葉におけるTGFβ2の作用とTGFβ受容体の組織内局在. 第55回日本組織細胞化学会総会・学術集会（松本） 2014年9月27日～28日
B 51	Maliza R, Fujiwara K, <u>Yashiro T</u> : Retinoic acid stimulated expression of growth hormone secretagogue receptor (GHS-R) in anterior pituitary cells of adult rat. 第29回日本下垂体研究会学術集会（八王子） 2014年8月8日～10日
B 52	Tofrizal A, Fujiwara K, <u>Yashiro T</u> , Yamada S: Collagen producing cells in human anterior pituitary gland; normal pituitary gland and pituitary adenoma. 第29回日本下垂体研究会学術集会（八王子） 2014年8月8日～10日
B 53	塚田岳大、Ramadhani Dini、藤原 研、矢田部恵、喜幸 富、 <u>屋代 隆</u> ：ラット下垂体前葉における濾胞星状細胞と周皮細胞の相互作用：Transforming growth factor beta2 を介したコラーゲン合成. 第29回日本下垂体研究会学術集会（八王子） 2014年8月8日～10日
B 54	Ramadhani D, Tsukada T, <u>Yashiro T</u> : Alteration of laminin isoform expression in pituitary adenoma of diethylstilbestrol (DES)-treated rat. 第29回日本下垂体研究会学術集会（八王子） 2014年8月8日～10日
B 55	堀口幸太郎、吉田彩舟、藤原 研、樋口雅司、塚田岳大、加藤たか子、館野こずえ、長谷川瑠美、瀧上 周、大迫俊二、 <u>屋代 隆</u> 、加藤幸雄：樹状細胞様S100 タンパク質陽性細胞から分泌されるケモカインCXCL10 の機能解析. 第29回日本下垂体研究会学術集会（八王子） 2014年8月8日～10日
B 56	東 森生、Khongorzul Batchuluun、堀口幸太郎、 <u>屋代 隆</u> ：ラット下垂体前葉におけるtissue inhibitor of metalloproteinase 発現細胞の同定. 第29回日本下垂体研究会学術集会（八王子） 2014年8月8日～10日
B 57	Batchuluun K, Azuma M, <u>Yashiro T</u> , Kikuchi M, Effect of Notch2 signaling on cell proliferation and SOX2 expression in S100b-positive cells in the adult rat pituitary gland. 第29回日本下垂体研究会学術集会（八王子） 2014年8月8日～10日
B 58	Fujiwara K, Maliza R, Tofrizal A, Kikuchi M, <u>Yashiro T</u> : Expression of midkine/pleiotrophin family in the developing pituitary gland of rat. 16th International Congress of Endocrinology/The Endocrine Society's 95th Annual Meeting, Chicago, USA, June 21-24, 2014
B 59	Tsukada T, Azuma M, Ramadhani D, Batchuluun K, <u>Yashiro T</u> : Folliculostellate Cells Are Required for Laminin Release from Gonadotrophs in Rat Anterior Pituitary Gland. 16th International Congress of Endocrinology/The Endocrine Society's 95th Annual Meeting, , Chicago, USA, June 21-24, 2014
B 60	塚田岳大、 <u>屋代 隆</u> ：下垂体前葉細胞のクロストーク—三次元培養法を用いた新たなアプローチ—. 第87回日本内分泌学会学術総会（福岡） 2014年4月24日～26日
B 61	高橋和広、矢田部 恵、藤原 研、廣瀬卓男、戸恒和人、 <u>屋代 隆</u> ：プロレニン受容体mRNAのラット下垂体前葉における発現と前葉ホルモンとの関係. 第40回日本神経内分泌学会学術集会（宮崎） 2013年10月25日～26日
B 62	堀口幸太郎、吉田彩舟、藤原 研、樋口雅司、加藤たか子、館野こずえ、長谷川瑠美、瀧上 周、大迫俊二、 <u>屋代 隆</u> 、加藤幸雄：ラット下垂体前葉に存在する樹状細胞様S100タンパク質陽性細胞の単離. 第40回日本神経内分泌学会学術集会（宮崎） 2013年10月25日～26日



B 63	藤原 研、東 森生、 <u>屋代 隆</u> ：へパリン結合性成長因子midkineの胎生ラット下垂体におけるin situ hybridization法による発現様式の検討. 第38回日本比較内分泌学会大会及びシンポジウム（宮崎） 2013年10月25日～26日
B 64	藤原 研、矢田部 恵、 <u>屋代 隆</u> 、廣瀬 卓男、戸恒 和人、高橋 和広：ラット下垂体前葉におけるプロレニン受容体の免疫組織化学とin situ hybridizationによる検出. 第17回日本内分泌病理学会学術総会（横浜） 2013年10月4日～5日
B 65	堀口幸太郎、吉田彩舟、藤原 研、樋口雅司、加藤たか子、大迫俊二、 <u>屋代 隆</u> 、加藤幸雄：下垂体前葉に存在するS100タンパク陽性細胞の不均一性の探求. 第28回日本下垂体研究会（岩手） 2013年8月7日～9日
B 66	<u>屋代 隆</u> 、Depicha Jindatip、Alimuddin Tofrizal、幸喜富、東 森生、菊地元史、堀口幸太郎：ラット下垂体前葉における新規細胞腫の発見 -Desmin-immunopositive Perivascular Cell-. 第28回日本下垂体研究会（岩手） 2013年8月7日～9日
B 67	藤原 研、Rita Maliza、Khongorzul Batchuluun、Dini Ramadhani、矢田部恵、塚田岳大、 <u>屋代 隆</u> ：胎生ラット下垂体におけるミッドカインの発現. 第28回日本下垂体研究会、（岩手） 2013年8月7日～9日
B 68	Syaidah R, Horiguchi K, Ramadhani D, Tsukada T, <u>Yashiro T</u> : Laminin and collagen type-I modulate fibromodulin expression in FS cells of anterior pituitary gland. The Endocrine Society's95th Annual Meeting & Expo. June 15-18 2013,San Francisco.
B 69	Ramadhani D, Tsukada T and <u>Yashiro T</u> : Laminin isoform expression during the anterior pituitary development of rat. The Endocrine Society's95th Annual Meeting & Expo. June 15-18 2013, San Francisco.
B 70	Tsukada T, Fujiwara K, Ramadhani D, Kouki T, Kikuchi M and <u>Yashiro T</u> : Folliculostellate cells interact with microvessel mural cell 'pericyte' to maintain collagen arrangement in rat anterior pituitary. The Endocrine Society's95th Annual Meeting & Expo. June 15-18 2013,San Francisco.
B 71	Fujiwara K, Horiguchi K, Jindatip D, Ly F and <u>Yashiro T</u> :Identification of midkine-expressing cell in the anterior pituitary gland of adult rats. The Endocrine Society's95th Annual Meeting & Expo. June 15-18 2013,San Francisco.
B 72	Yako H, Higuchi M, Yoshida S, Horiguchi K , Fujiwara K, Kanno N, chen M, Ueharu H, Tsuda M , Kato T, <u>Yashiro T</u> and Kato Y :S100-posiyive cells (follicle satellite cell)drove from two different origins in the rat pituitary.The Endocrine Society's95th Annual Meeting & Expo. June 15-18 2013,San Francisco.
B 73	塚田岳大、 <u>屋代 隆</u> ：下垂体前葉の組織構築における濾胞星状細胞の役割-3事件培養法を用いた解析. 第118回日本解剖学会総会・全国学術集会（香川県高松市） 2013年3月28日～30日
B 74	藤原 研、Depicha Jindatip、堀口幸太郎、矢田部恵、 <u>屋代 隆</u> ：ラット下垂体前葉濾胞星状細胞で産生されるへパリン結合性長因子ミッドカインはレチノイン酸により誘導される：第118回日本解剖学会総会・全国学術集会（香川県高松市） 2013年3月28日～30日
B 75	堀口幸太郎、Rahimi Syaidah、Floren Ly、藤原 研、 <u>屋代 隆</u> ：下垂体発生段階における細胞膜型プロテオグリカン発現細胞の観察. 第118回日本解剖学会総会・全国学術集会（香川県高松市） 2013年3月28日～30日
B 76	菊地元史、丹籐由希子、藤原 研、 <u>屋代 隆</u> ：Notchシグナリングによる下垂体前葉S100陽性細胞の増殖制御. 第118回日本解剖学会総会・全国学術集会（香川県高松市） 2013年3月28日～30日
B 77	Rahimi Syaidah, Kotaro Horiguchi, Dini Ramadhani, Takehiro Tsukada, <u>Takashi Yashiro</u> :Laminin and collagen modulate expression of fibromodulin infolliculo-stellate cells of anterior pituitary gland. 第118回日本解剖学会総会・全国学術集会（香川県高松市） 2013年3月28日～30日

B 78	Dini Ramadhani, 塚田岳大, 幸喜富, 菊地元史, 屋代 隆 : Alteration of laminin isoform expression during the anterior pituitary development of rats. 第118回日本解剖学会総会・全国学術集会 (香川県高松市) 2013年3月28日～30日
B 79	Depicha J, Fujiwara K, <u>Yashiro T</u> : Characteristics of pericytes and novel desmin-immunopositive perivascular cells in rat anterior pituitary gland. 2nd International Anatomical Sciences and cell Biology Conference IASCBC2012, Chiang Mai, Thailand, Dec6-8, 2012
B 80	塚田岳大, Ramadhani Dini, 藤原 研, 幸喜富, 堀口幸太郎, 屋代 隆 : ラット下垂体前葉における濾胞星状細胞とLH細胞の細胞間相互作用: 基底膜構築への関与. 第37回日本比較内分泌学会大会・シンポジウム (福井県福井市) 2012年11月29日～12月1日
B 81	藤原 研, 堀口幸太郎, Depicha Jindatip, 菊地元史, 屋代 隆 : ラット下垂体前葉のS100タンパク陽性細胞が産生する分泌性細胞成長因子の解析. 第37回日本比較内分泌学会大会・シンポジウム (福井県福井市) 2012年11月29日～12月1日
B 82	菊地元史, 丹籐由希子, 藤原 研, 屋代 隆 : ラット腺下垂体S100タンパク陽性細胞にみられるNotchシグナリング. 第37回日本比較内分泌学会大会・シンポジウム (福井県福井市) 2012年11月29日～12月1日
B 83	Dini Ramadhani, 塚田岳大, 藤原 研, 屋代 隆 : Changes in laminin isoforms during the development of rat anterior pituitary. 第16回日本内分泌病理学会学術集会 (宮城県仙台市) 2012年10月11日～12日
B 84	屋代 隆, Depicha Jindatip, 幸喜 富, 藤原 研 : ラット下垂体前葉にみられる新規 Desmin-immunopositive Perivascular Cell. 第16回日本内分泌病理学会学術集会 (宮城県仙台市) 2012年10月11日～12日
B 85	堀口幸太郎, Rahimi Syaidah, 藤原 研, 屋代 隆 : 下垂体前葉におけるシンデカン遺伝子発現細胞の同定とその機能. 第39回日本神経内分泌学会学術集会 (北九州市) 2012年9月28日～29日
B 86	菊地元史, 丹籐由希子, 藤原 研, 屋代 隆 : 生体ラット下垂体におけるNotchシグナリング. 第27回日本下垂体研究会 (山形県天童市) 2012年8月9日～11日
B 87	藤原 研, Depicha Jindatip, 堀口幸太郎, 塚田岳大, 屋代 隆 : マイクロアレイを用いたラット濾胞星状細胞における遺伝子発現解析-新規傍分泌因子ミットカインの同定-. 第27回日本下垂体研究会 (山形県天童市) 2012年8月9日～11日
B 88	堀口幸太郎, Rahimi Syaidah, Dini Ramadhani, 藤原 研, 屋代 隆 : 下垂体前葉におけるプロデオグリカン遺伝子発現細胞の同定. 第27回日本下垂体研究会 (山形県天童市) 2012年8月9日～11日
B 89	塚田岳大, Dini Ramadhani, 幸喜 富, 藤原 研, 屋代 隆 : 下垂体前葉LH細胞のラミニン分泌に対する濾胞星状細胞の関与. 第27回日本下垂体研究会 (山形県天童市) 2012年8月9日～11日
B 90	Rahimi Syaidah, 堀口幸太郎, Dini Ramadhani, 塚田岳大, 屋代 隆 : Laminin up-regulates fibromodulin expression in folliculo-stellate cells f rat anterior pituitary gland. 第27回日本下垂体研究会 (山形県天童市) 2012年8月9日～11日
B 91	堀口幸太郎, 屋代 隆 : 細胞外マトリックスによる濾胞星状細胞の機能調節、さらに濾胞星状細胞による下垂体前葉の機能維持. 第89回日本生理学会大会 (長野県松本市) 2012年3月29日～31日
B 92	Dini Ramadhani, 塚田岳大, 屋代 隆 : Expression of laminin isoforms during anterior pituitary development in the rat. 第117回日本解剖学会総会・全国学術集会 (山梨県甲府市) 2012年3月26日～28日

B 93	丹籐由希子、矢田部恵、 <u>屋代 隆</u> 、菊地元史:ラット成体の下垂体におけるNotch受容体遺伝子の発現. 第117回日本解剖学会総会・全国学術集会 (山梨県甲府市) 2012年3月26日～28日
B 94	塚田岳大、Dini Ramadhani、Depicha Jindatip、幸喜 富、 <u>屋代 隆</u> :周皮細胞のコラーゲン産生における下垂体濾胞星状細胞の役割. 第117回日本解剖学会総会・全国学術集会 (山梨県甲府市) 2012年3月26日～28日
B 95	堀口幸太郎、 <u>屋代 隆</u> :下垂体前葉における細胞外マトリックスの存在意義. 第117回日本解剖学会総会・全国学術集会 (山梨県甲府市) 2012年3月26日～28日
B 96	藤原 研、Mohamad Reza、 <u>屋代 隆</u> :ラット下垂体前葉濾胞星状細胞における遺伝子発現解析によるヘパリン結合性成長因子ミッドカインの同定. 第117回日本解剖学会総会・全国学術集会 (山梨県甲府市) 2012年3月26日～28日
B 97	菊地元史、丹籐由希子、高橋小季、楠本憲司、 <u>屋代 隆</u> :ラット下垂体前葉の各種ホルモン産生細胞特異的な表面糖鎖の探索と細胞純化への応用. 内分泌ウイーク2011～第38回日本神経内分泌学会学術集会 (東京) 2011年11月23～24日
B 98	Jindatip D, Fujiwara K, Kouki T, <u>Yashiro T</u> :Electron microscopic analyses of pericytes in the rat anterior pituitary gland. 内分泌ウイーク2011～第38回日本神経内分泌学会学術集会 (東京) 2011年11月23～24日
B 99	Jindatip D, Fujiwara K, Kouki T, <u>Yashiro T</u> :「Identification of pericytes and their morphological changes in the anterior pituitary gland castrated rats」第10回自治医科大学シンポジウム (下野市) 2011年9月2日
B 100	Ilmiawati C, Horiguchi K, <u>Yashiro T</u> :Matrix 「metalloproteinase-9 is required in anterior pituitary folliculostellate cell motility and proliferation under the influence of laminin.」第10回自治医科大学シンポジウム (下野市) 2011年9月2日
B 101	矢田部恵、菊地元史、 <u>屋代 隆</u> :ラット下垂体中葉の無顆粒細胞群内にみられる佳顆粒細胞の電顕観察. 第26回日本下垂体研究会 (倉敷市) 2011年8月25日
B 102	丹籐由希子、矢田部恵、 <u>屋代 隆</u> 、菊地元史:ラット下垂体中葉に見られるS100βタンパク質性細胞. 第26回日本下垂体研究会 (倉敷市) 2011年8月25日
B 103	堀口幸太郎、 <u>Cimi Ikmiawati</u> 、 <u>屋代 隆</u> :下垂体前葉内濾胞星状細胞におけるケモカインCXCL12の発現とその機能. 第26回日本下垂体研究会 (倉敷市) 2011年8月25日
B 104	Ilmiawati C, Horiguchi K, <u>Yashiro T</u> : Laminin modulated-matrix metalloproteinase-9 expression in folliculo-stellate cell of rat anterior pituitary gland. 第26回日本下垂体研究会 (倉敷市) 2011年8月25日
B 105	Jindatip D, Fujiwara K, Kouki T, <u>Yashiro T</u> :Castration induces morphological changes of pericytes in rat anterior pituitary Gland. 第26回日本下垂体研究会 (倉敷市) 2011年8月25日
B 106	塚田岳大、Dini Ramadhani、幸喜富、Mohamad Reza、 <u>屋代 隆</u> :下垂体前葉細胞の3次元培養法を用いた細胞外マトリックス構築メカニズムの解析. 第26回日本下垂体研究会 (倉敷市) 2011年8月25日
B 107	<u>Yashiro T</u> : A new regulatory system of anterior pituitary cell function. 基調講演: Internation Symposium on A New Regulatory System of Anterior Pituitary Cell Function and Its Clinical Impact, Padan, June 14, 2011

(部門名) 神経脳生理学部門

通し番号	
------	--

C 25	高柳友紀、吉田匡秀、 <u>尾仲達史</u> ：オキシトシンによる情動・社会行動の制御. 第92回日本生理学会大会(神戸) 2015年3月21日～23日
C 26	<u>尾仲達史</u> 、吉田匡秀、高柳友紀：条件恐怖ストレスの神経内分泌反応における内側扁桃体の働き. 第92回日本生理学会大会 (神戸) 2015年3月21日～23日
C 27	<u>Onaka T</u> , Yoshida M, Takayanagi Y : Lesions of vasopressin neurons by use of vasopressin-DTR transgenic rats. Satellite meeting of ICN 2014 in Sydney“Recent and Future Trends in Neuroendocrinology-from Asia and Oceania to Global-” Sydney, August 16, 2014
C 28	高柳友紀、 <u>尾仲達史</u> ：社会的記憶の制御におけるセクレチン-オキシトシンシステムの役割. 第91回日本生理学会大会 (鹿児島) 2014年3月16日～18日
C 29	山下雅子、 <u>尾仲達史</u> 、神部芳則、草間幹夫：摂食によるオキシトシン産生ニューロンの活性化：そのメカニズムと機能に関する研究. 第58回日本口腔外科学会総会・学術大会 (福岡) 2013年10月11日～13日
C 30	<u>Onaka T</u> , Takayanagi Y, Yoshida M : Stress and energy metabolisms: roles of PrRP and oxytocin. The 36th Naito Conference on“Molecular Aspects of Energy Balance and Feeding Behavior”Sapporo, Japan, September 10-13, 2013
C 31	Yoshida M, Takayanagi Y, <u>Onaka T</u> : The medial amygdala-medullary prolactin-releasing peptide neuron pathway mediates neuroendocrine responses to conditioned fear stimuli. 10th World Congress on Neurohophysial Hormones(WCNH2013), Bristol, England, July 15-19, 2013
C 32	Tovin V, Knobloch S, Grinevich V, <u>Onaka T</u> , Leng G, Ludwig M: Immunohistochemical characterisation of vasopressin neurons in the retina which project to the suprachiasmatic nucleus in rats. 10th World Congress on Neurohophysial Hormones(WCNH2013), Bristol, England, July 15-19, 2013
C 33	Tovin V, Tsuji T, Knobloch S, <u>Onaka T</u> , Grinevich V, Leng G, Ludwig M: Characterisation of vasopressin neurons in the retina which project to the suprachiasmatic nucleus in rats. 10th World Congress on Neurohophysial Hormones(WCNH2013), Bristol, England, July 15-19, 2013
C 34	<u>尾仲達史</u> ：ストレス・摂食、そして社会行動-最近注目されるオキシトシンの働き. 第54回日本心身医学会総会ならびに学術講演会 (横浜) 2013年6月26～27日
C 35	吉田匡秀、高柳友紀、 <u>尾仲達史</u> ：恐怖記憶の想起による神経内分泌反応には内側扁桃体 - 延髄PrRP産生ニューロン経路が関与する. 第36回日本神経科学大会 (Neuro2013) (京都) 2013年6月20～24日
C 36	高柳友紀、山下雅子、草間幹夫、 <u>尾仲達史</u> ：エネルギー代謝とストレスにおけるPrRP-オキシトシン系の働き. 第39回日本神経内分泌学会学術集会 (北九州、福岡) 2012年9月28～29日
C 37	池田啓子、佐竹伸一郎、 <u>尾仲達史</u> 、竹田直樹、井本敬二、川上潔：DYT12モデルマウスの小脳抑制系神経伝達の変化. 第35回日本神経科学大会 (Neuro2012) (名古屋) 2012年9月18～21日
C 38	高柳友紀、山下雅子、草間幹夫、 <u>尾仲達史</u> ：PrRP-オキシトシン系による摂食調節. 第89回日本生理学会大会 (松本) 2012年3月29～31日
C 39	<u>尾仲達史</u> 、高柳友紀、吉田匡秀：摂食とストレスと社会記憶におけるオキシトシンの働き. 第117回日本解剖学会総会・全国学術集会 (山梨) 2012年3月26～28日
C 40	<u>Onaka T</u> : Roles of oxytocin and vasopressin in the control of social behavior. Satellite symposium of the 7th Asia and Oceania Society for Comparative Endocrinology (AOSCE) Congress, Penang, Malaysia, March 8-9, 2012

C 41	<u>Onaka T</u> , Takayanagi Y, Yoshida M: Stress, energy metabolism and social behaviour: Roles of Neurohypophysial Hormones. The 9th World Congress on Neurohypophysial Hormones (WCNH 2011), Boston, USA, July 27-30, 2011
C 42	Katoh A, Fujihara H, Ohbuchi T, <u>Onaka T</u> , Hashimoto T, Kawata M, Suzuki H, and Ueta Y: Highly visible expression of an oxytocin-monomeric red fluorescent protein 1 fusion gene in the hypothalamus and posterior pituitary of transgenic rats. The 9th World Congress on Neurohypophysial Hormones (WCNH 2011), Boston, USA, July 27-30, 2011
C 43	Ludwig M, Tobin VA, Hashimoto H, Wacker DW, Bishop VR, Duszkievicz AJ, Takayanagi Y, Langnaese K, Caquineau C, Noack J, Landgraf R, Meddle SL, Leng G, <u>Onaka T</u> , Engelmann M: Recognising 'significant others' by smell; the role of vasopressin in the olfactory system. The 9th World Congress on Neurohypophysial Hormones (WCNH 2011), Boston, USA, July 27-30, 2011
C 44	Takayanagi Y, Takashima A, <u>Onaka T</u> : Roles of oxytocin in the control of social recognition following secretin administration. The 9th World Congress on Neurohypophysial Hormones (WCNH 2011), Boston, USA, July 27-30, 2011
C 45	Wang Y, Takayanagi Y, <u>Onaka T</u> : Effects of medial amygdala lesions upon social behaviour in mice. The 3rd International Conference on Cognitive Neurodynamics (ICCN 2011), Hokkaido, Japan, June 9-13, 2011
C 46	尾仲達史、高柳友紀：PrRPの抗肥満と抗加齢作用の研究。第11回日本抗加齢医学会総会（京都）2011年5月27～29日
C 47	尾仲達史：ストレス反応と下垂体後葉ホルモン。第22回日本臨床モニター学会総会（東京）2011年4月22～23日

(部門名) 臨床薬理学部門

通し番号	
D 33	Ushijima K, Noguchi T, Tsuchiya T, Hayasaka J, Arakawa Y, Mori Y, <u>Fujimura A</u> : Clinical trial of chrono-chemotherapy with docetaxel, cisplatin and 5-fluorouracil: influence of dosing-schedule on chemotherapy-induced toxicities. American Society for Clinical Pharmacology and Therapeutics 2016 Annual Meeting, San Diego, USA, March 8-12, 2016
D 34	鈴木智理、牛島健太郎、安藤仁、堀口道子、山下親正、 <u>藤村昭夫</u> ：脂肪組織における時計遺伝子DBPを介したインスリン抵抗性改善の機序解明。第9回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（千葉）2015年11月7日～8日
D 35	<u>藤村昭夫</u> ：時間治療。第21回日本時間生物学会学術大会（福岡）2014年11月8～9日
D 36	Fujiwara Y, Ando H, Horiguchi M, Yamashita C, <u>Fujimura A</u> ：第X因子活性には日内リズムを認める。第21回日本時間生物学会学術大会（福岡）2014年11月8～9日
D 37	<u>Fujimura A</u> , Ushijima K, Nakashima H, Shiga T, Harada K, Ishikawa S, Ioka T, Ando H: Chronotherapeutic approach in valsartan-treated hypertensive patients with non-dipper blood-pressure rhythm. Joint Meeting of the European Society of Hypertension and International Society of Hypertension, Athens, Greece, June 13-16, 2014
D 38	安藤 仁、 <u>藤村昭夫</u> ：マウスでは肝の体内時計が暁現象を規定する。第87回日本内分泌学会学術総会（福岡）2014年4月24～26日
D 39	安藤 仁、 <u>藤村昭夫</u> ：体内時計障害と糖尿病。第20回日本時間生物学会学術大会（大阪）2013年11月9～10日
D 40	牛島健太郎、安藤 仁、 <u>藤村昭夫</u> ：体内時計と高血圧。第20回日本時間生物学会学術大会（大阪）2013年11月9～10日

D41	Ushijima K, Ando H, <u>Fujimura A</u> : Comparison of effect of raloxifene on the coagulation and fibrinolytic systems between morning and evening dosing regimens in post-menopausal women with osteoporosis. 11th Congress of the European Association for Clinical Pharmacology and Therapeutics, Geneva, Switzerland, August 28-31, 2013
D42	Ioka Y, Ushijima K, Ioka T, Noguchi T, Jinbu Y, Kusama M, <u>Fujimura A</u> : Chronotherapy with docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil (5-FU) in patients with oral squamous cell carcinoma. 11th Congress of the European Association for Clinical Pharmacology and Therapeutics, Geneva, Switzerland, August 28-31, 2013
*D43	安藤仁、牛島健太郎、 <u>藤村昭夫</u> ：体内時計におよぼすExendin-4の影響。第56回日本糖尿病学会年次学術集会(熊本) 2013年5月16日～18日
D44	牛島健太郎、安藤仁、 <u>藤村昭夫</u> ：循環器系薬物の時間治療。日本薬学会第133年会(横浜) 2013年3月27～30日
*D45	安藤仁、牛島健太郎、 <u>藤村昭夫</u> ：体内時計におよぼすエキセナチドの影響。第19回日本時間生物学会学術大会(札幌) 2012年9月15～16日
*D46	小林(石川) 瑛子、牛島健太郎、詫磨正史、安藤仁、 <u>藤村昭夫</u> ：HDAC阻害薬のインスリン抵抗性改善作用における時計遺伝子の関与。第19回日本時間生物学会学術大会(札幌) 2012年9月15～16日
D47	牛島健太郎、小柳悟、緒方貴洸、松永直哉、大戸茂弘、 <u>藤村昭夫</u> ：Activating transcription factor-4によるマウスセロトニントランスポーター発現リズムの制御。薬学会第132年会(札幌) 2012年3月28～31日
D48	詫磨正史、牛島健太郎、石川瑛子、安藤仁、 <u>藤村昭夫</u> ：ダイオキシン類による糖代謝異常モデルマウスの作成。第55回日本薬学会関東支部大会(船橋) 2011年10月8日

(部門名) 機能生化学部門

通し番号	
F 12	笠嶋克巳、 <u>遠藤仁司</u> ：ミトコンドリア内におけるTFAM間相互作用に必要なドメインの同定。第87回日本生化学会年会、京都、2014年10月15-18日
F 13	益子貴史、坂下英司、笠嶋克巳、富永薫、松浦徹、 <u>遠藤仁司</u> ：発生段階特異的RNA結合蛋白質Drb1の細胞内局在と細胞質凝集体形成能の解析 第16回日本RNA学会年会、愛知県名古屋市、2014年7月23日～25日
F 14	長尾恭光、戸塚義和、堀井拓郎、守谷尚倫、小栗清美、畑田出穂、徳永智也、花園豊、國田智、今井裕、 <u>遠藤仁司</u> ：インジェクション法によるMus spretusテトラプロイドキメラマウスの作製。第61回日本実験動物学会総会、札幌、平成26年5月15日～17日
F 15	坂下英司、笠嶋克巳、 <u>遠藤仁司</u> ：F1 $\gamma$ の酸性pH誘導による選択的スプライシング調節 第15回日本RNA学会年会、愛媛県松山市、2013年7月24日～26日
F 16	益子貴史、坂下英司、笠嶋克巳、 <u>遠藤仁司</u> ：発生段階特異的 RNA 結合蛋白質 Drb1の細胞内局在性の解析 第15回日本RNA学会年会、愛媛県松山市、2013年7月24日～26日
F 17	笠嶋克巳、富永薫、 <u>遠藤仁司</u> ：TFAMによるミトコンドリアゲノム分配機構の解析。第86回日本生化学会年会、横浜、2013年9月11-13日
F 18	Kasashima K., Sumitani M., and <u>Endo H.</u> Molecular mechanism of TFAM-regulated mitochondrial DNA/nucleoid distribution. The 4th International Symposium on Dynamics of Mitochondria, Okinawa, Japan, October 28 – November 1, 2013

F 19	長尾恭光、堀居拓郎、太田恵理子、小薬清美、笠嶋克己、畑田出穂、徳永智也、今井裕、國田智、 <u>遠藤仁司</u> ：培養時間とマウス精子ミトコンドリアDNA量の関係 第60回日本実験動物学会総会、筑波、2013年5月15～17日
F 20	坂下英司、 <u>遠藤仁司</u> ：紫外線照射により核内再分配されるSR蛋白質の動態解析 第85回日本生化学会大会（福岡）2012年12月14日～16日
F 21	笠嶋克己、 <u>遠藤仁司</u> ：Human ClpX regulates the distribution of mitochondrial DNA through TFAM function. 第35回日本分子生物学会年会（福岡）2012年12月11-14日
F 22	笠嶋克己、 <u>遠藤仁司</u> ：ミトコンドリアシャペロンClpXによるTFAM調節機構の解析 第12回日本ミトコンドリア学会年会（つくば）2012年12月19-21日
F 23	黒岩憲二、中島充博、 <u>遠藤仁司</u> 、新井孝夫：Thy-1による神経突起伸展およびT細胞凝集を調節するモノクローナル抗体のエピトープ同定、第35回日本分子生物学会年会（福岡）2012年12月11日～14日
F 24	<u>遠藤仁司</u> 、長尾恭光、笠嶋克己：生殖細胞とミトコンドリア 第30回日本受精着床学会（大阪）2012年8月30～31日
F 25	Kasashima K, Sumitani M, <u>Endo H</u> : Mitochondrial function of AAA+ protein ClpX as a mitochondrial nucleoid factor. The 8th Conference of Asian Society for Mitochondrial Research and Medicine and The 11th Conference of Japanese Society of Mitochondrial Research and Medicine, Kagoshima, Japan, Aug 31- Sep 4, 2011
F 26	Kasashima K, <u>Endo H</u> : Oligomeric formation of human TFAM, a diverse regulator of mitochondrial DNA. 第34回日本分子生物学会年会（横浜）2011年12月13-16日
F 27	中村謙一、太田恵理子、黒岩憲二、 <u>遠藤仁司</u> ：加齢性難聴モザイクマウスを用いた内耳蝸牛プロテオーム解析。日本プロテオーム学会年会（新潟）2011年7月28-29日
F 28	中村謙一、太田恵理子、黒岩憲二、 <u>遠藤仁司</u> ：内耳蝸牛プロテオーム解析による加齢性難聴関連タンパク質の同定。日本生化学会年会（京都）2011年9月21-24日
F 29	<u>遠藤仁司</u> ：ミトコンドリアと健康～ミトコンドリアのプロテオーム研究から～。第26回KSS健康フォーラム（東京）2011年10月5日

(部門名) 循環器内科学部門

通し番号	
G190	<u>荻尾七臣</u> :Late breaking clinical trials / Cohort studies II (A); 不整脈・高血圧 6. Nocturnal hypertension detected by home blood pressure monitoring as a novel independent risk predictor of cardiovascular events; the J-HOP study. The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, March 18-20, 2016
G191	<u>Kario K</u> : “The insight of hypertension management in Asia: our Japanese experience, potential pitfalls and the practical solutions” 2016 Hypertension Master Class; optimizing the blood pressure control in Asia perception, Taiwan Society of Cardiology, Taiwan, March 5-6, 2016
G192	<u>Kario K</u> : Symposium on preventive medicine and hypertension controversial issues in the management of hypertension. “Morning HTN: Is it a true hazard?” 2015 Taiwan Society of Cardiology Winter Scientific Meeting; Scientific Sessions, Taiwan, December 11-13th, 2015
G193	<u>荻尾七臣</u> : ランチョンセミナー3; ITを活用した夜間家庭血圧計の開発と臨床応用. 第38回日本高血圧学会総会(愛媛)、2015年10月9～11日

G194	荻尾七臣: 日中韓シンポジウム 2. Focusing Recent Evidences; Evidence and Perspective in Home BP Monitoring - Development of New IT-based Home BP Monitoring from Morning to Nocturnal Hypertension. 第38回日本高血圧学会総会(愛媛)、2015年10月9~11日
G195	荻尾七臣: シンポジウム17: 高血圧治療の最前線; 高血圧の時間医療: 日内変動と投薬計画. 第38回日本高血圧学会総会(愛媛)、2015年10月9~11日
G196	荻尾七臣: シンポジウム11: 血圧変動異常とその関連病態. 血圧変動異常: 最近のTOPICS-循環器疾患トリガーとしての血圧サージ共振仮説. 第63回日本心臓病学会学術集会(横浜) 2015年9月18~20日
G197	<u>Kario K</u> : Plenary Session: "The relationship between circadian BP rhythm and cardiovascular risk – Revisit the evidences and update on treatments". The Annual Scientific Meeting of Taiwan Society of Lipids & Atherosclerosis 2015 and The 15th Taipei International Vascular Biology Symposium, Taipei, 12-13th September, 2015
G198	<u>Kario K</u> : Hypertension forum, Session 6: Management of morning hypertension in community. "Management of morning hypertension in Japan". The 17th National conference of Chinese Society of Cardiology (CSC) and the 9th Oriental Congress of Cardiology (OCC), Shanghai, China, 10-13th September, 2015
G199	<u>Kario K</u> , Konradi A, McManus R: Discussant: Meet the Experts; Challenges in hypertension. The "morning surge" in blood pressure – Panel discussion and questions from the audience. European Society of Cardiology Congress 2015, London, UK, August 29 – September 2, 2015
G200	<u>Kario K</u> : Meet the Experts; Challenges in hypertension. The "morning surge" in blood pressure. European Society of Cardiology Congress 2015, London, UK, August 29 – September 2, 2015
G201	Hoshide S, <u>Kario K</u> , Yano Y, Haimoto H, Yamagiwa K, Uchiba K, Nagasaka S, Matsui Y, Nakamura A, Fukutomi M, Eguchi K, Ishikawa J: Late-breakers: Session 3. Morning hypertension is an important risk for stroke in Asian population: from J-HOP study. 25th European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection, Milan, Italy, June 12-15, 2015
G202	Hoshide S, Matsui Y, Shibasaki S, Eguchi K, Ishikawa J, Ishikawa S, Kabutoya T, <u>Kario K</u> .: Association between abnormal orthostatic blood pressure change and day-to-day blood pressure variability. 25th European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection, Milan, Italy, June 12-15, 2015
G203	Saito I, <u>Kario K</u> , Kushiro T, Teramukai S, Yaginuma M, Mori Y, Okuda Y, Shimada K: Posters' session 31: Blood pressure measurement and variability. Prognostic value of first, second and a difference between first and second on-treatment home blood pressure measurements. 25th European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection, Milan, Italy, June 12-15, 2015
G204	Kuwabara M, Hoshide S, Hamasaki H, <u>Kario K</u> : Parallel oral session 6A: Blood pressure measurement. Reproducibility of nocturnal blood pressure in sleep apnoea syndrome. 25th European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection, Milan, Italy, June 12-15, 2015.
G205	Nishizawa M, Hoshide S, Okawara Y, Shimpo M, Matsuo T, <u>Kario K</u> : Posters' session 17: Blood pressure measurement and variability. Environmental changes affect circadian blood pressure variability caused by emotional stress even a few years after the earthquake. Follow-up of the great east Japan earthquake. 25th European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection, Milan, Italy, June 12-15, 2015.
G206	<u>Kario K</u> : ESH working group on blood pressure monitoring and cardiovascular variability. Debated issues in the field of BP monitoring. Debate 1-What is the prognostic relevance of morning blood pressure surge? Morning surge has more prognostic value than the dipping pattern. 25th European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection, Milan, Italy, June 12-15, 2015.



G207	<u>Kario K</u> : Minisymposium: 24-hr blood pressure management from morning to nocturnal hypertension. Research and development of IT-based home BP monitoring from morning to nocturnal hypertension. 25th European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection, Milan, Italy, June 12-15, 2015.
G208	<u>Kario K</u> , Saito I, Kushiro T, Teramukai S, Tomono Y, Okuda Y, Shimada K: Late-breakers: Session 1. Morning home blood pressure is a strong predictor of coronary artery disease events as well as stroke events in hypertensive patients on antihypertensive treatment. The HONEST study. 25th European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection, Milan, Italy, June 12-15, 2015.
G209	荻尾七臣:アフタヌーンセミナー1:高血圧と睡眠;夜間高血圧Up to Date. 第4回臨床高血圧フォーラム(福岡)、2015年5月23~24日
G210	荻尾七臣:ランチョンセミナー5;パーフェクト24時間血圧コントロールUp-to-date –新しい概念SHATSを考える–. 第4回臨床高血圧フォーラム(福岡)、2015年5月23~24日
G211	<u>Kario K</u> : COCONET Satellite Symposium: BP Behaviors Session. Nocturnal hypertension and morning surge. The 10th Anniversary of Annual Symposium of the Korean Vascular Research Working Group, Seoul, Korea, March 6-7, 2015
G212	<u>Kario K</u> : Presidential lecture: Special lecture: Concept of systemic hemodynamic atherothrombotic syndrome (SHATS) and evidence. The 10th Anniversary of Annual Symposium of the Korean Vascular Research Working Group, Seoul, Korea, March 6-7, 2015
G213	荻尾七臣:血圧日内変動を考慮した24時間にわたる降圧療法の重要性;パーフェクト24時間血圧コントロールへ向けた家庭血圧の重要性. 2014年度第5回日本循環器学会プレスセミナー(東京)、2015年1月16日
G214	<u>Kario K</u> : What's new of 2015 Taiwan Hypertension Guidelines? "BP variability and Japanese hypertension guidelines". Taiwan Hypertension Society annual meeting, Taiwan, December 14, 2014.
G215	<u>Kario K</u> : Hypertension expert meeting; "BP circadian rhythm and HTN guideline in Japan". The 58th Annual Scientific Meeting of the Korean Society of Cardiology, Goyang, Korea, November 28-29, 2014.
G216	<u>Kario K</u> : Meet the expert (Hypertension); "Blood pressure variability". The 58th Annual Scientific Meeting of the Korean Society of Cardiology, Goyang, Korea, November 28-29, 2014.
G217	<u>Kario K</u> : Scientific Session 3(Daewoong and Daiichi Sankyo); Adherence helps reaching target goal"HONEST study in real world hypertension management". The 58th Annual Scientific Meeting of the Korean Society of Cardiology, Goyang, Korea, November 28-29, 2014.
G218	<u>Kario K</u> : Hypertension; Clinical trial design and research technology on hypertension "Researchers with diverse BP behaviors". The 58th Annual Scientific Meeting of the Korean Society of Cardiology, Goyang, Korea, November 28-29, 2014.
G219	Oba Y, Kabutoya T, Hoshide S, Eguchi K, <u>Kario K</u> : Oral: Hypertension: Clinical Nondipping Pulse Rate was Associated with a High Level of Brain Natriuretic Peptide in Treated Hypertensive Patients. American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, November 15-19, 2014
G220	<u>Kario K</u> , Hoshide S: Poster: Hypertension; Circadian Rhythm. Age-Related Difference in Sleep Pressure Lowering Effect Between Angiotensin II Receptor Blocker and Calcium Channel Blocker in Asian Hypertensives: ACS-1 Study. American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, November 15-19, 2014
G221	Nijima S, Nagai M, Hoshide S, Takahashi M, Shimpo M, <u>Kario K</u> : Poster: Hypertension; Circadian Rhythm. Long Sleep Duration and Low-Grade Inflammation: New Indicators of Arterial Stiffness in the Japanese at High-risk of Cardiovascular Disease. American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, November 15-19, 2014

G222	Nagai M, Niijima S, Hoshide S, Takahashi M, Shimpo M, Kario K: Poster: Hypertension; Circadian Rhythm. Long Sleep Duration and B-Type Natriuretic Peptide: Determinants of Left Ventricular Mass Index in the Japanese at High-Risk of Cardiovascular Disease. American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, November 15-19, 2014
G223	<u>Kario K</u> , Rakugi H, Yamaguchi M, Okino N, Gotou H, Zhang J: Poster: Hypertension; Circadian Rhythm. LCZ696, an Angiotensin Receptor Neprilysin Inhibitor, Provides Superior 24-hour Blood Pressure Reduction than Olmesartan in Japanese Patients with Systolic Hypertension. American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, November 15-19, 2014
G224	Watanabe H, Kabutoya T, Hoshide S, Eguchi K, <u>Kario K</u> : Poster: Hypertension: Circadian Rhythm. Characteristics of Diurnal Change of Pulse Rate in Resistant Hypertension. American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, November 15-19, 2014
G225	<u>蒔尾七臣</u> 、齊藤郁夫、久代登志男、手良向聡、近田修一、山之内直樹、島田和幸：口演<Late-Breaking Clinical Trials>Real-worldにおける降圧治療下の家庭血圧と心血管系イベントの関連の検討：大規模前向き観察研究HONEST study. 第37回日本高血圧学会総会（横浜）、2014年10月17～19日
G226	<u>蒔尾七臣</u> ：ランチョンセミナー15；プレ口演ABPMの最新治療方針（ガイドライン）。第37回日本高血圧学会総会（横浜）、2014年10月17～19日
G227	<u>蒔尾七臣</u> ：アフタヌーンセミナー6；パーフェクト24時間血圧コントロール－血圧変動を踏まえて。第37回日本高血圧学会総会（横浜）、2014年10月17～19日
G228	<u>蒔尾七臣</u> ：ワークショップ4；高血圧と時間医学：睡眠、サーカディアンリズム、時計遺伝子；夜間高血圧Up-to-Date. 第37回日本高血圧学会総会（横浜）、2014年10月17～19日
G229	<u>Kario K</u> : China-Japan-Korea joint symposium: “Home & ambulatory BP”. 2014 Chinese Hypertension Meeting, Shanghai, China, September 11-14, 2014
G230	<u>Kario K</u> : Blood pressure measurement: “Isolated home nocturnal hypertension: sleep BP measurement in the J-HOP study”. 2014 Chinese Hypertension Meeting, Shanghai, China, September 11-14, 2014
G231	<u>蒔尾七臣</u> ：ランチョンセミナー1；「血圧変動とSHATS」。第35回日本循環制御医学会総会（福岡）、2014年7月4、5日
G232	<u>Kario K</u> , I. Saito I, Kushiro T, Teramukai S, Ishikawa Y, Mori Y, Kobayashi F, Shimada K: Late-Breakers: Session 3. “Home blood pressure and cardiovascular outcomes in patients receiving antihypertensive drug therapy: a large-scale prospective observational study in a real-world setting”. Joint meeting ESH-ISH, Hypertension Athens 2014, Athens, Greece, June 13-16, 2014
G233	<u>Kario K</u> , Tamaki Y, Kim H, Gotou H, Zhu M, Zhang J: Parallel Oral Session 6D: New therapeutic developments and peripheral vascular disease. “LCZ696, a novel angiotensin receptor neprilysin inhibitor: the first trial in patients with severe hypertension”. Joint meeting ESH-ISH, Hypertension Athens 2014, Athens, Greece, June 13-16, 2014
G234	Roush G, De La Sierra A, Fagard RH, Salles G, Pierdomenico S, Reboldi G, Verdecchia P, Eguchi K, <u>Kario K</u> , Polonia J, Hermida R, Dolan E, Fapohunda J: Parallel Oral Session 5A: Blood pressure measurement. “Prognostic impact of a gender –ambulatory blood pressure interaction in 10 cohorts of 17,312 patients diagnosed with hypertension. Systematic review and meta-analysis”. Joint meeting ESH-ISH, Hypertension Athens 2014, Athens, Greece, June 13-16, 2014
G235	<u>Kario K</u> : ESH Working Group on Blood pressure monitoring and cardiovascular variability Blood pressure monitoring: questions still in need of an answer. “Morning blood pressure surge and orthostatic hypertension: different sides of the same coin?”. Joint meeting ESH-ISH, Hypertension Athens 2014, Athens, Greece, June 13-16, 2014

G236	Palatini P, Reboldi G, Beilin L, Eguchi K, Imai Y, <u>Kario K</u> , Ohkubo T, Pierdomenico S, Schwartz J, Wing L, Verdecchia P: Parallel Oral Session 1D: Blood Pressure Measurement. “Predictive capacity of ambulatory versus clinic blood pressure in the obese and non-obese participants of the ABP-International study”. Joint meeting ESH-ISH, Hypertension Athens 2014, Athens, Greece, June 13-16, 2014
G237	Palatini P, Reboldi G, Beilin L, Eguchi K, Imai Y, <u>Kario K</u> , Ohkubo T, Pierdomenico S, Schwartz J, Wing L, Verdecchia P: Parallel Oral Session 1D: Blood Pressure Measurement. “Predictive capacity of ambulatory versus clinic blood pressure in the obese and non-obese participants of the ABP-International study”.
G238	Roush G, Fagard RH, Salles G, Pierdomenico S, Reboldi G, Verdecchia P, Eguchi K, <u>Kario K</u> , Polonia J, De la Sierra A, Hermida R: Parallel Oral Session 1D: Blood Pressure Measurement. Joint meeting ESH-ISH, Hypertension Athens 2014, Athens, Greece, June 13-16, 2014. “Prognostic impact of clinic, daytime, and nighttime systolic blood pressure in 9 cohorts of 13,844 patients with hypertension: systematic review and meta-analysis”.
G239	<u>Kario K</u> : Session III: Artery (the Association for Research into Arterial Structure and Physiology in Europe). “Arterial aging in hypertension” “What is the “SHATS” – Vicious cycle of blood pressure variability and vascular disease on organ damage”. The Pulse of Asia 2014, Athens, Greece, June 12-13, 2014
G240	荻尾七臣: フィーチャリングセッション2: 血圧変動と臓器障害(血管障害); 心血管リスクを加速するSHATS – 夜間高血圧を中心に. 第14回臨床血圧脈波研究会(東京)、2014年6月7日
G241	<u>Kario K</u> : Session 6: What’s the SHATS (Systemic Hemodynamic Atherothrombotic Syndrome) ? – Clinical implication of blood pressure variability - The 8th Oriental Congress of Cardiology, Hypertension Forum, Shanghai, China, May 30-31, 2014
G242	<u>Kario K</u> : Session 1: The essentials of the new guideline of Japanese Society of Hypertension (JSH2014) – Let’s make “Asian Guideline” together The 8th Oriental Congress of Cardiology, Hypertension Forum, Shanghai, China, May 30-31, 2014
G243	荻尾七臣: アフタヌーンセミナー1: AS-1 高血圧の心血管リスクを加速するSHATS. 第3回臨床高血圧フォーラム(広島)、2014年5月24～25日
G244	荻尾七臣: ランチョンセミナー2: LS-2 血圧変動性を考慮した高血圧治療Up To Date. 第3回臨床高血圧フォーラム(広島)、2014年5月24～25日
G245	Ishikawa J, Ishikawa S, <u>Kario K</u> : Posters: Prolonged QTc interval predicts future stroke events in subjects without electrocardiogram left ventricular hypertrophy. American society of hypertension 2014 annual scientific meeting and exposition, New york, USA, May 16-20, 2014
G246	<u>Kario K</u> , Gotou H, Zhang Y, Zappe D, Zhang J: Posters: Blood pressure-lowering efficacy of LCZ696 in non-dipper patients with hypertension. American society of hypertension 2014 annual scientific meeting and exposition, New york, USA, May 16-20, 2014
G247	Eguchi K, Hoshide S, Nagasaka S, <u>Kario K</u> : Posters: Target home BP in type 2 diabetes could be the same as non-diabetes - the J-HOP study. American society of hypertension 2014 annual scientific meeting and exposition, New york, USA, May 16-20, 2014
G248	Roush G, Fagard R, Salles G, Pierdomenico S, Reboldi G, Verdecchia P, Eguchi K, <u>Kario K</u> , Polonia J, Sierra A, Hermida R, Dolan E, Zamalloa H: Posters: Prognostic impact of clinic, daytime, and nighttime systolic blood pressure in 9 cohorts of 13,843 patients with hypertension: Systematic review and meta-analysis. American society of hypertension 2014 annual scientific meeting and exposition, New york, USA, May 16-20, 2014
G249	<u>Kario K</u> : Sessions: Blood Pressure Monitoring on the Go. Now you don't see it, then you do (masked hypertension) American society of hypertension 2014 annual scientific meeting and exposition, New york, USA, May 16-20, 2014

G250	<u>Kario K</u> : Blood pressure variability and morning surge in blood pressure. -The concept of systemic haemodynamic atherothrombotic syndrome (SHATS) - Taiwan society of cardiology 2014 annual meeting, Taiwan, May 14-17, 2014
G251	<u>Kario K</u> : Luncheon Seminar 4. Asian perspective on 24-hr blood pressure control on cardiovascular disease The 18th International Vascular Biology Meeting, Kyoto, April 14-17, 2014
G252	<u>荻尾七臣</u> : Poster Session (English); Hypertension (Clinical) 2: Effects of L/N-type calcium channel blocker on the new concept of morning surge in hypertensive patients: results from the ACHIEVE-ONE. 第78回日本循環器学会学術集会(東京)、2014年3月21~23日
G253	<u>Kario K</u> : Chair: Plenary Session 4: Metabolism. The 5th International conference on fixed combination in the treatment of hypertension, dyslipidemia and diabetes mellitus, Bangkok, Thailand, November 21-24, 2013
G254	<u>Kario K</u> : Plenary Session 9: 24 hour blood pressure monitoring and fixed combination treatment. “Development of web-based home sleep blood pressure monitoring for combination therapy in Asia”. The 5th International conference on fixed combination in the treatment of hypertension, dyslipidemia and diabetes mellitus, Bangkok, Thailand, November 21-24, 2013
G255	<u>Kario K</u> : Plenary Session 6: Asian perspectives for management of hypertension. “Combination for perfect 24-hr blood pressure control: Asian perspectives”. The 5th International conference on fixed combination in the treatment of hypertension, dyslipidemia and diabetes mellitus, Bangkok, Thailand, November 21-24, 2013
G256	Hoshide S, <u>Kario K</u> , Eguchi K, Ishikawa J, Yano Y, Fukutomi M, Nagai M: Poster Session : Hypertension: Clinical – Gender, kidney, sleep, the elderly and blood pressure. Association of morning and evening blood pressure at home with target organ damage in the J-HOP study. American Heart Association, Scientific Sessions 2013, Dallas, Texas, November 16-20, 2013
G257	Nagai M, Hoshide S, Shimpo M, <u>Kario K</u> : Poster Session : Hypertension: Clinical – Gender, kidney, sleep, the elderly and blood pressure “Sleep duration, kidney function, and their effects on silent cerebral injury in the elderly hypertensives”. American Heart Association, Scientific Sessions 2013, Dallas, Texas, November 16-20, 2013
G258	<u>Kario K</u> , Haimoto H, Yamagiwa K, Uchiba K, Nagasaka S, Yano Y, Eguchi K, Matsui Y, Shimizu M, Ishikawa J, Ishikawa S, Hoshide S; J-HOP study group. Oral Session: Hypertension: Clinical - Novel classification, assessment and treatment of essential hypertension “Sleep blood pressure self-measured at home as independent determinant of target organ damage: the Japan Morning Surge Home Blood Pressure (J-HOP) study”. American Heart Association, Scientific Sessions 2013, Dallas, Texas, November 16-20, 2013
G259	Shimpo M, Kuwabara M, Hoshide S, Nagai M, <u>Kario K</u> : Poster Session : Hypertension: Clinical - Drug treatment, measurement and blood pressure “Effects of nighttime single-dose administration of vasodilating vs. sympatholytic antihypertensives on sleep blood pressure in hypertensives with sleep apnea syndrome –a crossover study-”. American Heart Association, Scientific Sessions 2013, Dallas, Texas, November 16-20, 2013
G260	Hoshide S, Yano Y, Fukutomi M, Nagai M, Ishikawa J, Eguchi K, Shimpo M, <u>Kario K</u> : Poster Session : Demographic and physiological RFs “Addition of home blood pressure measurement and biomarkers for the detection of concentric hypertrophy”. American Heart Association, Scientific Sessions 2013, Dallas, Texas, November 16-20, 2013
G261	Nagai M, Hoshide S, Nishikawa M, Shimpo M, <u>Kario K</u> : Poster Session: Hypertension: Clinical - Blood vessels, aldosterone and blood pressure “Visit-to-visit blood pressure variability and progression of carotid artery remodeling: A 4-year follow up study”. American Heart Association, Scientific Sessions 2013, Dallas, Texas, November 16-20, 2013
G262	Komori T, Eguchi K, Kabutoya T, Ishikawa J, Hoshide S, <u>Kario K</u> : Poster Session : Hypertension: Clinical - Heart, oxygen and blood pressure “Left ventricular diastolic function evaluated by the E/e’ ratio is impaired in patients with masked uncontrolled hypertension”. American Heart Association, Scientific Sessions 2013, Dallas, Texas, November 16-20, 2013

G263	<u>Kario K</u> : Meet the Expert II: How do you accept recent hypertension guidelines of NOT-yours? Perspectives for Asian guideline of management of hypertension”. 2013 Fall Scientific Meeting of the Korean Society of Hypertension, Gwang-ju, Korea, November 1-2, 2013
G264	<u>Kario K</u> : Luncheon symposium IV: Conquering the hypertension and beyond. “A move towards more predictable BP behaviors; home BP & central BP.” 2013 Fall Scientific Meeting of the Korean Society of Hypertension, Gwang-ju, Korea, November 1-2, 2013
G265	<u>Kario K</u> : China-Japan-Korea Joint Symposium: Diverse BP behavior; implications and prospects. “Blood pressure variability as the promising biomarker of cardiovascular disease”. 2013 Fall Scientific Meeting of the Korean Society of Hypertension, Gwang-ju, Korea, November 1-2, 2013
G266	<u>荻尾七臣</u> : アフタヌーンセミナー2 ; パーフェクト24時間血圧コントロールUp-To-Date ~ ACHIEVE-ONEの最新成績と交感神経revised~. 第36回日本高血圧学会総会(大阪)、平成25年10月24~26日
G267	<u>荻尾七臣</u> : モーニングセミナー2 ; 治療抵抗性早朝高血圧: 病態と治療. 第36回日本高血圧学会総会(大阪)、平成25年10月24~26日
G268	<u>Kario K</u> : Satellite Symposium: Exploring new directions in the treatment of systolic hypertension: modulation of the natriuretic peptide system and the RAAS. “Clinical implication of 24-hr blood pressure control and pulse pressure reduction in management of hypertension”. European Society of Cardiology Congress 2013, Amsterdam, Netherlands, August 31 – September 4, 2013
G269	<u>荻尾七臣</u> : Luncheon Seminar 1 ; Renal Denervation and Development of New Device for Perfect 24-hr Blood Pressure Control. 26. the 35th IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (大阪) 2013年7月3~7日
G270	<u>荻尾七臣</u> : 教育セッション2: 心血管リスクとしての睡眠時無呼吸症候群の病態と治療. 第114回日本循環器学会 九州地方会(福岡)、2013年6月29日
G271	Omboni S, Mancia G, Stergiou GS, de la Sierra A, Aristizabal D, Dolan E, Head G, Kahan T, Kantola I, <u>Kario K</u> , Kawecka-Jaszcz K, Malan L, Narkiewicz K, Ohkubo T, Siègelová J, Silva E, Zhang Y, Parati G, On behalf of ARTEMIS Investigators: Parallel Oral Session 5A, Blood Pressure Measurement Determinants of dipping status in 14,143 hypertensive subjects from five continents: data from the ARTEMIS international registry. 23rd European Meeting on Hypertension & Cardiovascular Protection (ESH), Milan, June 14-17, 2013
G272	<u>Kario K</u> : Riser Pattern of Nocturnal Blood Pressure may explain Risk of Blunted Mornign Surge in Medicated Hypertensives. 23rd Europe Society of Hypertension, Milan , June 14-17, 2013
G273	Palatini P, Reboldi G, Beilin L, Eguchi K, Imai Y, <u>Kario K</u> , Ohkubo T, Pierdomenico S, Saladini S, Schwartz J, Wing L, Verdecchia P. Parallel Oral Session 3C, Blood Pressure Variability; “Night-time but not daytime blood pressure variability is a predictor of events in the ABP-international study”. 23rd European Meeting on Hypertension & Cardiovascular Protection (ESH), Milan, June 14-17, 2013
G274	<u>Kario K</u> , Hoshide S, Shimizu M, Yano Y, Eguchi K, Ishikawa J: Parallel Oral Session 9A, Blood Pressure Measurement. Clinical implication obtained from within-visit Blood Pressure Variability is to capture “true” Blood Pressure. 23rd Europe Society of Hypertension, Milan, June 14-17, 2013
G275	<u>Kario K</u> : Breakfast Workshop, Visit-to-visit Blood Pressure Variability: Methodology and Clinical Relevance. ‘How should we manage visit-to-visit blood pressure variability in practice?’ 23rd Europe Society of Hypertension, Milan , June 14-17, 2013
G276	<u>荻尾七臣</u> : フォーカスセッション : 時間の流れの中の高血圧治療 ; 時間の流れの中の高血圧治療. 第2回臨床高血圧フォーラム (東京) 、2013年5月24~25日
G277	<u>荻尾七臣</u> : シンポジウム I ; 「高血圧の先制医療」 高血圧の先制医療は血圧変動性から. 第2回臨床高血圧フォーラム(東京)、2013年5月24~25日

G278	<u>Kario K</u> : Hypertension forum: Perfect 24-hr blood pressure control for Hypertension in Asia- In the Era of renal denervation. The 7th Oriental Congress of Cardiology (OCC2013), Shanghai, May 23-26, 2013
G279	荻尾七臣：ランチョンセミナー；パーフェクト24時間血圧コントロール ACHIVE-ONEの最新成績と交感神経Up-to-Date. 第77回日本循環器学会学術集会(横浜) 2013年3月15～17日
G280	荻尾七臣：共催セミナー；循環器疾患におけるSAS診療の重要性 高血圧と睡眠時無呼吸～自治医科大学高血圧研究up-to-date～. 第77回日本循環器学会学術集会(横浜) 2013年3月15～17日
G281	<u>Kario K</u> : Poster: Associations between Awake and Asleep Home Blood Pressure and Biomarkers in the Baseline Data of the Japan Morning Surge-Home Blood Pressure (J-HOP) Vascular Study. American Heart Association 2012, Los Angeles, November 4-8, 2012
G282	荻尾七臣：特別講演；高齢者高血圧のパーフェクト24時間血圧管理. 第23回日本老年医学会東北地方会(秋田)、2012年10月13日
G283	<u>Kario K</u> : Invited Oral Presentation. Scientific Scession 28. Optimal BP: Impact of perfect 24-hr blood pressure controlling sleep and morning blood pressure in Hypertension. International society of Hypertension 2012, Sydney, September 28-October 4, 2012
G284	<u>Kario K</u> : Poster; Ambulatory morning surge - a new concept of morning surge in hypertensive patients: results from the achieve-one study. International society of Hypertension 2012, Sydney, September 28-October 4, 2012
G285	荻尾七臣：ポスター；Efficacy of LCZ696 on Office and Ambulatory Pulse Pressure: A Randomized, Double-blind, Placebo-controlled Study in Asian Hypertensive Patients. 第35回日本高血圧学会学術総会(名古屋) 2012年9月20～22日
G286	荻尾七臣：パネルディスカッション；CBは早朝投与、RA系・交感神経抑制薬は就寝時投与が望ましい. 第35回日本高血圧学会学術総会(名古屋) 2012年9月20～22日
G287	荻尾七臣：ランチョンセミナー；ハイリスク高血圧患者におけるARB合剤の使い分けパーフェクト24時間血圧コントロールに向けて. 第35回日本高血圧学会学術総会(名古屋) 2012年9月20～22日
G288	荻尾七臣：ランチョンセミナー1；血圧変動に立ち向かうパーフェクト24時間血圧コントロール. 第112回日本循環器学会九州地方会(沖縄) 2012年6月30日
G289	荻尾七臣：スポンサードシンポジウム1；メラトニン受容体アゴニストでわかったこと～ラメルテオンの最新の知見～ 「心血管疾患とサーカディアンリズム」. 日本睡眠学会第37回定期学術集会(横浜) 2012年6月28～29日
G290	荻尾七臣：ランチョンセミナー25. 心血管イベントリスクとしての血圧変動 (Variability) と降圧の“質”. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会(横浜) 2012年5月18日
G291	荻尾七臣：モーニングレクチャ16. 心血管イベントと厳密な血圧コントロール 日本人の心血管イベント抑制へのパーフェクト24時間血圧管理. 第76回日本循環器学会学術集会(福岡) 2012年3月16～18日
G292	荻尾七臣：ランチョンセミナー11. 『新しい高血圧治療の幕開け』－血圧変動に立ち向かうためのパーフェクト24時間血圧コントロールとは－. 第76回日本循環器学会学術集会(福岡) 2012年3月16～18日
G293	荻尾七臣：Meet the Expert：睡眠と生活習慣病. 第45回日本成人病学会(東京) 2012年1月14～15日
G294	荻尾七臣：ランチョンセミナー1. サーカディアンリズムと循環器疾患. 第157回日本胸部外科学会関東甲信越地方会(東京) 2011年11月12日

G295	<u>Kario K.</u> Teatime Symposium, New strategy for controlling nocturnal hypertension. World Hypertension League Regional Congress 2011, Beijing, November 3-6, 2011
G296	<u>Kario K.</u> : Symposium 13, Blood Pressure Measurement; Morning Surge in blood pressure – evidence and perspectives updated 2011. World Hypertension League Regional Congress Beijing, November 3-6, 2011
G297	荻尾七臣：高血圧Up-to Date 2：脳・心・腎各臓器の保護を目指した治療戦略 ハイリスク高血圧患者の脳・心・腎保護を目指した“パーフェクト24時間高血圧診療”。第34回日本高血圧学会総会(宇都宮) 2011年10月20～22日
G298	荻尾七臣：ランチョンセミナー21. 早朝高血圧からパーフェクトな24時間の血圧管理へ – ACHIEVE-ONEの最新成績とその臨床的意義の考察 –. 第34回日本高血圧学会総会(宇都宮) 2011年10月20～22日
G299	荻尾七臣：モーニングセミナー5. 高血圧と睡眠時無呼吸. 第34回日本高血圧学会総会(宇都宮) 2011年10月20～22日
G300	荻尾七臣：ランチョンセミナー7. 夜間血圧コントロールへの新たなアプローチ. 第34回日本高血圧学会総会(宇都宮) 2011年10月20～22日
G301	<u>Kario K.</u> : World Sleep Sponsered Symposium : Current update on the strategy for diagnosis and treatment of chronic insomnia. Importance of sleep to suppress cardiovascular events after the great East Japan Earthquake. World Sleep 2011, Kyoto, Oct. 16-20, 2011
G302	荻尾七臣：シンポジウム4. 睡眠時無呼吸症候群と心血管リスク 睡眠時無呼吸症候群と高血圧. 第59回日本心臓病学会学術集会(神戸) 2011年9月23～25日
G303	荻尾七臣：ランチョンセミナー. 血圧変動性とモーニングサージー高血圧管理の新たな視点ー. 第32回日本肥満学会(淡路) 2011年9月23～24日
G304	荻尾七臣：Luncheon Seminar 31. 心血管イベントリスクとしての血圧変動 (Variability) と降圧の“質”. 第75回日本循環器学会(横浜) 2011年8月3～4日
G305	荻尾七臣：Breakfast Seminar 2. 睡眠時無呼吸症候群の高血圧ーその特徴とパーフェクト24時間血圧管理ー. 第75回日本循環器学会(横浜) 2011年8月3～4日
G306	荻尾七臣：ランチョンセミナー. 脳卒中と血圧日内変動ーDRIへの期待ー. 第36回日本脳卒中学会総会(京都) 2011年7月30日
G307	<u>Kario K.</u> : Scientific Session:Morning surge in blood pressure-Evidence and Perspectives. ESH Working Group on Blood Pressure Monitoring. 21st European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Prevention(ESH) Milan, June17-20, 2011
G308	<u>Kario K.</u> : ABPM in Special Populations; The elderly Isolated systolic hypertension;baroreflex failure; siesta dip; sleep peculiarities; recommendations. 21st European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Prevention(ESH) Milan, June17-20, 2011
G309	<u>Kario K.</u> : Consensus Conference on Ambulatory Blood Pressure Measurement. 21st European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Prevention(ESH) Milan,June17-20, 2011
G310	<u>Kario K.</u> : Satellite symposium; Importance of effective intervention on morning surge; up-to-date clinical evidence. (Diabetes:RAS Blockade in the Real World: Clinical Lessons From Recent Trials). The 1st Asia Pacific Congress on Controversies to Consensus in Diabetes, Obesity and Hypertension (CODHy), Shanghai, June 2-5, 2011
G311	荻尾七臣：特別講演：「パーフェクト24時間血圧管理」。岩国市医師会学術講演会(山口)2011年5月19日

## (部門名) 発達医学部門

通し番号	
H23	松本歩, 稲熊裕, 楊志亮, 中野祐子, 中山一大, 坂本沙織, 神保恵理子, 杉田憲一, 岩本禎彦, 永田浩一, <u>山形崇倫</u> : TIMELESS mutation in a patient with ASD and circadian rhythm disorder. 第57回日本小児神経学会学術集会 (大阪) 2015年5月27日~5月30日
H24	<u>山形崇倫</u> , 門田 行史: シンポジウムー変貌する自閉症スペクトラム障害の医療 病態に立脚した診断から治療へー自閉症スペクトラム障害の評価: 統一した評価法の必要性. 第56回日本小児神経学会学術集会 (浜松) 2014年5月29日~5月31日
H25	松本歩, 楊志亮, 小島華林, 中山一大, 神保恵理子, 岩本禎彦, 永田浩一, <u>山形崇倫</u> : 自閉障害患者における時計関連遺伝子の変異解析. 第56回日本小児神経学会学術集会 (浜松) 2014年5月29日~5月31日
H26	楊志亮, 小島華林, 神保恵理子, <u>山形崇倫</u> , 桃井隆, 桃井真里子: 自閉性障害原因遺伝子CADM1に結合する足場タンパクMUPP1の遺伝子変異解析. 第56回日本小児神経学会学術集会 (浜松) 2014年5月29日~5月31日
H27	<u>山形崇倫</u> , 松本歩, 永田浩一: 自閉性障害の多様な遺伝学的病態とシナプス関連病変遺伝子の解析. 第55回日本小児神経学会学術集会 (大分) 2013年5月29日~6月1日
H28	Kojima K, <u>Yamagata T</u> , Saito M, Matsumoto A, Jimbo EF, Momoi MY: Secretin receptor and the associated molecular processes relevant to autism spectrum disorder. American Society of Human Genetics, 62nd annual meeting, San Francisco, November 6-10, 2012
H29	Matsumoto A, <u>Yamagata T</u> , Nozaki Y, Jimbo EF, Momoi MY.: Interstitial Deletion 12(q21.2-q21.33) in a Boy with Facial Dysmorphism and Mental Retardation. American Society of Human Genetics, 62nd Annual Meeting, San Francisco, November 6-10, 2012
H30	宮内彰彦, <u>山形崇倫</u> , 長嶋雅子, 門田行史, 福田冬季子, 森雅人, 杉江秀夫, 桃井真里子: 小児神経疾患に合併した不眠症におけるラメルテオンの効果と安全性. 第54回日本小児神経学会学術集会 (札幌) 2012年5月17日~19日

## (部門名) 子どもの心の診療科

通し番号	
I 3	牧口暁子: 当院での摂食障害クリニカルパスの有効性と今後の課題. 第56回日本児童青年精神医学会総会 (横浜) 2015年9月30日
I 4	星野美幸, 佐藤美紀子, <u>阿部隆明</u> : 児童思春期の摂食障害に対する短期入院による心理教育パス. 全国児童青年精神科医療施設協議会第43回研修会 (大阪) 2013年2月7日
I 5	佐藤美紀子, <u>阿部隆明</u> : 非定型神経性無食欲症と診断された食道アカラシアの一例. 第53回日本児童青年精神医学会総会 (東京) 2012年11月2日